

(6) F 調査区（02年度）（第158図）

遺跡東端部に位置するのがF調査区である。進入路確保等の関係で2つに分割して、西側をF-1区、東側をF-2区と設定して135平方メートルを調査した。

F調査区においても、民家や飲食店、消防分団倉庫等の跡地であるため特に擾乱が多く、建物基礎の除去後は、道路面より60cm深く下がる面より調査を開始した。

遺構面はどちらも1面のみで、F-1区においては、深く大きな擾乱が東端と西端にあり確認出来た遺構は中央部のみであった。同様にF-2区においても、東端の擾乱の影響で西側のみの調査となつたが、中・近世の遺物が確認された。遺構の標高はF-1区が0.9m、F-2区が0.85mであった。

検出した遺構は

SP…59基、SK…17基、SD…1基 の合計 77基であった。

F-1区

土坑

SK1001（第159図）

位置 G・H-66グリッド。

規模・形態等

調査区の北壁近くに位置する長軸0.99m、短軸0.78mの隅丸長方形の土坑である。深さは0.17mで逆台形の断面形態を示す。埋土は褐色砂質土の1層のみである。土師質土錘が出土している。

出土遺物（第160図）

584・585は土師質の管状土錘である。

SK1005（第161図）

位置 G-67グリッド。

規模・形態等

調査区の東北壁近く、SK1004を切る形で位置する南北に長い長軸0.82m、短軸0.55mの楕円形の土坑である。深さは0.13mで逆台形の断面形態を示す。埋土は褐色砂質土の1層のみである。瓦質羽釜が出土している。

出土遺物（第162図）

586は瓦質土器の羽釜である。口縁部外表面にヨコナデ、体部外表面には指オサエが施されている。

SK1007（第163図）

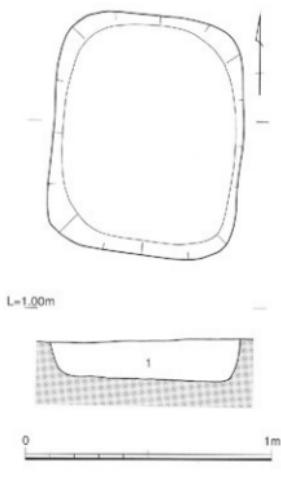
位置 G-67グリッド。

規模・形態等

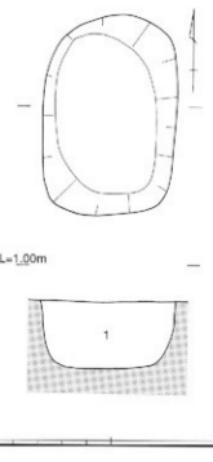
調査区のやや東に位置しSK1008に遺構中央部を切られる形の土坑である。東西に長く長軸3m、短軸1.35mの不整形である。深さは0.2mで不整形の断面形態を示す。埋土は5層である。土師質杯、皿、椀、土錘、瓦質椀、須恵質こね鉢が出土している。

出土遺物（第164図）

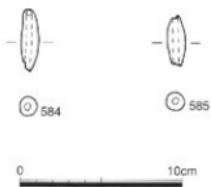
587は土師質の杯である。底部切り離し技法は回転ヘラ切りである。588は土師質の皿である。底部切



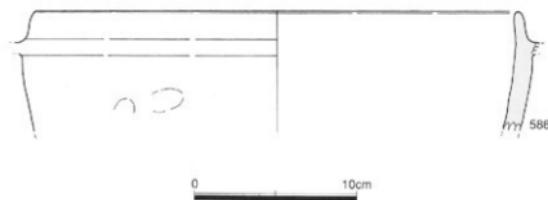
第159図 F-1区 SK1001実測図



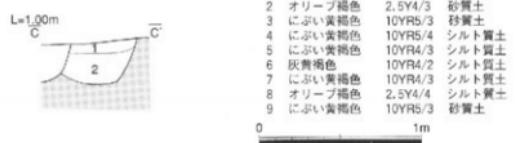
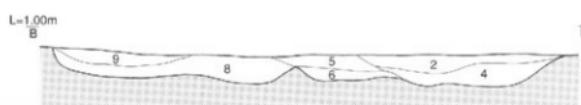
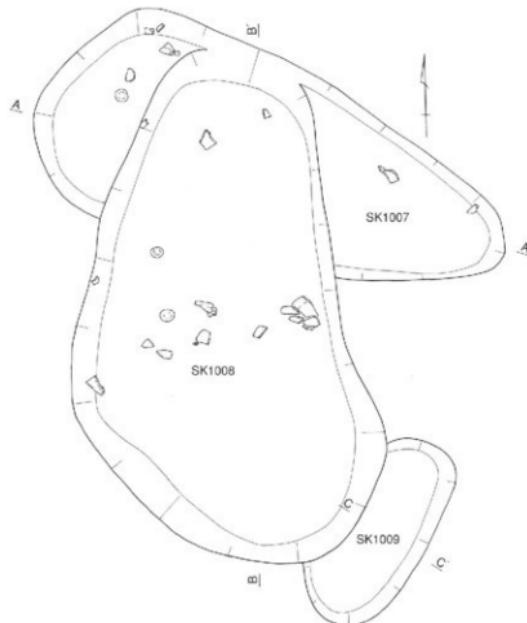
第161図 F-1区 SK1005実測図



第160図 F-1区 SK1001出土遺物実測図



第162図 F-1区 SK1005出土遺物実測図



第163図 F—1区 SK1007・1008・1009実測図

り離し技法は不明である。589は土師質の椀である。吉備系の土師器椀で山本吉備系土師器椀類型Ⅲ－3期C3類に比定される。590は瓦器椀である。口縁部内外面にはナデ、外面体部には指オサエ痕を留める。591は和泉型瓦器椀である。底部には退化した高台が貼り付けられている。592は東播系須恵質のこね鉢である。底部より内湾して立ち上がる。色調は灰白で体部内外面には多くの指オサエ痕が残る。593は上師質の管状土鍤である。594は土師質の土鍤である。595は上師質の管状土鍤である。

SK1008（第163図）

位置 G-67グリッド。

規模・形態等

調査区のやや東に位置する土坑である。SK1007とSK1009の遺構を切る形の南北に長い長軸3.1m、短軸1.96mの不整形の平面形態である。深さは0.2mで不整形の断面形態を示す。埋土は6層である。上師質甕、皿、椀、鍋、土鍤、瓦質椀、羽釜、壺が出土している。

出土遺物（第166図）

596は土師質の杯である。底部より内湾しながら立ち上がり口縁部はやや外に開く。597は土師質の皿である。底部に回転ヘラ切り痕を留める。598は土師質の皿である。底部回転糸切り痕を留める。599は土師質の皿である。底部回転ヘラ切り痕を留める。600は土師質の皿である。底部回転ヘラ切り後内外面に指オサエを施す。601は吉備系土師質椀である。山本吉備系土器椀類型のⅢ-3期C3類に相当する。602は土師質の鍋である。口縁部が「く」の字状に屈曲し、体部がやや膨らみを持つタイプで、外面には煤が付着している。603は瓦質の椀である。底部に退化した高台が貼り付けられている。604は和泉型瓦器椀である。炭素吸着不十分で色調は灰白色を呈する。森島編年IV-4期に比定される。605は瓦質の羽釜である。口縁部はほぼ直立し断面方形の短い鉗が貼り付けられる。外面にはヨコ方向のナデが施されている。606は瓦質壺である。口縁端部は上下に拡張されている。607は土師質の土鍤である。608は土師質の管状土鍤である。

SK1009（第163図）

位置 G-67グリッド。

規模・形態等

調査区の東に位置する土坑である。SK1008に西側を切られる長軸1.26m、短軸0.58mの平面形態は不整形である。深さは0.25mで不整形の断面形態を示す。埋土は2層である。出土遺物は土師質皿が出土している。

出土遺物（第165図）

609は土師質の皿である。底部から口縁に向かって直線的に立ち上がる。

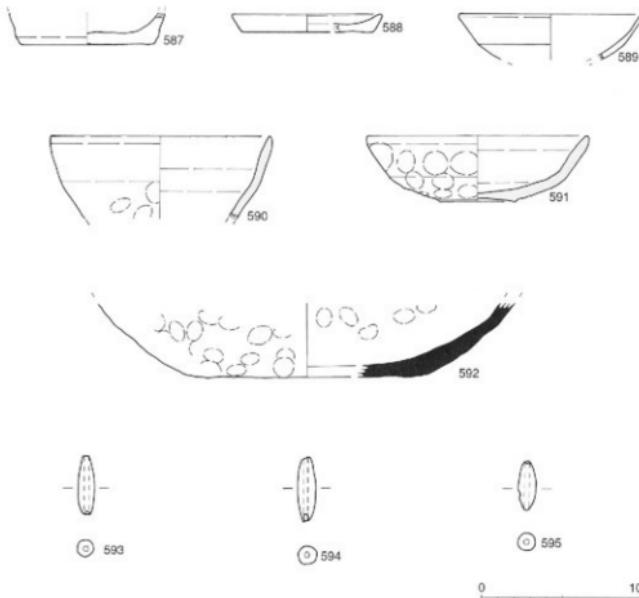
柱穴

SP群

SP1002

位置 G-66・67グリッド。

規模・形態等



第164図 F-1区 SK1007出土遺物実測図



第165図 F-1区 SK1009出土遺物実測図

SP1009

位置 G-66グリッド。

規模・形態等

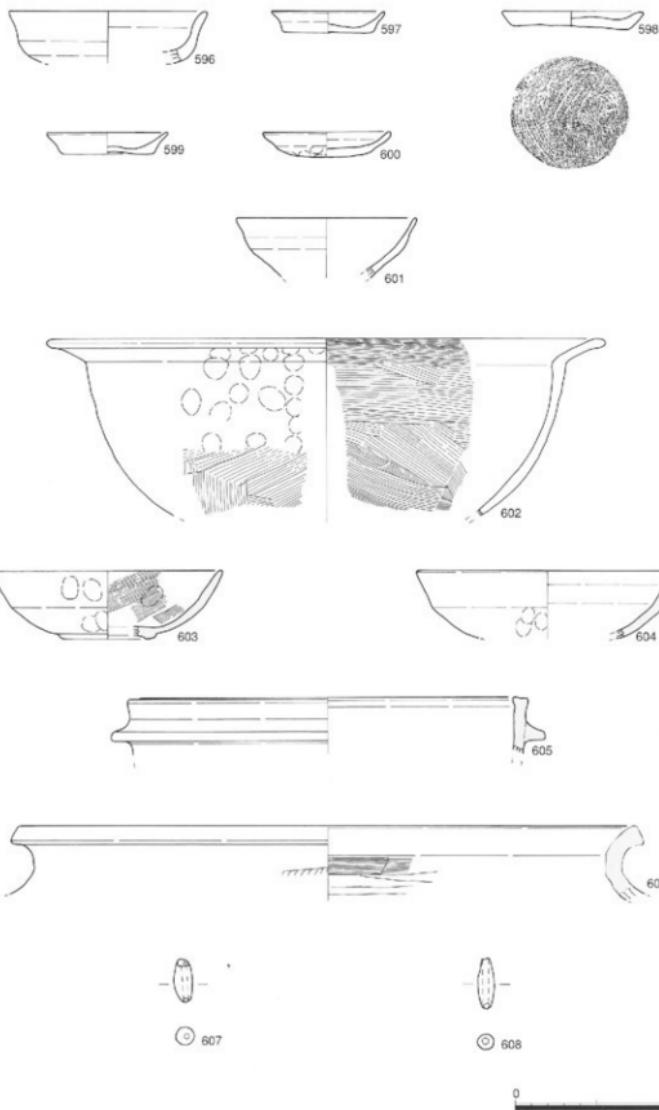
調査区ほぼ中央部に位置する柱穴で平面形態が円形で長軸0.27m、短軸0.25mを測る。断面形態は深さ0.23mのU字形である。

SP1020

位置 G-67グリッド。

規模・形態等

調査区東部に位置する柱穴である。遺構北側をSK1004とSK1005に切られるため平面形態は不整形で長軸0.35m、短軸0.2mを測る。断面形態は深さ0.19mの不整形である。



第166図 F-1区 SK1008出土遺物実測図

SP1021

位置 G-67グリッド。

規模・形態等

調査区東部に位置する柱穴で平面形態は隅丸長方形で長軸0.57m、短軸0.3mを測る。断面形態は深さ0.39mの不整形である。

SP1022

位置 G-67グリッド。

規模・形態等

調査区やや東部に位置する柱穴で平面形態が不整形で長軸0.35m、短軸0.25mを測る。断面形態は深さ0.3mのU字形である。

SP1036

位置 G-66グリッド。

規模・形態等

調査区ほぼ中央部に位置する柱穴で平面形態が円形で長軸0.3m、短軸0.29mを測る。断面形態は深さ0.16mのU字形である。

SP1055

位置 G-67グリッド。

規模・形態等

調査区南部に位置する柱穴で平面形態が円形で長径0.2mを測る。断面形態は深さ0.18mのU字形である。

SP1060

位置 G-67グリッド。

規模・形態等

調査区東北部に位置する柱穴で平面形態が円形で長軸0.25m、短軸0.25mを測る。断面形態は深さ0.15mのU字形である。

SP群出土遺物（第167図）

610は土師質碗である。611は和泉型の瓦器碗である。口径、器高とも大きいものである。森島編年IV-2期に比定される。612は青磁碗である。体部外面に幅広い竈蓮弁文を削り出し、濃緑色の釉を施している。龍泉窯系青磁碗である。横田・森田分類案I-5bと思われる。613は青磁碗である。体部外面に幅広い竈蓮弁文を有するもので横田・森田分類案の龍泉窯系青磁碗I-5bに比定すると思われる。614は土師質碗で体部は内湾する。体部には断面三角形の高台が貼り付けられている。山本吉備系土師器碗類型のIII-3期C3類に比定する。615は土師質の杯である。底部より直線的に立ち上がる。吉備系と思われる。616は土師質の皿である。底部には回転ヘラ切り痕を留める。617は吉備系土師質の椀である。断面台形の高台が貼り付けられている。618は土師質の鍋又は羽釜の脚部である。全体に指

オサエ後ナデが施されている。619は土師質の土鍋である。口縁部を「く」の字状に屈曲させ口縁端部を丸く仕上げる。620は土師質高台付の椀である。色調はにぶい黄澄の吉備系土師器椀である。621は青磁碗である。体部外面に幅広い鶴連弁文を割り出し、全面に濃緑色の釉を厚く施している。622は土師質の皿である。底部切り離し技法は不明である。623は土師質の椀である。底部より内湾し口縁やや器壁厚く、口縁端部はやや平坦に仕上げる。624は土師質の管状土錐である。625は瓦質の楕である。焼成が十分でなく色調は灰白である。626は瓦質の鍋又は羽釜の脚部である。断面円形状で外面に指オサエが残る。

包含層出土遺物（第168図）

627は土師質の杯である。底部には回転糸切り痕を留める。628は土師質の杯である。底部に回転糸切り痕を留め、体部内外面には横ナデが施される。629は土師質の皿である。底部内面には凸凹が見られる。630は土師質の吉備系楕である。631は土師質の鍋である。口縁部「く」の字状に屈曲させる形態で口縁部端面を平坦に仕上げる。632は瓦質の皿である。炭素吸着不十分で色調灰は白色、底部切り離し技法も不明である。633は土師質の脚部である。断面は長円形で残存長4.75cmを測る。外面には指オサエ後ナデが施されている。香炉等の脚部と思われる。634は瓦質の羽釜である。体部・口縁部が内湾し口縁端部を丸くおさめる。体部内外面に横ナデが施され、口縁部直下には断面台形状の鉢が貼り付けられる。635は須恵質の東播系こね鉢である。口縁部の上方への拡張が顕著で先端は尖る。636は須恵質の東播系こね鉢である。637は白磁皿である。口縁部わずかに外反、口縁端部の釉が剥ぎ取られるいわゆる「口禿」になっている。横田・森田分類案白磁皿Ⅳ類に属する。638は白磁の皿である。体部直線的で口縁部は外反する。口縁部は釉剥ぎ取りの「口禿」である。639は土師質の土錐である。640・641は土師質の管状土錐である。

F-2区

1面のみ

遺構は中央より西に限られる。

溝

SD1002（第169図）

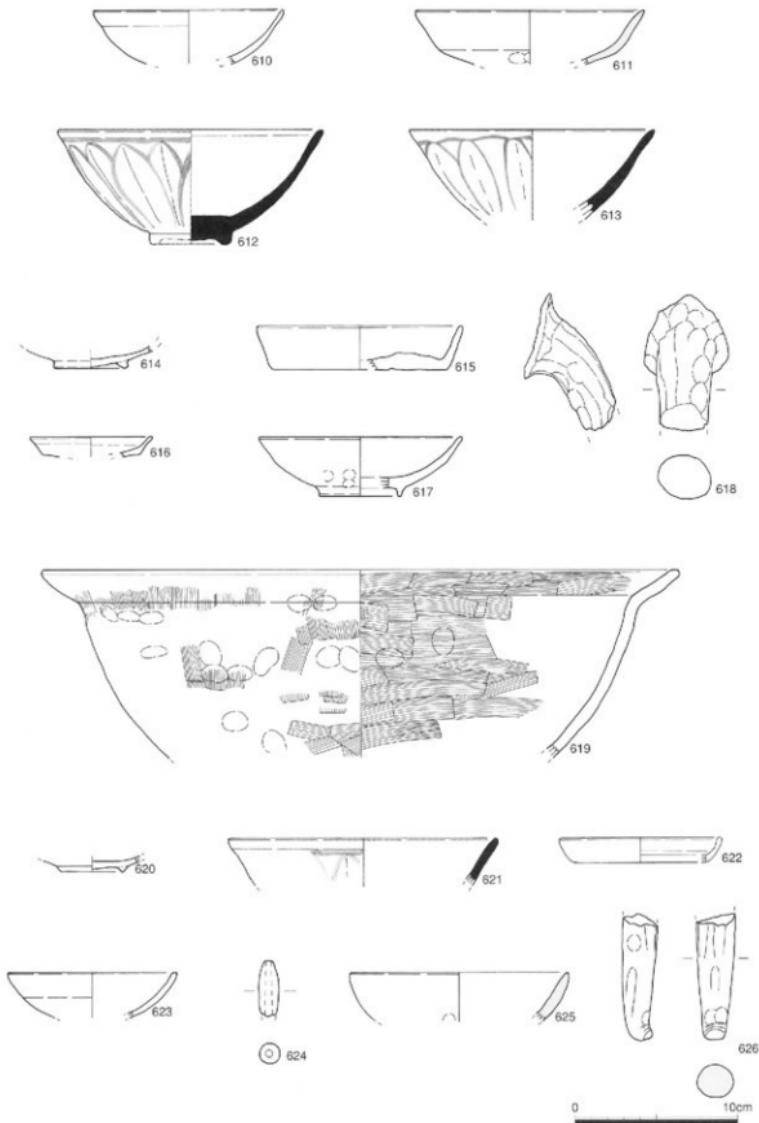
位置 G・H-71・72グリッド。

規模・形態等

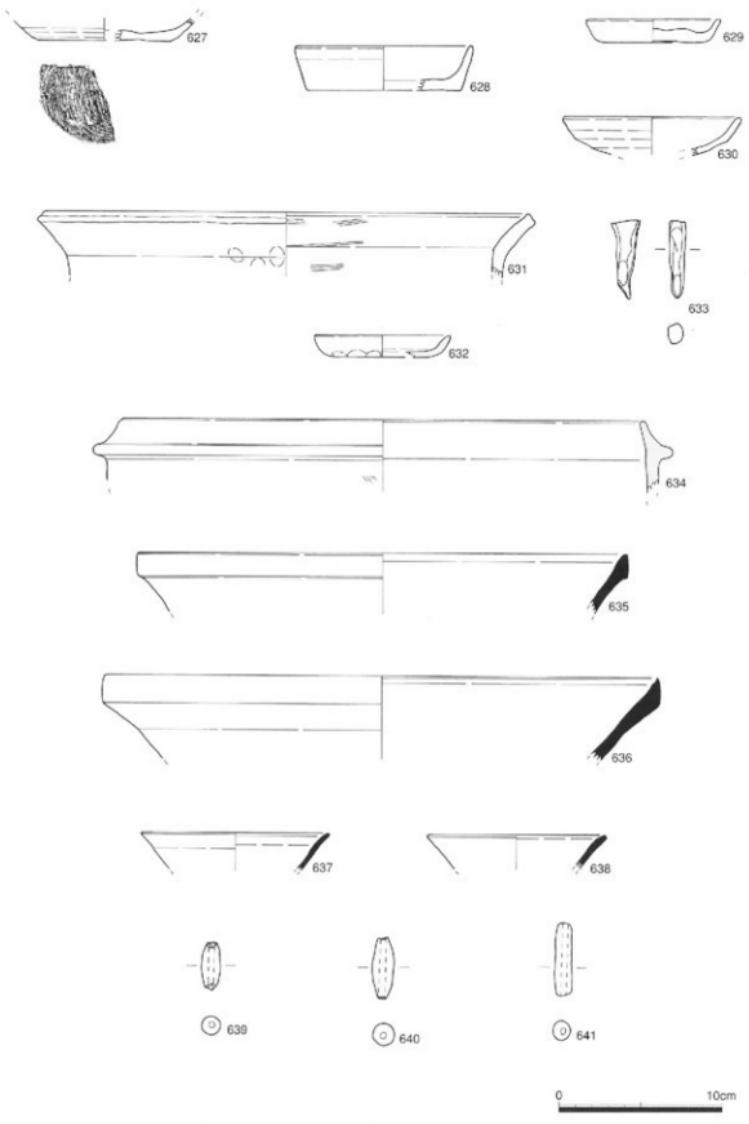
狭い調査区であるが中央部を南北に延びる溝である。南北共に壁にあたるため全体は不明であるが、長さ2.6m以上、幅1.0m以上、深さ0.2~0.6mを測る。断面形態は不整形で土層はオリーブ褐色シルト質土の1層である。出土遺物は土師質皿、椀、羽釜、須恵質こね鉢である。また、下層にはシジミ等の貝殻が多く含まれていた。

出土遺物（第170図）

642は土師質の皿である。底部回転ヘラ切り痕を留め、体部内面にナデを施す。色調はにぶい黄澄で吉備系土師質皿である。643は土師質の椀である。644は土師質の羽釜である。口縁部はほぼ直立し端部は左右に少し拡張されて平坦に仕上げる。645は東播系須恵質のこね鉢である。森田編年Ⅱ期2段階に



第167図 F-1区1面SP群出土遺物実測図

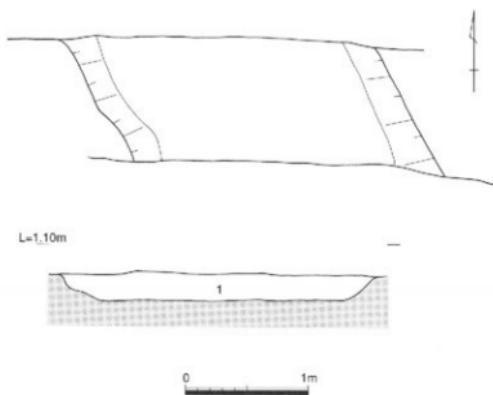


第168図 F-1区第1包含層出土遺物実測図

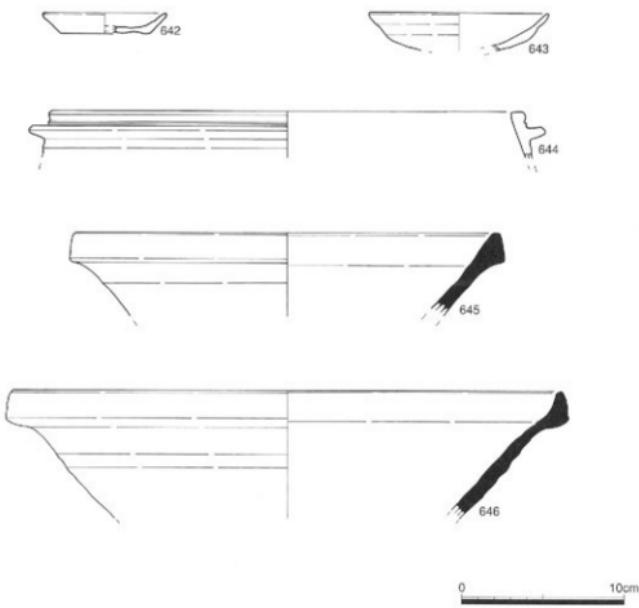
比定されると思われる。646は東播系須恵質のこね鉢である。森田編年Ⅲ期1段階に比定されると思われる。

包含層出土遺物（第171図）

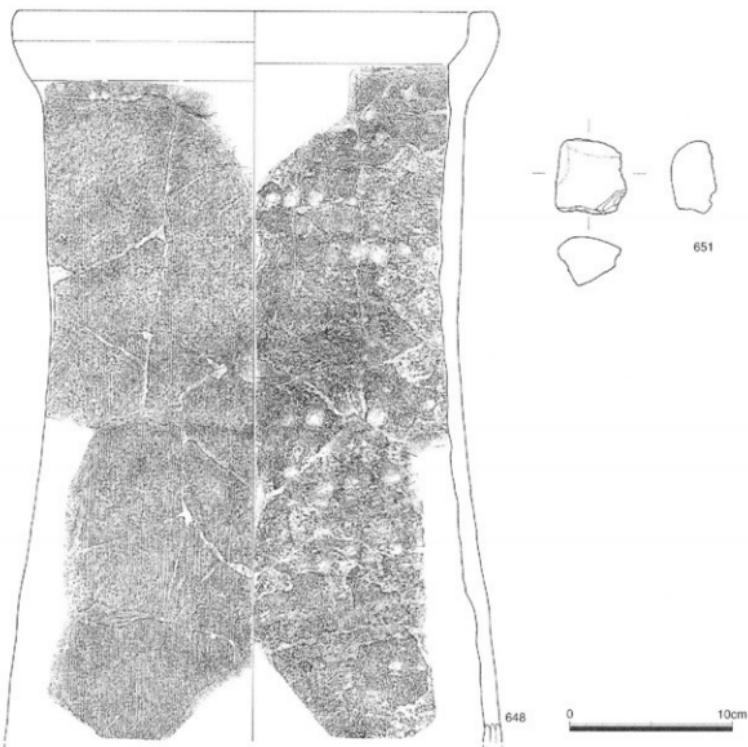
647・648は土師質の土管である。649・650は土師質の管状土錐である。651は石製品の火打ち石である。



第169図 F-2区 SD1002北壁実測図



第170図 F-2区 SD1002出土遺物実測図



第171図 F-2区第1包含層出土遺物実測図

3 まとめ

田宮遺跡は、吉野川と鈴川の合流する地点の南で、田宮川の左岸にあたる付近の標高2m前後の沖積地に位置する。遺跡周辺は都市化が進み、近世以降の面影は全く見られない。「加茂町史」によれば、地名の田宮は、もともと田の中の宮と言う意味であったとされ、その宮を今回の調査地の北側約50mに位置する天神社に北定している。天神社は延喜元年（901年）の創建とされ、江戸時代に藩主蜂須賀氏が代々初宮詔の儀を行なう崇敬の対象であった。社前の田宮街道は、かつての馬場（東西に約300m）で、祭りの日にはここで競馬が行われていた。また、鎌倉時代・元久元年（1204年）9月の富田莊立券文案に「田宮」の記載が見られ、当時春日神社領であったことが窺われる。これらのことから、遺跡周辺は平安時代以降、中世・近世と人々が生活していたと推察される。

ここでは、5次に亘る調査成果にもとづいて、本遺跡の遺構ならびに出土遺物の特色を述べて、本報告のまとめとしたい。

（1）遺構について

調査区は開発が進み道筋に面した土地であることから、最近まで建物が立っていたところがほとんどで、全体的に搅乱されており、どの調査区においても大きな、深い搅乱がみられた。また、遺構から出土した遺物のほとんどが、近世と中世の遺物が混ざり合い、遺構の年代をはっきりとさせることは出来ない。

A 調査区からC調査区にかけて確認されている最下層全面に見られる自然流路については、調査地点より南側約200~300mにある現在の田宮川、旧河川道と思われる。この流路の埋没時期は13世紀末~14世紀前半で、流路の埋没後田宮遺跡周辺は、開発が進んでいったものと考えられる。

A 調査区

15世紀~16世紀の第1遺構面と13世紀末~14世紀の第2遺構面、13世紀末以前の第3遺構面を検出した。第1遺構面と第2遺構面で、土坑、ピット、溝など合わせて約80基が検出された。搅乱と調査区の制約のため、雖然としたピット群は、検出されなかつたが、しっかりとしたピットもあるので、何らかの建物が建っていた可能性は考えられよう。出土遺物には備前焼の擂鉢や吉備系の土師器杯、北宋錢などがあった。第3遺構面より下は、自然流路の典型的な砂層堆積層であった。出土土器から13世紀末に埋没したことが確認された。

B 調査区

遺構面はほぼすべて水平であったが、近世以降も継続して生活が営まれていたことによって、遺構面は大きな搅乱を受けている。今回の調査では、13世紀末~16世紀にかけての時期、13世紀後半埋没したと考えられる自然流路の2面を確認した。B-2区は南西方向に延びる溝SD2101で底部には水分が多くグライ化した粘土層が堆積し、土器は少なく貝殻・獸骨・鉄滓などが含まれていた。貝殻は121kgあまりでそのほとんどをヤマトシジミが占める。B-1区ではSD2102から備前焼の擂鉢や銅製の小柄が出土した。

C 調査区

遺構面は2面確認された。第1遺構面では、掘立て柱を構成するような柱穴群は確認されなかつたものの、土坑、自然流路が検出された。流路は蛇行しており、調査区東端から調査区の北側（現在の田宮

街道の下）を通り、調査区西端に再び現れる形で検出された。東側流路の西岸および西側流路の東岸から、多量の貝殻が出土しており、川の南側から、廃棄されたものと考えられる。他にも出土遺物として近世陶器片、錢貨があげられるが、流れ込みと推測される土師質土器片も若干出土している。第2造構面では、自然流路が検出された。当該流路中から時期を確定出来るような遺物の出土はなかったものの、平面形および土層堆積状況から前年度調査区のA調査区、第3造構面で確認された自然流路の統きと思われる。

D 調査区

D区では2時期の造構面が確認された。第2造構面では溝・上坑・小穴が検出された。溝(SD2001)には瓦器・青磁が出土し、直角に曲がることから区画目的の可能性があるが、調査での造構の密度は薄く確実な可能性を探るまでは至らなかった。

E 調査区

E区では室町期以降とみられる造構面を検出した。幅約2m、深さ約40cm、SD1014で埋土にはシジミを中心とする貝殻がおよそ75kg含まれていた。

F 調査区

標高約0.8~0.9m地点で、鎌倉時代以降と考えられる第1造構面を確認した。F-1区は搅乱のため造構は中央部に限られるが、上坑(SK1008)からは完形の土師器皿や瓦器碗等が出土した。F-2区からはやはり、搅乱のため東半分は削平され、西半分しか残存せず深さは60cmを測り、下部にはシジミ等の貝殻が含まれる層がみられた。

(2) 遺物について

本遺跡の出土遺物は、総点数23,800点あまりである。内訳は、土師質土器、瓦器・瓦質土器、国内産陶器、輸入陶磁器、土製品（含む玩具）、金属製品、石製品、貝殻、獸骨等多岐にわたる。

前述のように、中・近世の遺物が混ざり合う状態の造構が多く、年代もはっきりしないが、中世の遺物としては土師質土器の比率が圧倒的に高く、次いで陶器が占める。その出土品の多くは日常雑器類であり、土師質土器には杯・皿・碗がその大半を占める。また、瓦器碗・瓦質土器においては和泉型瓦器碗、羽釜等が多く出土している。陶器においては備前の播鉢の他、壺、甕また、瓦質に近い碗などと束播系のこね鉢が多く出土し、その他瀬戸・美濃系の天目茶碗等も見られた。

その他、近世の遺物としては、京・信楽系、肥前（唐津）、伊万里、備前、大谷、明石、堺など、多くの産地のものが多種多様で出土した。古唐津や、京・信系のいわゆる「注連縄文茶碗」も出土している。その他、日常生活用品（培塿・火鉢・羽釜・灯明皿・硯・簪・煙管・徳利・香炉・仏版器・植木鉢・土人形・火打石・錢貨など）が出土している。量的には肥前系（唐津・伊万里など）の碗・皿・鉢などの食器具が多く見られる。

以下、主な遺物を記述する。

土師質土器

土師質の土器では、中世の遺物としては杯、皿、高台付碗などが中心である。

在地産と見られる赤褐色系の、底部切り離し技法が回転糸切りによる杯、皿も多く見られる。

また、それらと共に吉備系で底部切り離し技法が回転ヘラ切りの杯、碗、皿等の土器が非常に多く見られる。

近世の遺物としては灯明受皿、羽釜、鍋、焙烙、土瓶、十能、上鍤、土管などが出土した。

瓦器・瓦質土器

中世の瓦器・瓦質の遺物では和泉型瓦器椀はじめ、畿内産の鍋・羽釜などが多く見られる。その他、近世の遺物としては御覽系の焙烙や茶釜などがある。

陶器

中世では備前播鉢・碗・壺をはじめ東播系のこね鉢、瀬戸美濃系の天目茶碗などが多く出土した。

近世では砂目唐津皿、植木鉢や花瓶、京焼の注連縄文茶碗で伊勢エビが波の上に乗っている圓柄のもの、その他唐津、瀬戸美濃系、京信楽系、備前など近世の多種多様なものが出土しているが、中心は唐津の椀や皿・鉢などが多い。

磁器

輸入陶器では龍泉窯系青磁碗や白磁皿・壺、中国系青花磁器等が出土した。近世の磁器はそのほとんどが、一般的に「伊万里」「有田」と呼ばれる肥前系の呉須による染め付けを施されたものや青磁であり、碗、皿、徳利などを中心に多量に出土した。

土製品

土製品の多くは、玩具に関係したものであった。ベーゴマ・こね鉢・壺など子供が遊びに使ったと思われる道具、他には座像・天神・大黒など信仰の対象物等、その他上鍤が多く出土した。

金属製品

金属製品としては、簪、頬管、小柄など、銅製や鉄製の製品や銅滓、銅延金が出土した。また、錢貨については、北宋錢（咸平元宝998年・祥符元宝1008年・祥符通宝1009年・天聖元宝1023年・皇宋通宝1039年・嘉祐元宝1056年・熙寧元宝1068年・元豐通宝1078年・元符通宝1098年・大觀通宝1107年）、南宋錢（嘉定通宝1208年）、明錢（洪武通宝1368年）と寛永通宝1636年、及び不明錢であり、40枚を数える。

石製品

砥石をはじめ硯・火打ち石・石臼・石鍋の把手など生活日常品の石製品が出土した。

その他

貝殻……多くの調査区で主に近世遺構面より出土した。種類はヤマトシジミ・ハマグリ・オキシジミ・オキアサリ・ハイガイ・カワアイなどである。調査区毎の出土量は、B調査区では溝SD2101より、シジミとハマグリなどおよそ121kg、C調査区では包含層より、およそ2.4kg、D調査区で溝SD1015より、およそ3kg余り、E調査区では溝SD1014より、およそ75kg、総計202kg余りの貝殻が出土したがそのうち99%以上を占める200kgはヤマトシジミであった。貝殻は多量に出土しているが、ほとんどが原形をとどめず全体の個体数は不明である。

骨角類…B調査区のSD2101より、貝殻に混じり10点の骨角類が出土した。その内6点がニホンジカ又はイノシシの歯牙で、1点は牛の大腿骨か？ 残り3点については不明であった。

田宮遺跡は現在まではほとんど発掘調査されていない地域であった。文献上では13世紀初頭の阿波富田荘立券文案に「田宮」と記載されており、この地域の莊園化の時期を示しているのが13世紀末以降であることが判明した。よって、「山宮」の文献上の開発の時期と考古学上の事実とに約100年程のずれがあり、「田宮」周辺の莊園化の時期について再考を促すこととなった。

今回の調査では明銭や宋銭をはじめ、約28,000点の遺物が出土した。中世の遺物については、西に約3kmに隣接された「中島田・南島田遺跡」と同様の遺物が多量に出土し、吉備系の土師質土器、東播系こね鉢、備前のか鉢、和泉系の瓦器碗、輸入陶磁器等、他地域からの搬入品がその多くを占めた。

鎌倉時代後半から近世にいたるまでの遺構面も検出された。後世の擾乱のため、遺構面の残りは決して良好とは言い難かったが、ある程度中・近世の田宮地区の様子が把握できたことは、大変意義があつたと考える。今後、周辺の地区の調査が行われる際に、今回の調査結果と照らし合わせることで、よりはっきりした、中・近世の田宮周辺の暮らしの様子が捉えられるに違いない。

また、今回の調査で13世紀末～14世紀前半のピットや溝が比較的多く見つかったことは大きな収穫であった。田宮遺跡は、13世紀後半～14世紀前半の大規模集落である中島田遺跡の東約3kmに位置し、今後、調査が進むにつれて、中島田遺跡との比較により、阿波中世史の解明に役立つであろう。

(参考文献)

- 中世土器研究会編『概説 中世の土器・陶磁器』 真陽社 2001
間嶋忠彦『備前焼』 ニュー・サイエンス社 2000
大橋康二『肥前陶磁』 ニュー・サイエンス社 2001
『論文徳島の考古学』 徳島考古学論集刊行会 2002
『増補やきもの辞典』 平凡社 2000
『九州陶磁の編年』 九州近世陶磁学会 2000
『織部の流通網を探る』 土岐市美濃陶磁歴史館 2004
『国説江戸考古学研究辞典』 江戸遺跡研究会編 柏木書店 2001
『別冊太陽 NO63』 平凡社 2000
『柴田コレクション (VI)』 佐賀県立九州陶磁文化館 1998
石尾和仁『中島田遺跡遺跡 II』 徳島県教育委員会・徳島県埋蔵文化財センター 1996
福家清司『中島田遺跡』『南島田遺跡』 徳島県教育委員会 1988
石尾和仁『新蔵1丁目遺跡合同庁舎地点』 徳島県教育委員会・徳島県埋蔵文化財センター 1998
日下正剛『新蔵1丁目遺跡企画局総合管理センター地点』 徳島県教育委員会・徳島県埋蔵文化財センター 1998
喜多啓：『徳島城下町遺跡中前川町2丁目地点』 徳島県教育委員会・徳島県埋蔵文化財センター 2004
斉藤 剛『徳島城下町遺跡出来島本町1丁目地点』 徳島県教育委員会・徳島県埋蔵文化財センター・徳島労働局日本障害者雇用促進協会 2003
加茂郷上誌編集委員会『徳島市加茂郷土誌』 加茂郷土誌刊行委員会 1992



IV 自然科学的分析



田宮遺跡より自然遺物として貝（およそ202kg）と獸骨（10点）が出土した。それぞれの遺物について徳島県立博物館主任学芸員の中尾賢一氏、同専門学芸員佐藤陽一氏に鑑定をお願いした。

田宮遺跡から出土した貝類についてのコメント

徳島県立博物館 主任学芸員（地学担当）
中尾 賢一

貝類の分類や生態に関しては、奥谷編著（2000）など多くの文献を参照した。遺跡に関する情報は、貝塚データベース（及川昭文研究室・総合研究大学院大学）から得た。

・ヤマトシジミ

田宮遺跡から出土した貝類の大部分（99%以上）を占める。形態的に非常に良く似た貝にマシジミがあり、化石や貝塚出土の貝殻では識別が難しい。この中にマシジミが混入している可能性もあり得るが、充分な検討は行っていない。ヤマトシジミは後述するように海水の影響のある汽水域に生息するに対し、マシジミの生息域は淡水域であり、生息環境が全く異なる。この遺跡では明らかな純淡水産の貝が産出しないことから、ここではとりあえず田宮遺跡出土のシジミ類をすべてヤマトシジミとして扱う。ヤマトシジミとマシジミはこれまでにもよく混同されており、古環境の復元の際にも混乱が生じる事があった。今後、田宮遺跡から産出したシジミ類についても詳しい検討が必要である。

ヤマトシジミは河口付近の汽水域の砂底～砂泥底に多く生息している。この貝は長い水管を持たないため深く潜ることがない。二枚貝の中でも採集は容易な方だと考えられる。

現在でもごく普通に食用にされる。徳島県の吉野川の汽水域（名田橋周辺）や鳥根県の宍道湖で漁獲の対象にされているシジミは本種である。ヤマトシジミの分布の中心は、ハマグリのそれと比べると、やや陸側（底越度域）にある。

北海道から鹿児島県までの広い範囲の遺跡から検出されている。県下では、城山2号貝塚などから報告されている。

・ハマグリ

産出頻度はヤマトシジミに次いで多いが、ヤマトシジミの個体数が極端に多いため、貝類全体に占める割合は1%に満たないだろう。

食用として好まれることから良く知られている二枚貝である。潮間帯～水深20mほどの海域の砂泥底に潜って生息している。県下でも沖積層の化石としてかなり大量に見つかるほか、貝塚からの産出も多いので、かつては非常に多く生息していたと考えられるが、近年では各地で個体数や生息地が激減している。現在、県下ではごく限られた干潟に少数生息している。

市場に出回っている「ハマグリ」の多くは近縁種のシナハマグリ（朝鮮半島～中国産）である。また、在来の近縁種にチョウセンハマグリがあるが、ハマグリとは生息場所が異なる。ハマグリとチョウセンハマグリの識別は一般に困難だが、現時点ではチョウセンハマグリに確定される貝殻は田宮遺跡

では確認していない。

北海道函館周辺から沖縄県八重山諸島までの極めて広い範囲の遺跡から報告されている。県内からは、城山貝塚など多くの遺跡から報告されている。

・オキシジミ

産出頻度は非常に低い（貝類全体の数千分の1程度）。マルスダレガイ科に属し、名前に反してシジミ類（シジミ科）よりアサリやハマグリ（マルスダレガイ科）に近縁である。やや泥質の干潟～潮下帯に生息する。砂泥の中に深く潜っていることが多いので、大量に採集するのには手間がかかると思われる。現在、日本では大規模な漁獲の対象にはされていないようである。北海道から沖縄本島までの広い範囲の遺跡から報告されている。県下では、城山2号貝塚と若杉山遺跡から報告されている。

・オキアサリ

産出頻度は非常に低い（貝類全体の数千分の1程度）。潮間帯の砂底に生息する。一見ハマグリ状であり、充分食用になるが、現在では大規模な漁獲の対象とはされていないようである。かつて徳島市内のスーパーマーケットで、パック詰めにされた本種の生貝が販売されているのを見たことがあるが、その後は全く見かけないので、たまたま何かの漁で混獲されたものを販売していたのだと考えている。東北地方から南九州までの各地の遺跡から出土する。県下では、城山住居址および若杉山遺跡から報告されている。

・ハイガイ

山宮遺跡では極めて稀で、2～3片を確認したにすぎないが、特徴のある貝なので詳しく述べる。南方起源の貝で、内湾奥の泥干潟に生息する。日本列島で現在確実に生息している場所は瀬戸内海と有明海の一部に限られ、絶滅危惧種とされている。徳島では吉野川の河口域などに古びた貝殻が落ちているが、生貝が確認されたことはない。完新世初頭から繩文海進高頂期までの期間、この貝は日本列島の南から北へと分布域を拡大していった。約6000年前には東北地方にまで分布を広げたが、その後は泥干潟の消滅や海水温の低下に伴って分布域が南に狭まった事がよく知られている。

近縁な貝にアカガイやサルボウなどがある。アカガイとサルボウは主要な漁業対象種である。ハイガイは食用になるし（美味と記述された本もある）、有明海の一部海域では味噌汁の具としても食べていたらしい。佐賀県鹿島市の“道の駅”で販売されていたとの情報もあり、小規模に消費されることは現在でもあるようだが、本格的な水産業の対象とされることはあるなかったようである。

東北地方から沖縄本島までの多くの遺跡で報告されている。徳島では、城山貝塚、日出遺跡、森崎貝塚、若杉山遺跡などから報告されている。縄文時代中期の森崎貝塚では極めて多いが、時代が下るにつれ個体数や産出頻度が減る傾向がある。本資料は徳島におけるハイガイの最も新しい記録のひとつであり、この時代まで徳島にハイガイが生息していた可能性が示された。

・巻貝

個体数は非常に少なく（合計で数個体程度）、種のレベルで同定できたものは、わずかである。カワアイ、ウミニナ科の貝、アマオブネガイ科の貝（イシマキガイ？）を確認した。



写真1 田宮遺跡より出土した貝（一部）

獸骨について

田宮遺跡より10点の獸骨が遺構及び包含層から出土した。

その鑑定を徳島県立博物館専門学芸員の佐藤陽一氏にお願いした。下表がその結果一覧である。

資料1 田宮遺跡出土獸骨同定結果（2005.11.16）

| サンプル NO. | 同 定 | 部 位 | 備 考 |
|----------|--------|-------------|-------|
| 1 | ウシ | 大脛骨？ | 子ウシ程度 |
| 2 | イノシシ | 下頸第4前臼歯 | |
| | イノシシ | 上頸第1善臼歯 | |
| 3 | ニホンジカ？ | 臼歯 | |
| 4 | 同定不能 | | |
| 5 | ニホンジカ | 下頸左第2後臼歯（大） | |
| | ニホンジカ | 下頸左第3前臼歯（中） | |
| | ニホンジカ | 下頸左切歯（小） | |
| 6 | 同定不能 | | |
| 7 | ニホンジカ | 下頸第3後臼歯 | |
| 8 | 同定不能 | | |
| 9 | 同定不能 | | |
| 10 | ニホンジカ | 下頸右第3後臼歯 | |

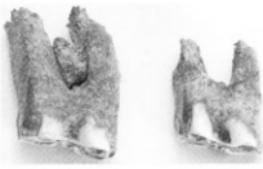
| | |
|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
|  |  |
| 獣骨 1 | 獣骨 2 |
|  |  |
| 獣骨 3 | 獣骨 4 |
|  |  |
| 獣骨 5 | 獣骨 6 |
|  |  |
| 獣骨 7 | 獣骨 8 |
|  |  |
| 獣骨 9 | 獣骨 10 |

写真2 田宮遺跡より出土した獣骨

檢出掲載遺構一覽表



第1表 田宮遺跡 A区 検出揭露遺構一覧表

(単位cm)

| 遺構名 | グリッド | 長軸 短軸 深さ | 平面形態 | 断面形態 | 出土遺物 | 備考 |
|-----------|---------|-------------------|------|------|----------------------------------------------------------|-------------------------------|
| A区 SK1001 | C.D-4 | 177 55 8 | 不整形 | U字形 | 須恵質壺 陶器花瓶 | 北壁にあたる。 |
| A区 SP1009 | B-2 | 50 40 12 | 不整形 | 逆台形 | 金属製品 | |
| A区 SP1025 | BC-3.4 | 55 45 20 | 不整形 | U字型 | 土師質椀 | |
| A区 SP1027 | C-3.4 | 50 40 18 | 楕円形 | 逆台形 | 錢貨 | |
| A区 SP1034 | C-5 | 55 45 22 | 楕円形 | 逆台形 | 鐵器釘 | |
| A区 SX1002 | C.D-4 | 512 332 35 | 不整形 | 不整形 | 土師質杯・皿・碗・上鍋・こね鉢・土鍤 須恵質甌・こね鉢・瓦器椀・羽釜 陶器甌・捨鉢 砥石・錢貨 | 東側一部を擾乱に切られ、 北側北壁にあたる。 |
| A区 SX1003 | BC-5 | 164 140 32 | 方形 | 不整形 | 土師質皿・土鍤 | 東側東壁にあたり、北側 と南側が擾乱に切られる。 |
| A区 SD2001 | A~C-3.4 | 1060 449 30 | 不整形 | 逆台形 | 土師質杯・皿・碗・脚・壺・甌 須恵質こね鉢 陶器甌・捨鉢 砥石・錢貨 | 南・北壁にあたる。 |
| A区 SK2003 | BC-3 | 124 59 23 | 楕円形 | 逆台形 | 土師質杯 | |
| A区 SK2004 | C-3 | 107 62 32 | 楕円形 | 逆台形 | 土師質皿 | |
| A区 SK2005 | C-3 | 79 63 32 | 楕円形 | U字形 | 土師質杯 | SK2004とSX2001に一部 切られる。 |
| A区 SK2006 | BC-3.4 | 145 102 28 | 楕円形 | 不整形 | 土師質杯・皿 須恵質甌 | |
| A区 SK2007 | B-3.4 | 108 91 24 | 楕円形 | 逆台形 | 土師質杯 須恵質こね鉢 錢貨 | |
| A区 SK2008 | BC-5 | 175 100 25 | 楕円形 | 逆台形 | 土師質杯・皿・脚 須恵質こね鉢 | 北側が一部擾乱に切られ る。 |
| A区 SP2016 | C-3 | 40 35 18 | 円形 | 逆台形 | 土師質椀 | |
| A区 SP2019 | C-3 | 65 60 27 | 円形 | 逆台形 | 土師質椀 | |
| A区 SP2029 | C-4 | 55 41 17 | 不整形 | 逆台形 | 土師質杯 陶器甌 | 西側をSD2001に切られる。 |
| A区 SP2037 | B-3 | 35 30 22 | 不整形 | U字型 | 須恵質こね鉢 | 北側をSP2036に切られる。 |
| A区 SX2001 | C-3.4 | 80 62 14 | 不整形 | 逆台形 | 土師質杯・碗・脚 須恵質甌 錢貨 | 南側をSK2006に東側を SD2001に切られる。 |

第2表 田宮遺跡 B区 検出揭露遺構一覧表

(単位cm)

| 遺構名 | グリッド | 長軸 短軸 深さ | 平面形態 | 断面形態 | 出土遺物 | 備 考 |
|----------------|-----------|--------------------|------|------|---------------------------------------------|-------------------|
| B-1区 SD2102 | C~E-16 | 620 380 31 | 不整形 | 逆台形 | 陶器擂鉢 銅製小柄 | 東西南北で壁にあたる。 |
| B-1区 SK2102 | D.E-16 | 270 100 46 | 不整形 | 不整形 | 丸質羽釜 | 北・西壁にあたる。 |
| B-2区 SD2101 | D.E-17 | 580 150 33 | 不整形 | U字形 | 砥石 | 中央部擾乱に切られ、南壁にあたる。 |
| B-3区 SD1001 | D.E-26 | 750 150 53 | 不整形 | 不整形 | 土師質皿 | 北東部擾乱による削平。 |
| B-3区 SK1017 | D-23 | 76 36 14 | 楕円形 | U字形 | 陶器鉢 | |
| B-3区 SK1018 | D-25 | 104 56 10 | 楕円形 | U字形 | 土師質釜 | |
| B-3区 SK1030 | C.D-22.23 | 220 120 27 | 長方形 | 不整形 | 陶器水注 | |
| B-3区 SP1040 | E-22 | 40 25 18 | 不整形 | 不整形 | 土師質羽釜 | 北壁にあたる。 |
| B-3区 SX1001 | D.E-24.25 | 650 156 38 | 不整形 | U字形 | 土師質碗 瓦質碗 須恵質こね鉢 | |
| B-3区 SR2001 | C~E-25.26 | 1300 780 28 | 不整形 | 不整形 | 土師質杯・高台付碗 丸質椀 須恵質こね鉢 | 北・南壁にあたる。 |
| B-3区 SR2002 | D.E-27.28 | 910 740 39 | 不整形 | 不整形 | 丸質椀 | 北・東・南壁にあたる。 |
| B-3区 SR2003 | C~E-21~25 | 2100 1050 48 | 不整形 | 不整形 | 土師質杯・高台付碗 瓦質皿・羽釜 須恵質こね鉢 磁器皿 青磁瓶 | 北・西・南壁にあたる。 |

第3表 田宮遺跡 C区 検出掲載遺構一覧表

(単位cm)

| 遺構名 | グリッド | 長軸 短軸 深さ | 平面形態 | 断面形態 | 出土遺物 | 備考 |
|-----------|-----------|--------------------|------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| C区 SD1001 | D-34.35 | 290 120 33 | 不整形 | 不整形 | 土師質壺・鍋 瓦質培塿 陶器皿・碗・擂鉢・灯明皿 磁器猪口・錢貨 | 北側を擾乱に南側をSK 1001に切られる。 |
| C区 SK1003 | D-34 | 150 149 47 | 円形 | U字形 | 陶器碗・德利 | |
| C区 SK1004 | C.D-34.35 | 372 294 34 | 不整形 | 不整形 | 土師質皿 陶器皿・碗・鉢・灯明皿 磁器仏花器 | 西側搅乱による削平。 |
| C区 SK1005 | D-34 | 175 153 33 | 不整形 | U字形 | 土師質皿 陶器鍋 青磁碗 | SK1003に東側肩を少し切られる。 |
| C区 SK1014 | D-32 | 79 76 52 | 不整形 | 不整形 | 土師質土錐 陶器碗 | |
| C区 SK1038 | F-32 | 170 132 69 | 楕円形 | U字形 | 土師質玩具 瓦質培塿・茶釜 陶器灯明皿・土瓶 磁器碗 | |
| C区 SP1025 | D-35.36 | 35 22 20 | 楕円形 | U字形 | 石器硯 | |
| C区 SP1055 | D-31 | 41 28 22 | 楕円形 | U字形 | 土師質皿 | |
| C区 SP1077 | F-35 | 35 30 17 | 楕円形 | 逆台形 | 瓦質培塿 陶器擂鉢 | |
| C区 SP1141 | E-32 | 35 30 27 | 円形 | U字形 | 陶器皿 | |
| C区 SR1001 | C~F-30.31 | 1500 640 54 | 不整形 | 不整形 | 土師質鍋・土釜・培塿・十能柄 須恵質こね鉢 陶器碗・天目茶碗・擂鉢・匣鉢・壺・甕 磁器皿・碗・瓶・蓋・德利 青磁皿・白磁猪口 瓦質加工円盤・丸瓦 石器敲石・硯・銅製品煙管瓶首 | 北・西・南壁にあたる。 |
| C区 SR1002 | D~F-36.37 | 1440 1070 93 | 不整形 | 不整形 | 土師質鍋 陶器碗 磁器皿 | 東壁と北壁にあたる。 |

第4表 田宮遺跡 D区 検出掲載遺構一覧表

(単位cm)

| 遺構名 | グリッド | 長幅 短軸 深さ | 平面形態 | 断面形態 | 出土遺物 | 備考 |
|-----------|-----------|------------------|-----------|------|------------------------------------------|---------------------------------|
| D区 SD1009 | D-39 | 210 80 17 | 不整形 | U字形 | 土師質高台付椀 | 西壁にあたり。 |
| D区 SD1015 | D~F-43.44 | 910 320 10 | 不整形 | 不整形 | 土師質杯・鍋 瓦質甕 附器碗・大日茶碗 青磁碗 金属煙管 | 北・南壁にあたり、東側 擾乱に切られる。 |
| D区 SD1016 | D.E-44 | | 不整形 | | 銅錢 | 南壁にあたり、東側擾乱 に切られる。 断面図なし。 |
| D区 SK1007 | F-42 | 50 30 14 | 不整形 | U字形 | 土師質杯 | 西側擾乱に切られる。 |
| D区 SE1001 | F-40 | 420 330 | 楕円形 | | 陶器皿・捕鉢 銅錢 | |
| D区 SP1017 | D-40 | 50 35 14 | 楕円形 | 不整形 | 土師質皿 | |
| D区 SP1025 | E-41 | 45 30 20 | 楕円形 | 不整形 | 磁器皿 | |
| D区 SP1047 | E-40 | 35 25 28 | 楕円形 | 不整形 | 磁器皿 | |
| D区 SD2001 | D-39.40 | 720 300 23 | 不整形 | 不整形 | 土師質皿・高台付椀 瓦質杯・羽釜 須恵質甕 青磁碗 | 南壁と西壁にあたり。 |
| D区 SK2001 | E-40 | 143 56 25 | 隅丸長方 形 | U字型 | 土師質碗・高台付椀 | |
| D区 SP2001 | E-39 | 25 25 14 | 円形 | U字型 | 土師質鍋 | |
| D区 SP2002 | F-39 | 50 30 16 | 楕円形 | 不整形 | 須恵質こね鉢 | |
| D区 SP2011 | D-40.41 | 75 70 14 | 楕円形 | 逆台形 | 砥石 | |

第5表 田宮遺跡 E区 検出掲載遺構一覧表

(単位cm)

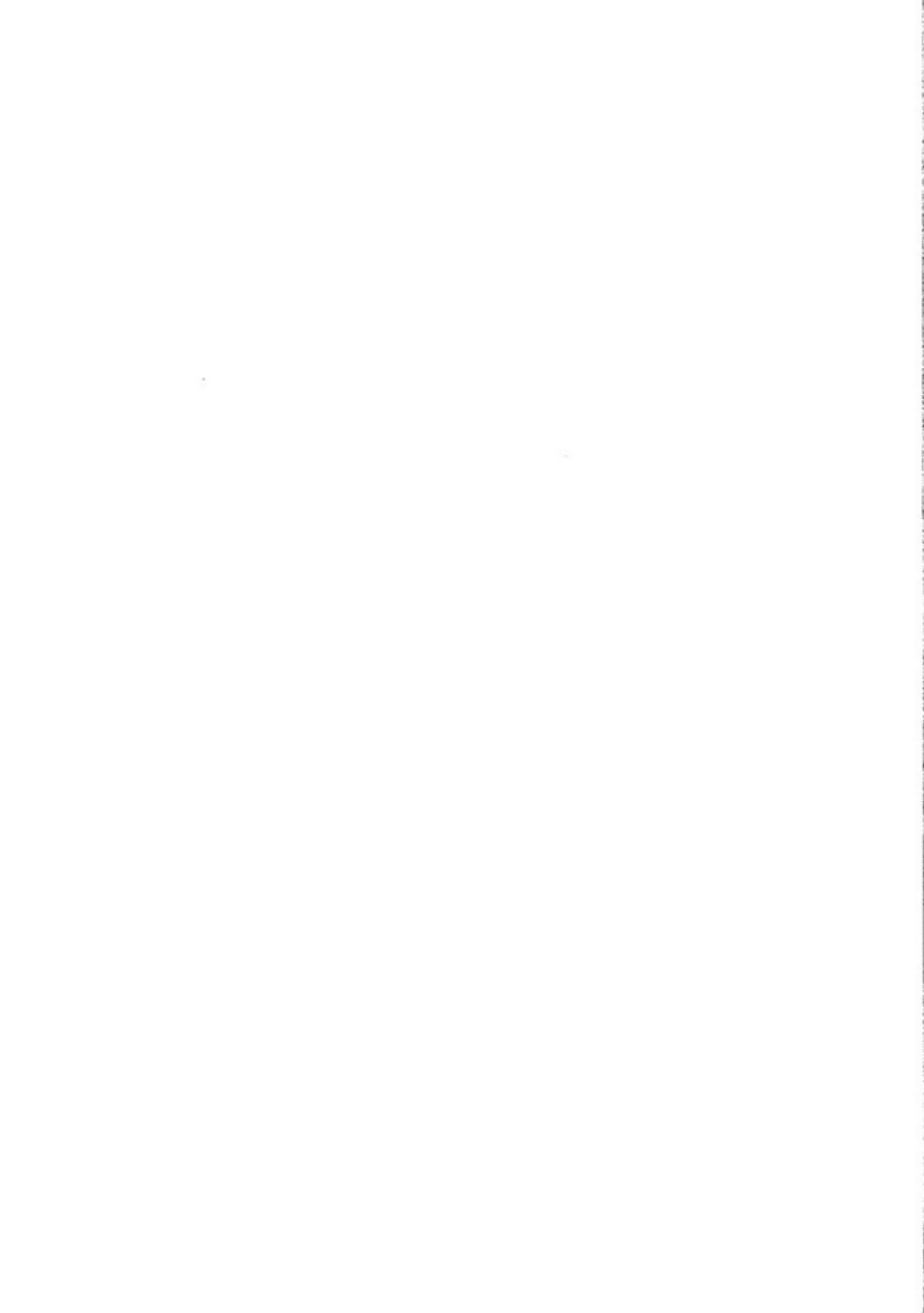
| 遺構名 | グリッド | 長軸 短軸 深さ | 平面形態 | 断面形態 | 出土遺物 | 備考 |
|-----------|-----------|------------------|-----------|------|------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| E区 SD1001 | E.F-49.50 | 720 220 16 | 不整形 | 逆台形 | 土師質杯・高台付椀・土鍋・土鍤 瓦質椀 須恵質こね鉢 青磁皿 | 南壁にあたり、東側搅乱に切られる。 |
| E区 SD1002 | E-51.52 | 250 50 16 | 不整形 | 不整形 | 瓦質羽釜 | 南壁にあたる。 |
| E区 SD1004 | G-51.52 | 480 80 22 | 不整形 | 不整形 | 陶器壺 | 西側を一部SD1003に直角に切られる。 |
| E区 SD1006 | E-50.51 | 290 110 20 | 不整形 | 逆台形 | 土師質羽釜 | 搅乱と南壁に切られる。 |
| E区 SD1008 | F.G-50 | 920 300 14 | 不整形 | 不整形 | 土師質杯・高台付椀・鍋・土鍤 瓦質椀・羽釜 陶器碗・竈 磁器皿・青磁碗 砥石 | 北壁と搅乱、SK1003に切られる。 |
| E区 SD1013 | G-52 | 250 120 14 | 不整形 | 逆台形 | 須恵質こね鉢 | 北壁にあたる。 |
| E区 SD1014 | G-51.52 | 670 200 40 | 不整形 | 不整形 | 土師質皿・高台付椀・土釜・羽釜・土鍤 瓦質土釜脚・羽釜 須恵質こね鉢 陶器皿 磁器皿・碗 火打ち石 | 南壁にあたり、中央部搅乱に削平される。 |
| E区 SK1001 | F-49 | 111 50 16 | 長方形 | 逆台形 | 土師質高台付椀 青磁碗 | |
| E区 SK1002 | G-52 | 132 80 13 | 不整形 | 不整形 | 土師質杯 瓦質羽釜 | |
| E区 SK1003 | E.F-50 | 76 41 10 | 隅丸長方 形 | 不整形 | 土師質杯・高台付椀 | |
| E区 SK1011 | E-50 | 224 115 20 | 楕円形 | U字形 | 陶器碗 | 遺構中央部搅乱に切られる。 |
| E区 SK1012 | E-52 | 162 40 12 | 不整形 | 不整形 | 土師質杯 | 南壁にあたる。 |
| E区 SP1002 | F.G-52 | 80 55 36 | 楕円形 | 逆台形 | 土師質高台付椀 | |
| E区 SX1001 | F.G-49 | 364 294 14 | 不整形 | 逆台形 | 土師質羽釜・土鍤 磁器皿 白磁皿 | 北壁にあたり、西側SD1006に切られる。 |

第6表 田宮遺跡 F区 検出掲載遺構一覧表

(単位cm)

| 遺構名 | グリッド | 長軸 短軸 深さ | 平面形態 | 断面形態 | 出土遺物 | 備考 |
|----------------|-----------|-------------------------|------|------|------------------------------|--------------------------------|
| F-1区 SK1001 | G.H-66 | 99 78 17 | 長方形 | 逆台形 | 土師質土鍋 | |
| F-1区 SK1005 | G-67 | 82 55 28 | 楕円形 | U字形 | 瓦質羽釜 | |
| F-1区 SK1007 | G-67 | 300 135 20 | 不整形 | 不整形 | 土師質杯・皿・椀・土鍤 瓦質碗 須恵質こね鉢 | SK1008に遺構中央部を 切られる。 |
| F-1区 SK1008 | G-67 | 310 196 20 | 不整形 | 不整形 | 土師質杯・皿・椀・鍋・土鍤 瓦質碗・羽釜・甕 | |
| F-1区 SK1009 | G-67 | 126 58 25 | 不整形 | 不整形 | 土師質皿 | SK1008に西側を切られる。 |
| F-1区 SP1002 | G-66.67 | 45 40 20 | 円形 | 不整形 | 土師質椀 瓦器碗 青磁碗 | |
| F-1区 SP1009 | G-66 | 27 25 23 | 円形 | U字形 | 土師質椀 | |
| F-1区 SP1020 | G-67 | 35 20 19 | 不整形 | 不整形 | 土師質杯 | SK1004・SK1005に北側 を切られる。 |
| F-1区 SP1021 | G-67 | 57 30 39 | 長方形 | 不整形 | 土師質皿・椀・脚 | |
| F-1区 SP1022 | G-67 | 35 25 30 | 不整形 | U字形 | 土師質土鍋 | SK1008に東側を、SP1028 に西側を切られる。 |
| F-1区 SP1036 | G-66 | 30 29 16 | 円形 | U字形 | 土師質椀 青磁碗 | |
| F-1区 SP1055 | G-67 | 20 20 18 | 円形 | U字形 | 土師質皿・椀・土鍤 | |
| F-1区 SP1060 | G-67 | 25 25 15 | 円形 | U字形 | 瓦質椀・脚 | |
| F-2区 SD1002 | G.H-71.72 | 260 100 20 ~60 | 不整形 | 不整形 | 土師質皿・椀・羽釜 須恵質こね鉢 | 南・北壁にあたる。 |

出土遺物觀察表



第7表 田宮遺跡 A区 出土遺物観察表 土器・陶磁器等(1)

| 番号 | 器種 | 法寸(cm) | 形態の特徴 | 成形・技法 | 釉十 石英・雲母・赤色 底径 | 色調 | 備考 |
|----|-------------|--------------------------------------|-------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|---------------------------|-----------------|---------------------|
| 1 | 土師質杯 | 器高 底径 7.1 | 器壁を高く上げ、体部をわずかに外反させる。底部は圓盤へラテ切りを留める。 | 内外面回転ナダ。見込部回転ナダ後ヨコナダ。外周底部回転ヘラテ切り。 | 石英・雲母・赤色 底径。精良。 | に赤い褐色 | |
| 2 | 土師質杯 | 口径 器高 底径 10.6 2.6 6.4 | 体部すこし内凹し、口縁部。外周表面に成形による弱い棱線を留める。 | 内外面回転ナダ。外周底部回転ヘラテ切り。 | 石英・雲母・赤色 底径。精良。 | 内灰白色 外に赤い黄褐色 | |
| 3 | 土師質皿 | 口径 器高 底径 7.5 1.4 6.6 | 口縁部や外反。底部内面やや凹凸有り。 | 内外面回転ナダ。見込部ヨコナダ。外周底部回転系切り。 | 石英・雲母・赤色 底径。微砂粒を含む。 | 褐色 | |
| 4 | 土師質皿 | 口径 器高 底径 7.2 1.8 5.9 | 底部よりや外反しながら立ち上がる。(口縁部はやや丸い。) | 内外面回転ナダ。外周底部回転ヘラテ切り後ナダ。 | 石英・雲母・赤色 底径。微砂粒を含む。精良。 | に赤い褐色 | 吉備系 |
| 5 | 土師質皿 | 口径 器高 底径 7.6 1.3 5.9 | 体部直錐的。底部内面凸凹有り。 | 内外面回転ナダ。外周底部回転系切り後ナダ(掌誠)。 | 長石・雲母・砂岩・赤色 底径。微砂粒を含む。 | に赤い褐色 | |
| 6 | 土師質 高台台碗 | 口径 器高 底径 10.8 3.7 5.6 | 底部よりや内凹しながら緩やかに立ち上がる。(口縁部は丸い。底部貼付高台)。 | 内外面ナダ。貼付高台。 | 長石・雲母・砂岩。 | 浅黄色 | 吉備系 14C末 |
| 7 | 土師質 高台付鉢 | 口径 器高 底径 10.8 3.5 3.7 | 貼付高台で断面二角。 | 内外面回転ナダ。外周体部以下回転ケズリ後指オサエ。貼付高台。 | 石英・雲母・赤色 底径。 | 内に赤い褐色 外灰黄褐色 | 内面黒墨 外周付鉢 |
| 8 | 土師質鏡 | 口径 器高 (4.0) | 口縁部を「く」の字状に開口する。先端丸い。 | 内面ハケ目(10mm/cm)。口縁部先端回転ナダ。外周口縁部ナダ。外周新輪ハケ(6卒/cm)後ナダ。 | 長石・雲母・砂岩。 | 内に赤い褐色 外灰黄褐色 | |
| 9 | 土師質脚鉢 | 長径 18.6 | 断面は長門形で、外周全体に指オサエの開放である。底部開口、身筋有り。 | 指オサエ、ナダ。 | 長石・雲母・砂岩。 砂粒を含む。 | 明黄褐色 | |
| 10 | 瓦質機 | 口径 器高 (2.8) | 縁や内側しながら立ち上がる。(口縁部はやや厚め、やや丸い。) | 内外面クロナダ後指オサエ。外周底部回転ヘラケズリ後指オサエ。 | 石英。精良。 | 灰色 | 和泉型 |
| 11 | 瓦質 高台付碗 | 器高 (0.7) | 底部部で断面三角形の高台が貼り付けられている。 | 内面ハラミガキ。外周ナダ。貼付高台。 | 石英。 | 灰白色 | |
| 12 | 須志質 こね抹 | 口径 器高 (7.9) | 口縁部下方にわずかに笠頭がある。口縁部はやや厚め、やや丸く仕上げ。器蓋や薄い。 | 内外面クロナダ後指オサエ。 | 石英・長石・雲母・結晶片。微砂粒を多く含む。 | 内灰白色 外黒褐色 | 外周須志 東播系 14C後 |
| 13 | 須志質 こね抹 | 口径 器高 (7.5) | 体部直錐的で口縁部やや内傾。口縁部が上に張引きされ、「く」の字状の形状を示している。先端部は丸く仕上げる。 | 内外面クロナダ。内面体部ナダ。 | 石英・長石・雲母。微砂粒を多く含む。 | 灰色 | 東播系 |
| 14 | 肉器摸鉢 | 口径 器高 (3.8) | 体部直錐的で口縁部やや内傾。口縁部は平坦に仕上げる。 | 内外面クロナダ。内面撥目(4卒/cm)。 | 長石・雲母・砂岩。砂粒を含む。 | 内灰褐色 外に赤い黄褐色 | 備前系 備合時代後半 |
| 15 | 肉器摸鉢 | 口径 器高 (8.5) | やや内傾しながら立ち上がり、途中よりやや外反。口縁部は丸く仕上げる。 | 内外面クロナダ。内面撥目(12卒/2.3cm)。外周施鉢(8卒)。 | 精良。 | 赤色 | 在地系(大谷) 18C後~19C |
| 16 | 肉器模鉢 | | 内面に4条基準以上の横溝有り。 | 内外面クロナダ。内面撥目(3卒/cm)。 | 長石・砂岩。砂粒を多く含む。 | 灰色 | 備前系 |
| 17 | 肉器碗 | 口径 器高 底径 (1.5) 5.8 | 体部直錐的に立ち上がる。 | 内外面クロナダ。外周底部回転系切り。 | 長石・砂岩。 | 灰白色 | 備前系 |
| 18 | 肉器碗 | 口径 器高 底径 12.4 3.0 6.2 | 体部内窓。器壁薄く、口縁部はやや厚め。底部外周回転系切り、周縁には指オサエ痕あり。 | 内外面クロナダ。外周底部回転系切り。 | 長石・雲母・砂岩。 | 灰白色 | 口縫式吸着 備前系 |
| 19 | 肉器機 | 器高 底径 (3.1) 15.0 | 底部高台扁楕輪。高台外周は面取り。器蓋には細かい入る。胎土が堅致で白色を呈する。 | 外周上給付(赤・緑)文様不精良。 | | 灰白色 | 京・備朱系(京焼) |
| 20 | 陶器模木斜 | 器高 底径 (13.5) 15.0 | 底部より直錐的に立ち上がり中径よりや外反する。 | 内外面クロナダ。外周施鉢(灰釉)。 | | | 瀬戸・美濃系(瀬戸) |
| 25 | 土師質杯 | 口径 器高 底径 10.8 3.8 7.8 | 底部に回転系切り痕を留める。底部より内凹しながら立ち上がる。 | 内面ナダ。外周ヨコナダ。外周底部回転系切り。 | 石英・雲母。 | に赤い褐色 | |
| 26 | 土師質杯 | 口径 器高 底径 12.6 2.9 9.0 | 体部ややふくらみがあるものの直錐的に立ち上がり口縁部は豊唇に仕上げる。 | 内外面回転ナダ。 | 長石・雲母。赤色 底径。 | 灰黃褐色 | |
| 27 | 土師質杯 | 口径 器高 底径 11.8 2.9 7.0 | ハラクリ直を留める。体部はほぼ直錐的に立ち上がり、口縁部は尖り氣味である。 | 内外面ヨコナダ。見込部ナダ。外周底部回転ヘラ切り後板ナダ。 | 石英・雲母。赤色 底径。 | に赤い褐色 | |

第8表 田宮跡 A区 出土遺物観察表 土器・陶磁器等(2)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態的特徴 | 成型・技法 | 胎土 | 色調 | 備考 |
|----|-------------|-------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------|--------------------------|
| 28 | 土師質杯 | 口径 12.6 器高 3.0 底径 8.2 | 全体内外面に凹字なナデ。底部よりやや直線的に立ち上がる。口縁部はやや外反し殻部丸い。 | 内外面四輪ナデ。 | 石英・長石・雲母。 | 内に赤褐色 外灰質褐色 | |
| 29 | 土師質杯 | 口径 11.8 器高 3.3 底径 6.4 | 全体に叩き薄く、底部よりやや直線的に立ち上がる。 | 内外面ナデ。外面底部回転へ タ切目。 | 長石・雲母・赤色 斑紋。 | に赤い橙色 | |
| 30 | 土師質杯 | 口径 9.6 器高 1.8 底径 8.2 | 底部よりやや内湾しながら緩やかに立ち上がる。底部内面をやや凹む。 | 内外面ナデ。外面底部回転系 切り。 | 石英・長石・雲母・ 結晶片石・赤色斑 紋。砂粒をやや含む。 | 褐灰色 | |
| 31 | 土師質瓶 | 口径 7.6 器高 2.0 底径 4.8 | 底部が厚く、底部は直線的に立ち上がる。底部中央には穴が穿たれる。 | 内外四回転ナデ。外面底部回 転ハラ切り後四輪ナデ。穿孔 あり。 | 長石・雲母・赤色 斑紋。 | 橙色 斑紋。砂粒をやや 含む。 | |
| 32 | 土師質瓶 | 口径 7.4 器高 1.2 底径 6.2 | 口縁端部を丸くおさめる。 | 内外面四輪ナデ。外面底部回 転ハラ切り。 | 石英・雲母。 | 内に赤い青褐色 外橙色 | 吉備系 15C |
| 33 | 土師質瓶 | 口径 7.6 器高 1.4 底径 5.6 | 直線的に立ち上がり、口縁部丸くおさめる。 | 内外四輪回転ナデ。見込部ヨコ ナデ。外面底部回転ヘラ切 り。 | 長石・雲母・赤色 | 灰青褐色 | 吉備系 |
| 34 | 土師質瓶 | 口径 7.8 器高 1.7 底径 6.4 | 底部よりやや内湾しながら立ち上がる。底部と作部の境に段付が付いている。 | 内外面回転ナデ。見込部回転 ナデ後アラ強指オサエ。外面 底部回転ヘラ切り。 | 雲母・赤色斑紋・ 黒色斑紋。 | 内青灰色 外に赤い橙色 | 吉備系 |
| 35 | 土師質瓶 | 口径 8.0 器高 1.3 底径 6.0 | 直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く仕上げている。 | 内外面回転ナデ。外面底部回 転ヘラ切り。 | 長石・雲母・赤色 斑紋。 | 橙色 | 吉備系 |
| 36 | 土師質瓶 | 口径 11.8 器高 (2.9) | 底部内縁。口縁部直線的に殻部は丸い。 | 内面ヨコナデ・外面ヨコナデ・ 外面部ヨコナデ後 指オサエ。 | 石英・雲母・結晶 片石・砂粒を少量 含む。 | 浅黄色 | 吉備系 |
| 37 | 土器質 高台付碗 | 器高 (2.1) 底径 4.8 | 底部より殻部にかけて緩やかに内湾しながら立ち上がる。高台付窓口形。 | 内外面ナデ。高台部ヨコナ デ。附高台。 | 石英・長石・雲母・ 赤色斑紋。砂粒を やや含む。 | に赤い青褐色 | |
| 38 | 土器質 高台付碗 | 器高 (1.1) 底径 4.8 | 底部より緩やかに立ち上がる。高台前面直角三角形。 | 内外面ナデ。附高台。 | 長石・雲母・黑色 斑紋。砂粒をや や含む。 | 内灰褐色 外灰白色 | 吉備系 |
| 39 | 土器質 高台付碗 | 口径 11.0 器高 3.1 底径 4.6 | 断面三三角形の附高台。 | 内面丁寧なナデ。外面指オサ エ。外面底部ナデ。附高台。 | 石英・雲母・黑色 斑紋。 | 浅黄褐色 | 吉備系 14C 前半 |
| 40 | 土器質 高台付碗 | 口径 10.4 器高 3.5 底径 4.4 | 内湾しながら立ち上がる。口縁端部丸く仕上げる。外面体 部下部指オサエ。断面三 角形の附高台。 | 内面ヨコナデ後ナデ。外面ヨ コナデ。外面下部-底部ヨコ ナデ後指オサエ。附高台。 | 石英・雲母・赤色 斑紋。 | 灰白色 | 全体的にゆがみが生 じている 吉備系 |
| 41 | 土器質 こね鉢 | 口径 28.3 器高 (2.0) | 口縁端部の上下的凹張がわ ずかに見られる。端面を丸く 仕上げる。 | 内外面ヨコナデ。 | 石英・雲母・赤色 斑紋。砂粒をやや含む。 | 灰黃褐色 | 口縁部保付 吉備系 |
| 42 | 土器質 甕 | | 甕部である。 | 内外面オサエナデ。外面ハケ (5本/cm)。 | 石英・長石・雲母。 砂粒を含む。 | 内灰褐色 外に赤い黄褐色 | |
| 43 | 土師質甕 | 口径 21.6 (6.7) | 体部、口縁部が大きく内脣し させて端部は丸く仕上げる。 体部外縁に平凸タキが施さ れる。内面は板ナデで器壁は 薄くつくりである。 | 内外面板ナデ。外面口縁部ヨコ ナデ。外面部板ナデ、タッ キ(3本/cm)。 | 石英・雲母。 | に赤い褐色 | |
| 44 | 土師質脚部 | | 断面はU字形。全体に凸オサ エ後ヘラケスリ。後に縮方向 のナデを施す。 | 内外面ナデ。外面指オサエ、ナ デ。 | 石英・雲母。 | 灰色 | 焼付器 |
| 45 | 頸走質 こね鉢 | 口径 29.3 器高 (4.1) | 体部は直線的に立ち上がり口 縁部は緩やかに外反する。口 縁部は上方に披張し、端面 先端部は丸く仕上げる。 | 内外面ロクロナデ。 | 石英・雲母。砂粒 を含む。 | 灰褐色 | 東播系 14C 前半 |
| 46 | 頸走質 こね鉢 | 器高 (5.1) 底径 10.5 | 体部が直線的に立ち上がる。 | 内外面ロクロナデ。外面底部 回転ヘラ切り。 | 石英。 | 灰色 | 東播系 14C 前半 |
| 47 | 陶器質 擂鉢 | 口径 (35.4) 器高 (4.1) 底径 16.0 | 内面に等高しながら立ち上 がる。 | 内面幅口(8.5cm/2.6cm)。外 面ナデ。 | 石英・黑色斑 纹。 | 灰褐色 | 吉備系 |
| 48 | 陶器質 甕 | 器高 (5.7) 底径 33.0 | 底部よりやや直線的に立ち上 がる。外側体部は赤みを帯び た無釉焼締め。 | 内面ヨコナデ。外面ヨコナデ。 指オサエ。 | 石英・長石・雲母。 | 内灰褐色 外に赤い赤褐色 | 備前系 |

第9表 田宮遺跡 A 区 出土遺物観察表 土器・陶磁器等(3)

| 番号 | 器種 | 法寸(cm) | 形態の概要 | 底形・技法 | 胎土 | 色調 | 備考 |
|----|-------------|--------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|--------------------------------|-------------------|-------------------|--------------|
| 53 | 土師質杯 | 器高 底径 (2.4) 5.6 | 円筒ハレ口。底を留める杯である。底部にむかわに凸凹があり、作部はぼ直線的に立ち上がる。器身は全体に薄く削たれである。 | 内外面圓軸ナダ。見込部ナダ。外周底部圓軸ハラ切り。 | 露骨・赤褐色斑粒。 | にぶい橙色 | 吉備系? |
| 54 | 土師質皿 | 口径 器高 底径 8.9 1.7 7.8 | 底部に圓弧系切り底を留める皿である。色調はにぶい檻で、胎土に砂粒を少し含む。口縁一部は丸い。 | 内外面圓軸ナダ。外面底部圓軸系切り。 | 石英・雲母・結晶片呑・赤褐色斑粒。 | にぶい橙色 | |
| 55 | 土師質皿 | 口径 器高 底径 8.5 1.3 7.2 | 底部に圓弧系切り底を留める皿である。色調はにぶい檻で、胎土に砂粒を少し含む。口縁一部は丸い。 | 内外面圓軸ナダ。外面底部圓軸系切り。 | 石英・雲母・鈔青・赤色斑粒。 | にぶい橙色 | |
| 56 | 土師質杯 | 器高 底径 (0.8) 7.1 | 内底底部中央に大きな窪をつくる。指サエ工痕後ヨコナダ。 | 内面指ナダ。外面ヨコナダ。外周底部圓軸ハラ切り。 | 石英・雲母・赤色斑粒。 | 内浅黃褐色 外にぶい青褐色 | |
| 57 | 土師質杯 | 口径 器高 底径 11.2 3.0 5.4 | 器壁は全体に薄くやや内凹。底部内面に凸凹がある。底部外周の切り端は不規則で丸い。切り端には不分明だが丁寧なナダで仕上げられている。 | 内外面圓軸ナダ。外面底部ナダ。 | 石英・雲母・赤色斑粒。 | 内にぶい橙色 外にぶい黄褐色 | |
| 58 | 土師質杯 | 口径 器高 底径 12.5 3.4 8.0 | 器壁は全体に薄くやや内凹。底部内面に凸凹がある。底部外周の切り端は不規則で丸い。切り端には不分明だが丁寧なナダで仕上げられている。 | 内外面圓軸ナダ。 | 石英・雲母・赤色斑粒。 | にぶい黄褐色 | 内夷里延 吉備系 |
| 59 | 土師質杯 | 口径 器高 底径 11.2 3.1 6.8 | 底部内面にむかわに凸凹があり体部はぼ直線的に立ち上がる。底部内面に圓軸ハラ切り後ナダ。 | 内面ナダ。外面圓軸ナダ。外周底部圓軸ハラ切り後ナダ。 | 露骨・赤色斑粒。 | 内にぶい橙色 外灰黃褐色 | 吉備系 |
| 60 | 土師質皿 | 器高 底径 (1.2) 5.2 | 内面底部中央に大きな窪をつくる。指サエ工痕後ヨコナダ。 | 内外面圓軸ナダ。外面底部圓軸ハラ切り。 | 長石・雲母。 | にぶい黄褐色 | |
| 61 | 土師質皿 | 口径 器高 底径 8.0 1.5 6.0 | はぼ直線的に立ち上がりで口縁部を丸くおさめる。 | 内外面圓軸ナダ。見込部ヨコナダ。外周底部圓軸ハラ切り後ナダ。 | 長石・雲母・赤色斑粒。 | 橙色 | |
| 62 | 頬差質甌 | | 体部片である。 | 内面剥離。外面タキ目。 | 石英・長石・雲母・黑色斑粒。 | 内黄褐色 外灰色 | |
| 63 | 土師質杯 | 口径 器高 底径 12.9 3.5 8.8 | 全体に器壁を薄く仕上げる杯である。器底からぼ直線的に立ち上がり、口縁部をやや尖り気味に仕上げる。体部内外面にはヨコナダが施される。 | 内面ヨコナダ。外面圓軸ナダ。外周底部摩滅。 | 石英・雲母・黒色斑粒。 | 内にぶい黄褐色 外浅黃褐色 | |
| 64 | 土師質杯 | 器高 底径 (1.3) 6.8 | 体部や内壁気味に立ち上がる。底部内面に指サエ工痕あり。 | 内外面圓軸ナダ。外面底部圓軸ハラ切り。 | 石英・雲母・赤色斑粒。 | 内にぶい橙色 外にぶい青褐色 | |
| 65 | 角形容 | 口径 器高 底径 12.2 3.2 6.9 | 底部の切り端に同軸系切りを用いている。体部は直線的に立ち上がり、器壁を薄く仕上げている。口縁は丸く仕上げる。 | 内外面クロナダ。外面底部圓軸系切り。 | 石英・雲母。 | 灰白色 | 備前系 |
| 66 | 須恵器 こね拂 | 器高 底径 (8.0) 11.5 | 器部が直線的に立ち上がる。内面下部四凸多い。 | 内外面ヨコナダ。外周底部指サエ工痕。 | 石英・長石・雲母・黑色斑粒。 | 灰褐色 | 東播系 14C後半 |
| 71 | 土師質杯 | 口径 器高 底径 13.0 3.4 9.4 | 器底厚い。底盤から内凹しながら立ち上がり、口縁部を丸くおさめる。 | 内外面ヨコナダ。 | 石英・雲母・赤色斑粒。 | 内褐色 外にぶい橙色 | |
| 75 | 土師質皿 | 口径 器高 底径 7.9 1.4 7.6 | 底部圓軸系切り。内面指サエ工痕後ナダ。 | 内面指ナダ。外面ヨコナダ。外周底部圓軸系切り。 | 雲母・赤色斑粒・黑色斑粒。 | にぶい黄褐色 | |
| 76 | 土師質皿 | 口径 器高 底径 7.6 1.2 6.4 | 底部より直線的に立ち上がり、口縁部をやや丸い。体部ナダ。底部切り端し小崩。 | 内外面ナダ。見込部指サエ工痕後ナダ。 | 石英・雲母・赤色斑粒。 | にぶい黄褐色 | 吉備系 |
| 77 | 土師質皿 | 口径 器高 底径 8.2 1.1 3.6 | 底部より直線的に立ち上がり口縁部を丸く仕上げる。 | 内面圓軸ナダ後ナダ。外周底部圓軸ハラ切り。 | 石英・雲母・赤色斑粒。 | にぶい黄褐色 | |
| 78 | 土師質 羽茎副頭 | | 断面不整形。先端部直線防で尖っている。全体に指サエ工痕ナダ。 | 指サエ・指ナダ。 | 石英・雲母・赤色斑粒。 | 灰褐色 | 備前系 |
| 79 | 須恵器 こね拂 | 器高 底径 (6.7) 12.4 | 底部より直線的に立ち上がる。 | 内面ナダ(やや摩滅)。外周クロナダ後指サエ。 | 石英・雲母・結晶片呑。 | 内灰白色 外灰色 | 東播系 14C後 |

第10表 田宮遺跡 A区 出土遺物觀察表 土器・陶磁器等(4)

| 番号 | 器種 | 法式(cm) | 形状の特徴 | 成形・技法 | 胎土 | 色調 | 備考 |
|-----|-------------|----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|------------------------|------------------|----------------------|
| 80 | 土師質杯 | 口径 器高 (2.8) | 底部より直線的に立ち上がり、口縁近くにやや内凹する。口縁部はややせんがらく仕上げる。胎土精良。 | 内外面圓軸ナダ。 | 長石・雲母。精良。 | 内褐色 外にぶい黄褐色 | |
| 81 | 土師質 高台付碗 | 口径 器高 底径 (11.6 3.2 5.2) | 退化した断面三角形の粗雑な作りの高台が點々付けられて いる。部体内部に口縁部はほぼ直線。口縁部はやくい。 | 内外面ヨコナダ。點付高台。 | 石英・長石・雲母。赤色斑粒。 | 浅黃褐色 | 吉備系 14C後半 |
| 82 | 土師質杯 | 口径 器高 底径 (12.2 3.3 7.0) | 底部内面にわずかに凹凸があり、体部は直線的に立ち上がる。器底は全周的に薄く、体部内外面にナダが施される。底部、内部底部は丁寧なナダ。胎土は精良・色調はにぶい橙を呈する。 | 内外面圓軸ナダ。見込部指ナダ、指ササ。 | 石英・長石・赤色斑粒。黒色斑粒。精良。 | にぶい褐色 | |
| 83 | 陶器瓶 | 器高 底径 (8.2 25.2) | 堅く焼き締められた瓶の裏である。立ち上がりやや内凹した後すぐ直線的に立ち上がる。 | 内外面ケズリ。外面底部ナダ。 | 石英。 | 内褐灰色 外灰褐色 | 内窓設合直 前系 14C末 |
| 84 | 須恵質 こね沫 | 口径 器高 (30.8 4.9) | 口縁部下方にわざかに拡張し、縫合先端部ややくい仕上げる。器底ややくい。 | 内凹治ナダ。外面口縁部ヨコナダ。外面指ササハ指ナダ。 | 石英・雲母。 | 内暗灰色 外灰色 | 内面幕付直 東洋系 14C後 |
| 85 | 土師質杯 | 口径 器高 底径 (11.0 3.2 7.0) | 底部より直線的に立ち上がる。口縁部ややくい。器底金合に薄い、やや丁寧なナダ。 | 内外面圓軸ナダ。 | 長石・雲母。赤色斑粒。精良。 | 橙色 | |
| 86 | 土師質杯 | 口径 器高 底径 (11.8 2.5 8.1) | 底部内面にわずかに凹凸があり、体部は直線的に立ち上がる。口縁部はやくい仕上げる。 | 内外面圓軸ナダ。外面底部四軸へきり。 | 長石・砂岩。微砂粒を含む。 | にぶい黄褐色 | |
| 87 | 土師質杯 | 口径 器高 底径 (11.4 3.3 4.6) | ほほ直線的に立ち上がる。外側には成形による棱が数条つく。口縁部は丸い。 | 内外面ヨコナダ。 | 石英・雲母。微砂粒を多く含む。 | 内にぶい黄褐色 外灰黄褐色 | 外窓提付直 |
| 88 | 土師質 高台付碗 | 器高 底径 (1.2 5.0) | 断面三角形の高台が點々付けられる。胎土精良で内部内面には丁寧なナダが施されている。 | 内凹ナダ。外面回転ナダ。高台内ナダ。點付高台。 | 石英・長石・雲母。精良。 | 内灰白色 外浅黄褐色 | |
| 89 | 土師質碗 | 口径 器高 (10.0 (2.3) | 体部直線的に立ち上がり、口縁部少し内凹して縫合がやくい仕上げる。部体の器底は窪い。胎土精良。 | 内外面ヨコナダ。 | 雲母。黑色斑粒。精良。 | 浅黃褐色 | |
| 90 | 須恵質甕 | | 口縁部で、外反する端部内側に1条の浅い溝がある。 | 内外面ヨコロナダ。 | 石英・雲母。黑色斑粒。 | 灰色 | |
| 91 | 土師質鉢 | | 断面長円形、基部大きく屈曲。身部扁錐的。 | 内面ハケ(7本/回)。外面ハケナリ後指オサエ。 | 石英・長石・雲母。黑色斑粒。砂粒を多く含む。 | にぶい黄褐色 | |
| 93 | 須恵質甕 | | 体部外側に格子状のタキ目が施され、頭部はコマナダ。胎土は格子状。 | 内面ヨコナダ。外面ヨコナダ。格子状タキ目。 | 石英・長石・雲母。砂粒を多く含む。 | 灰色 | 鬼山系? |
| 94 | 陶器花瓶 | 器高 底径 (3.8) | 底部が丸く付けられ、圓弧状切りが施されている。某地は灰白色で部分的に灰褐色が施塗され、淡褐色に光沢している。 | 内外面ヨコロナダ。見込部、外側作部施釉(灰釉)。外面底部回転ホモ切り。 | 石英・長石・雲母。 | 内灰白色 外灰黄色 | 瀬戸・美濃系(瀬戸) |
| 95 | 土師質碗 | 口径 器高 (9.2 (2.4) | 体部内面で内面丁寧なナダ。口縁部丸く仕上げる。 | 内外面回転ナダ。 | 長石・雲母。赤色斑粒。 | 内青褐色 外にぶい灰褐色 | 14C中 |
| 99 | 土師質杯 | 口径 器高 (11.2 (2.8) | 体部やや内凹。口縁部は直線的な立ち上がりで縫合はやや尖る。 | 内凹ナダ。外面回転ナダ。 | 石英・雲母。赤色斑粒。 | 内にぶい褐色 外にぶい橙色 | 古墳系 |
| 100 | 土師質甕 | 器高 底径 (1.4 7.6) | 窓型容壁。底部より内削して立ち上がる。 | 内外面回転ナダ。見込部指サエ後ナダ。外側底部回転ホモ切り後工具削。 | 長石・雲母。赤色斑粒。 | 橙色 | |
| 101 | 土師質杯 | 口径 器高 底径 (11.8 3.4 7.6) | 底部切り離し技法が同軸大切りによるもの。底部から大きく内削して立ち上り、口縁部を尖り気味に仕上げる。体部外側には成形による棱がつき、部体内面にはナダが施される。 | 内外面回転ナダ。外・底底部回転ホモ切り。 | 長石・砂岩。微砂粒を多く含む。 | 内淡黃褐色 外にぶい青褐色 | |

第11表 田宮遺跡 A区 出土遺物觀察表 土器・陶磁器等 (5)

| 番号 | 器種 | 法寸 (cm) | 形態の特徴 | 成形・接法 | 胎土 | 色調 | 備考 |
|-----|------------|------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------------------|---------------|-----------------------|
| 102 | 土師質杯 | 口径 器高 底径 7.2 3.0 8.0 | 底部内面はわずかに凸凹があり、体部にはぼ直線的に立ち上がる。口縁部はやや尖る。 | 内外面凹輪ナデ。外面部下半少ナデ。外底部四隅へク切り後ナデ。 | 石英・雲母・赤色 斑紋。種良。 | 浅黄褐色 | |
| 103 | 七師質皿 | 口径 器高 底径 7.7 1.6 5.7 | 底部に凹輪系切り痕。底部や外底反対。底部内面凹内あり。 | 内面ナデ。外面ヨコナデ。外西底部凹輪あり。 | 石英・雲母・黒色 斑紋。精良。 | にぶい黄褐色 | |
| 104 | 七師質皿 | 口径 器高 底径 8.4 1.6 7.0 | 口縁部は直線的に立ち上がる。口縁部は丸い。底部内面やや円凸あり。 | 内外面凹輪ナデ。外面部凹輪系切り。 | 長石・雲母・赤色 斑紋。砂粒を多く含む。 | 内にぶい橙色 外根色 | |
| 105 | 七師質皿 | 口径 器高 底径 7.6 1.7 5.4 | 底部切口に複数の棱が形成へラブ切り。体部にはぼ直線的に立ち上がり、口縁部や外反し、溝感を丸く仕上げる。胎土は微砂粒は含むが微ね練良。 | 内外面凹輪ナデ。見込部指ナデ。外東底部凹輪へラブ切り。 | 石英・雲母。 精良。 | 内灰白色 外淡黄色 | |
| 106 | 上師質碗 | 口径 器高 (3.7) | 底部から内側して口縁部は丸い。外底部には指ナサエ痕あり。内向外共に丁寧なナデ。耐土練良。 | 内面ナデ。外面指オサエ、ナデ。 | 石英・雲母。 精良。 | 灰白色 | |
| 107 | 土師質碗 | 口径 器高 (2.9) | 体部・口縁部内凹。口縁部丸く仕上げる。 | 内面ヨコナデ。外面下部指オサエ後ナデ。 | 石英・長石・雲母。 | 浅黄褐色 | |
| 108 | 上師質土鍋 | 口径 器高 (4.9) | 11縁部が「く」の字状の形態をもつ。11縁端部やや肥厚。底部内面に後。 | 内外面凹輪ナデ。外面部沈澱。 | 石英・長石・雲母・赤色斑紋。 | 橙色 | 内外面糊付着 |
| 109 | 土師質 こね跡 | 口径 器高 (5.9) | 体部直線的に上方に延びる。口縁部はわざかに肥厚して溝感をやや上方につまみ上げる。 | 内面ヨコナデ。外面口縁部ヨコナデ。外底部指オサエ後ヨコナデ。 | 石英・長石・雲母・ 黒色斑紋。1mm程度の砂粒を含む。 | 内深色 外明暗褐色 | |
| 110 | 瓦質 高台付椀 | 器高 底径 (1.4) 6.8 | 底部よりやや内寄しながら立ち上がる。底部外周側にサフ痕あり。周面三角形状の高台貼付。色感は灰褐色である。 | 内面クロコナデ。外面指オサエ、ナデ。高台内ナデ。貼付高台。 | 石英・雲母。 精良。 | 灰白色 | |
| 111 | 陶器碗 | 口径 器高 (2.3) | 底部より口縁部にかけて内凹し、11縁端部は丸く仕上げる。色感は灰白色で、容積は个体に薄く仕上げる。 | 内外面クロコナデ。 | 長石・雲母・黒色 斑紋。精良。 | 灰白色 | 備前系 |
| 112 | 丸質羽釜 | 口径 器高 (2.3) | 口縁部はぼ直立気味で、口縁部以下に断面三角形の埋い袋が付く。口縁端部を丸くおさめる。 | 内外面ヨコナデ。 | 石英・雲母・赤色 斑紋。 | 灰白色 | |
| 113 | 須恵質 こね跡 | 口径 器高 (4.5) | 口縁部を肥厚させるとともに下方への延びがわざかに認められる。 | 内面ヨコナデ。外面口縁部ヨコナデ。外底部ヨコナデ。 | 石英・黒色斑紋。 | 灰褐色 | 東漢系 |
| 114 | 須恵質甕 | | 頭部直下部分の体部器である。 | 内面ハケ (7本/回)。外面口クロナデ後平行タキ (3本/回)。 | 石英・雲母・黒色 斑紋。 | 灰色 | |
| 115 | 須恵質甕 | | 体部器である。 | 内面ナゲ。外面格子目タキ。 | 石英・長石・雲母・ 黒色斑紋。 | 内黄灰色 外灰褐色 | 内面糊付着 |
| 116 | 陶器瓶 | 口径 器高 (7.6) 15.4 | 口縁部直線的。口縁部以下に大きめに張出し、先端部を丸く仕上げる。体部内面に1条のみ横筋状線。 | 内外面クロコナデ。内面滑目 (1条)。底部指オサエ。 | 長石。砂粒を多く含む。 | 内黒褐色 外暗赤褐色 | 体部後合模 備前系 16C 初 |
| 117 | 陶器瓶 | 口径 器高 (5.2) | 口縁部の形態から口縁部を少し削りに切り漸縮感をやや絞り感が見られる。 | 内外面クロコナデ。内面滑目 (5条/1.6cm)。 | 石英・長石・雲母・ 黒色斑紋。 | 灰色 | 備前系 |
| 118 | 陶器甕 | 器高 底径 (8.9) 15.4 | 陶器の裏の底部である。底部より直線的に立ち上がる。 | 内面上部指オサエ後板ナゲ。内底下部指ナゲ。外面板ナゲ後ナゲ。 | 石英・砂粒・濃色 多く含む。 | 灰褐色 | 備前系 |
| 119 | 土師質土瓶 | 長径 幅 厚み 少孔径 重さ (3.3) 1.2 1.2 0.3 4.40 | 筋縫部の管状土瓶。特に軸十を巻き付けて成形。全体にナデ。 | ナデ。 | 石英・長石・結晶 片岩・赤色斑紋。 やや砂粒を含み、 微細粒を少し含む。 | 浅黃褐色 | |
| 122 | 土師質皿 | 口径 器高 底径 7.2 1.8 5.5 | 底部より縫やかに内側して立ち上がり口縁部は丸く仕上げる。器盤やや厚い。底部内面やや円凸あり。 | 内外面凹輪ナデ。外底部凹輪へラブ切り。 | 石英・雲母・赤色 斑紋。 | にぶい褐色 | |

第12表 田宮遺跡 A区 出土遺物觀察表 土器・陶磁器等(6)

| 番号 | 器種 | 法寸(cm) | 形態の特徴 | 成形・技法 | 胎土 | 色調 | 備考 | |
|-----|-------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|------------------------------|------------------|-------------|-----------|
| 123 | 土師質土錠 長径 幅 厚み 空孔径 重量 | (2.3) 1.1 1.1 0.4 2.45 | 紡錘形の管状土錠。棒に胎土を巻き付けて成形。指さエ後ナデ。 | ナデ。 | 石英・雲母。精良。 | にぶい赤褐色 | 焼付着 | |
| 124 | 上仰質灰 底径 | (3.0) 6.4 | 底部よりやや内寄し体部直線的に立ち上がる。 | 内外面回転ナデ。外周底部厚成。 | 石英・雲母・赤色 斑粒。精良。 | 内にぶい褐色 外にぶい褐色 | 14C | |
| 125 | 土師質皿 口径 器高 底径 | 7.4 1.3 5.6 | 底部外側は四軒へら切り後ナデが施される。底周内面には凹凸があり、近感から外方に傾いて立ち上がる。口縁端部は丸くおさめる。 | 内外面回転ナデ。外周底部回転へり切り。 | 石英・雲母。精良。 | 褐色 | 古鏡系 | |
| 126 | 土師質皿 口径 器高 底径 | 8.2 1.4 7.2 | 底部より直線的に立ち上がり、口縁端部はやや丸い。内面底部はやや盛り上がり指さエの痕有り。外周底部回転へり切り後やや粗いナデを施し、その後指さエ。 | 内外面回転ナデ。外周底部回転へり切り。 | 長石・砂岩。微砂粒を多く含む。 | 褐色 | | |
| 127 | 七郎質皿 口径 器高 底径 | 8.7 1.6 7.8 | 底部より直線的に立ち上がり、口縁端部はやや丸い。内面底部はやや盛り上がり指さエの痕有り。外周底部回転へり切り後やや粗いナデを施し、その後指さエ。 | 内外面回転ナデ。外周底部回転へり切り。 | 石英・長石・雲母・結晶片岩・赤色斑粒。微砂粒を多く含む。 | 褐色 | | |
| 128 | 須恵質灰 | | 体部片では直線的に立ち上がる。 | 内面青滑波紋。外周格子目タキ。 | 砂粒。 | 灰白色 | | |
| 129 | 周器環体 口径 器高 | 25.0 (8.5) | 体部内面に8条以上を半笠とする横擗条縫を施す。体部直線的。口縁端部は半径に仕上げる。 | 内外面クロロナデ。内面横目(4条/cm)。 | 精良。砂粒を含む。 | 灰白色 | 備前系 鎌倉後半 | |
| 130 | 磁器碗 | 口径 器高 | 15.4 (3.0) | 口縁部直線的に立ち上がり、肩部やや尖る。全面に淡褐色の細い船が施されている。 | 内外面施釉(青磁)。 | 精良。微砂粒を含む。 | 青灰色 | 龍泉窯系青磁 |
| 131 | 退器壺 | 口径 器高 | 13.2 (2.7) | 白磁内青磁。口縁部直線的で丁度端部下方に強張先端部ややくしく仕上げる。 | 内外面クロロナデ、施釉(白磁)。 | 精良。 | 灰白色 | 白磁 中国系 |
| 132 | 土師質灰 長径 短径 | 6.8 4.2 | 竈の一端と思われる。 | | 石英・長石・雲母・砂岩・結晶片岩。 | にぶい褐色 | | |
| 133 | 土師質土錠 長径 幅 厚み 空孔径 重量 | 3.4 1.6 1.6 0.6 | 紡錘形の管状土錠。棒に胎土を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 長石・雲母・砂岩。砂粒を含む。 | 灰黃褐色 | | |

第13表 田宮遺跡 A区 出土遺物觀察表 石製品・金属製品

| 番号 | 器種 | 法 量 | | | | 備 考 |
|-----|-------|--------|-------|-------|-------|--------------------|
| | | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重(g) | |
| 21 | 石製品砥石 | 21.4 | 19.5 | 6.5 | 3650 | 砂岩 |
| 49 | 石製品砥石 | 19.2 | 18.7 | 9.2 | 3850 | 泥質。表面保付着。紙面1面 |
| 120 | 石製品砥石 | 5.2 | 2.7 | 1.1 | 27.13 | 粘板岩綠色片岩。燃付着。紙面1面 |
| 22 | 銭貨 | 2.5 | | | 2.78 | 祥符元宝(初鑄1009・北宋渡來錢) |
| 23 | 銭貨 | 2.4 | | | 2.48 | 熙寧元宝(初鑄1068・北宋) |
| 24 | 銭器 | | | | | 釘? |
| 50 | 銭貨 | 2.4 | | | 1.41 | 文字不明 |
| 51 | 銭貨 | 2.5 | | | 2.16 | 文字不明 |
| 52 | 銭貨 | 2.4 | | | 2.12 | 祥符元宝(初鑄1009・北宋) |
| 67 | 銭貨 | 2.5 | | | 2.29 | 咸平元寶(初鑄998・北宋) |
| 68 | 銭貨 | 2.4 | | | 3.13 | 元豐通宝(初鑄1078・漢宋錢) |
| 69 | 銭貨 | 2.5 | | | 2.47 | 元祐通宝(初鑄1098・漢宋錢) |
| 70 | 銭貨 | 2.5 | | | 2.36 | 元符通宝 |
| 71 | 銭貨 | 2.5 | | | 3.19 | 天聖元宝(1023・北宋) |
| 72 | 銭貨 | 2.5 | | | 3.67 | 天聖元宝 |
| 73 | 銭貨 | 2.5 | | | 2.10 | 文字不明 |
| 92 | 銭貨 | 2.5 | | | 2.38 | 大觀通宝(初鑄1107・北宋渡來錢) |
| 96 | 金属器不明 | 1.4 | | | 0.55 | |
| 97 | 銭貨 | 2.5 | | | 2.78 | 文字不明 |
| 98 | 銭器 | | | | | 釘? |
| 121 | 銭貨 | 2.5 | | | 2.99 | 文字不明 |

第14表 田宮遺跡 B-1区 出土遺物観察表 土器・陶磁器等

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | 形態の特徴 | 成形・技法 | 胎土 | 色調 | 備考 |
|-----|---------|-------------------------------------|------------------------|---------------------------------------------|-----------------------------------------------------|----------------------------|---------------------|
| 134 | 陶質搖鉢 | | 体部や内壁。内面には柔軟な土で施されている。 | 内面模口 (3条/cm)。 | | にぶい赤褐色 | 備前系 |
| 136 | 瓦質羽釜 | 11径 器高 底径 14.0 11.8 | 24.4 | 平底から狭やかに内壁しながら立ち上がる。口縁部は直線形で断面円形の窓が水平に貼り付く。 | 内面クロナダ後下平板ナダ。外周口縁部はクロナダ。脚部指サエ。外面部脚部磨滅不明。外面部脚部格子口タキ。 | 石英・長石・雲母・赤色斑紋。砂粒を多く含む。 | 内灰黄色 外灰白色 |
| 137 | 瓦質羽釜 | | | 直立する口縁部に断面凸形状の窓の貼り付け。 | 内面指ナダ。外周口クロナダ、指サエ。 | 石英・長石・雲母・結晶片・赤色斑紋。砂粒を多く含む。 | 内灰白色 外灰白色 |
| 138 | 須志質 こね鉢 | 口径 器高 (6.4) | 30.4 | 底部より直立的に立ち上がる。口縁部は「匁」の字状にやや外反している。 | 内外面口クロナダ。 | 長石・砂岩。砂粒を含む。 | 灰色 |
| 139 | 土師質 雜置口 | 長径 器高 底径 7.0 3.7 5.1 | | 管状の窪口。 | | 長石・雲母・砂岩。小粒・砂粒を多く含む。 | にぶい黄褐色 部分的に被熱跡あり |

第15表 田宮遺跡 B-2区 出土遺物観察表 土器・陶磁器等

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | 形態の特徴 | 成形・技法 | 胎土 | 色調 | 備考 | |
|-----|-----|--------------------------|-------|------------------|------------------------|-----|-----|----------|
| 141 | 陶器碗 | 器高 底径 (2.6) 4.6 | | 底部より内壁しながら立ち上がる。 | 内外面磨擦 (灰胎)。高白砂質。蓋付部無地。 | 精良。 | 灰黄色 | 肥前系 (信譯) |

第16表 田宮遺跡 B-3区 出土遺物観察表 土器・陶磁器等 (1)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | 形態の特徴 | 成形・技法 | 胎土 | 色調 | 備考 | |
|-----|--------------|--------------------------------------|--------------|------------------------------------------------|-----------------------------|------------------------|-----------------|--------|
| 142 | 土師質杯 | 口径 器高 底径 10.8 3.5 6.0 | | 底部よりやや内壁しながら立ち上がり、口縁部はやや外反する。先端部は丸い。内外面底部凹内折り。 | 内外面回転ナダ。外面部脚部斜へり切り。 | 精良。 | 浅灰黄色 | 古備系 |
| 143 | 土師質 高台付碗 | 器高 底径 (1.4) 5.0 | | 断面内形の低い貼付高台。 | 内外面回転ナダ。貼付高台。 | 石英・雲母・赤色斑紋。 | 内にぶい黄褐色 外浅黄色 | |
| 144 | 瓦質碗 | 口径 器高 (3.4) | 13.2 | 口縁部は肥厚する。体部や内壁、底部外面は指サエの痕あり。 | 内面クロナダ。ハラミガキ暗文。外周口クロナダ、指サエ。 | 石英・微沙粒を含む。 | 灰褐色 | 和泉型 |
| 145 | 須志質 こね鉢 | 口径 器高 (4.0) | 22.0 | 口縁部を低張し、縫合を丸く仕上げる。 | 内外面口クロナダ。 | 石英・雲母・微沙粒を多く含む。 | 灰色 | 東播系 |
| 146 | 瓦質碗 | 口径 器高 (2.8) | 14.4 | 内壁しながら立ち上がり、口縁部はやや低張し外反する。「匁」縁部は欠けている。 | 内外面口クロナダ。外面部下半回転ヘラケズリ、指サエ。 | 石英・雲母・黒色斑紋。精良。 | 内灰白色 外灰白色 | |
| 147 | 土師質碗 | 器高 底径 (3.5) 9.0 | | 底部に両低張り底を留め底部からほぼ直立的に立ち上がる。内面底部に凹有り。 | 内外面回転ナダ。外面部脚部斜め切り。 | 石英・長石・雲母・赤色斑紋。砂粒を多く含む。 | 内浅黄色 外にぶい褐色 | |
| 148 | 土師質 高台付碗 | 器高 底径 (1.2) 5.3 | | 高台断面方形で高台付部は外側に広がる。 | 内外面回転ナダ。貼付高台。 | 石英・長石・雲母・赤色斑紋。微沙粒を含む。 | 浅灰黄色 | 古備系 |
| 149 | 瓦質皿 | 口径 器高 底径 7.6 1.3 5.6 | 8.4 (1.9) | 底部よりやや内壁しながら立ち上がり口縁部は丸くさめる。 | 内外面口クロナダ。見馬部ナダ。外面部指サエ後ナダ。 | 石英・微沙粒を小量含む。 | 灰色 | 和泉型 |
| 150 | 瓦質皿 | 口径 器高 (1.9) | | 内壁しながら立ち上がり口縁部は丸くさめる。 | 内外面口クロナダ。外面部指サエ後ナダ。 | 石英。精良。 | 灰色 | 和泉型 |
| 151 | 瓦質羽釜 | | | 窓い断面円形の窓が直底に貼り付けられ内外面口クロナダが施される。 | 内外面ヨコナダ。 | 石英・長石・雲母。 | 内灰白色 外灰黄色 | |
| 152 | 須志質 こね鉢 | 口径 器高 (3.8) | 27.6 | 口縁部を低張し、縫合を丸く仕上げる。 | 内外面口クロナダ。 | 石英・雲母・微沙粒を多く含む。 | 内灰黑色 外黒色 | 東播系 |
| 153 | 磁器皿 | 口径 器高 (1.9) | 10.8 | 暗灰黄色の青磁胎が全面に施釉される。胎盤皿。 | 内外面施釉 (青磁)。内面口縁部模様3条 (施釉)。 | | 灰色 | 青磁 |
| 154 | 粗恐碗 | 口径 器高 (3.9) | 14.2 | 体部内壁。体部外側に施釉丸底。全面に淡青色釉を厚めに施す。 | 内外面施釉 (青磁)。外面部脚部丸底。 | 精良。 | 灰白色 | 紀州窯系青磁 |
| 155 | 土師質碗 | 器高 底径 (2.8) 10.2 | | 底部よりやや内壁しながら立ち上がる。 | 内外面回転ナダ。外面部脚部斜へり切り。 | 石英・雲母・微沙粒を小量含む。 | にぶい褐色 | |
| 156 | 土師質玩具 (ペーロマ) | 民径 器高 底径 3.5 2.8 3.4 | | 丸形。 | 製作。 | 石英・長石・雲母・微沙粒を小量含む。 | にぶい橙色 | |

第17表 田宮遺跡 B-3区 出土遺物観察表 土器・陶磁器等(2)

| 番号 | 器種 | 法寸(cm) | 形態的特徴 | 成形・技法 | 胎上 | 色調 | 備考 | |
|-----|-------------|-------------------|--------------------|---------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|--------------------------------------|----------------|----------------|
| 157 | 陶質鉢 | 口径 器高 底径 | 16.0 7.1 6.1 | 底部・体部で縦筋しながら直 線的に立ち上がる。口縁端部 は「く」の字状に屈曲する。 | 内外面施釉(透明釉)。内面 イッサン焼き(白泥、鐵釉)。 見返部抵3点。外面腹部以 下無釉。全面貫入。 | 微砂粒を含む。 | 淡黄色 | 京・信楽系 |
| 158 | 土器質斧 | 口径 器高 | 21.6 (6.0) | 全体にやや内凹させた縁端部 をやや尖り丸く仕上げる。 | 内面口縁部ヨコハケ(5本、 cm)。内面体部同軸ナデ。外面 口縁部凹ナデ。外面体部格子 目タタキ。 | 長石・雲母・砂岩。 微砂粒を含む。 | 内黄褐色 外褐色 | 外面焼付着 |
| 159 | 陶質水注 | 口径 器高 底径 | 6.3 7.7 6.0 | 把手貼付。後半平底形。 | 内外面施釉(透明釉)。外面 底部鋸歯。全面貫入。 | 焼失。 | 淡黄色 | 京・信楽系 |
| 160 | 土器質羽釜 | 口径 器高 (2.7) | 26.5 2.7 | 口縁部が内凹し、縁部はやや 尖り気味で丸くおさめる。断 面三角形の低い脚が貼り付け られる。 | 内外面凹軸ナデ。 | 石英・長石・雲母。 砂粒を多く含む。 | 内に赤褐色 外黒色 | 外面体部焼付着 |
| 161 | 土器質碗 | 口径 器高 (2.2) | 10.0 (4.6) | 体部や内腹。体部中位に後 をなす。 | 内外面回転ナデ。 | 石英・雲母。微砂 粒を含む。 | 浅黄褐色 | 吉備系 |
| 162 | 丸質碗 | 口径 器高 (1.6) | 13.0 1.6 | 体部や内腹。口縁部や肥 厚。口縁端部はやや尖る。 | 内面ヨクロナデ。外面ヨクロ ナデ、摸オサ。 | 石英・雲母。微砂 粒を多く含む。 | 青灰色 | 和泉型 |
| 163 | 瓦質 高台付碗 | 器高 底径 | (1.2) 5.2 | 底部より内側しながら立ち上 がる。退化した半円形の高台 が貼り付けられている。 | 内面ナデ後ハラミガタヒキ。 外面ヨクロナデ。貼付高台。 | 石英・雲母。微砂 粒を含む。 | 灰白色 | |
| 164 | 須恵質 こね物 | 口径 器高 (4.6) | 27.6 2.6 | 体部直線的。口縁端部やや肥 厚する。 | 内面ナデ。外面ヨクロナデ。 | 長石・雲母・砂岩。 砂粒を多く含む。 | 灰褐色 | 東播系 |
| 165 | 土器質杯 | 口径 器高 底径 | 10.2 1.8 6.6 | 底部より直線的に立ち上 がる。口縁部は丸く仕上げる。 | 内外面回転ナデ。外面施釉同 軸ハラタリ。 | 石英・共石・雲母。 赤色斑点。微砂粒 を含む。 | 内橙色 外に赤褐色 | 内面ヨクロナデ? |
| 166 | 土器質杯 | 口径 器高 (2.5) | 12.5 2.5 | 体部内側し、口縁端部やや尖 る。体部下位に成形による接 あり。 | 内面回転ナデ後ナデ。外面回 転ナデ。 | 石英・雲母・赤色 斑点。微砂粒を含 む。 | 内に赤褐色 | |
| 167 | 土器質皿 | 口径 器高 底径 | 13.4 1.9 7.2 | 体部、口縁部武統的。器壁薄 く、口縁部のみやや肥厚し ている。 | 内外面回転ナデ。 | 雲母・砂岩。 焼失。 | 浅黄褐色 | 京都系 |
| 168 | 土器質 碗 | 口径 器高 (3.3) | 13.0 3.3 | 体部、口縁部内腹。口縁端部 を丸くおさめる。 | 内外面回転ナデ。 | 石英・雲母。微砂 粒を含む。 | 内に赤褐色 | 吉備系 |
| 169 | 土器質 高台付碗 | 器高 底径 | (1.7) 4.7 | 底部より緩やかに内側しなが ら立ち上がる。断面三角形の 高台貼付。 | 内外面回転ナデ。見返部東ね 渡き?。貼付高台。 | 石英・雲母。微砂 粒を小量含む。 | 内黄褐色 外に赤褐色 | 吉備系 |
| 170 | 土器質 高台付碗 | 器高 底径 | (0.9) 3.6 | 底部より緩やかに内側しなが ら立ち上がる。断面三角形の 高台貼付。 | 内外面回転ナデ。貼付高台。 | 石英・長石・雲母。 微砂粒を多く含む。 | 内黄褐色 外黒色 | |
| 171 | 土器質 高台付碗 | 器高 底径 | (0.8) 3.5 | 体部外方へ聞く。断面三角形 の低い高台が付く。 | 内外面回転ナデ。貼付高台。 | 石英・雲母。微砂 粒を小量含む。 | 内黒色 外に赤褐色 | 内面ヨクロ 外焼付着 |
| 172 | 土器質 甕 | 口径 器高 (2.1) | 29.5 2.1 | 口縁部外反曲。罐底を方に抵 する。 | 内外面回転ナデ。 | 石英・長石・雲母。 砂粒を多く含む。 | 内に赤褐色 | 内に赤褐色 外に赤褐色 |
| 173 | 土器質甕 | 口径 器高 (4.4) | 36.0 4.4 | 体部や内腹。「く」の字状の口 縁。 | 口縁部回転ナデ。内面体部回 転ナデ後ハケ(6本/cm)。外 面体部回転ナデ後指ササ。 | 石英・長石・雲母。 赤色斑点。砂粒を 多く含む。 | 内橙色 外黒褐色 | 外面焼付着 指ササ |
| 174 | 土器質甕 | | | 体部内腹、「く」の字状の口 縁。 | 内面体部ハケ(摩滅)。内面 体部下平ハケ(7本/cm)。外 面ナデ。外面部ナデ後指ササ。 | 長石・雲母。砂粒 を多く含む。 | 内褐 外灰褐色 | 体部外面焼付着 |
| 175 | 土器質甕 | 口径 器高 (3.0) | 24.0 3.0 | 体部や内腹。「く」の字状に大き く外反する。沿部平坦。 | 内面回転ナデ後ハケ(8本/ cm)。外向ヨコムナデ後指オサ。 | 石英・雲母・赤色 斑点。砂粒を含む。 | 内に赤褐色 外灰褐色 | |
| 176 | 土器質蓋 | 口径 器高 (6.9) | 19.0 6.9 | 口縁部や外反し、口縁端部 を肥厚させ内側に広がる。 | 内外面回転ナデ。内面体部横 軸工具によるナデ。外面部 平行タタキ。 | 砂粒を含む。 | 内褐灰色 外に赤褐色 | 外面焼付着 横軸型 |
| 177 | 土器質蓋 | 口径 器高 (4.5) | 21.0 4.5 | 「く」の字状の口縁部を持ち やや肥厚。 | 内面回転ナデ。外面部タ タキ(3本/cm)。 | 石英・雲母・赤色 斑点。砂粒を含む。 | 内橙色 外に赤褐色 | 外面焼付着 横軸型 |
| 178 | 土器質羽釜 | 口径 器高 (3.5) | 26.0 3.5 | 断面三角形の低い脚が付く。 口縁端部は丸みをもつ。 | 内面回転ナデ後折オサエ。外 面回転ナデ。 | 石英・長石・雲母。 赤色斑点・チャーピー。 砂粒を多く含む。 | 内褐褐色 外品色 | 外面焼付着 |
| 179 | 土器質婆 | 口径 器高 底径 | 30.2 (2.6) | 口縁部直線直立。断面三角形の 脚が水平に付く。 | 内面口縁部ハケ。内面体部回 転ナデ。外向口縁部回転ナ デ。外面縁部ナデ。 | 長石・雲母・砂岩。 砂粒を含む。 | 内に赤褐色 外に赤褐色 | |
| 180 | 土器質燒焰 | L:径 器高 底径 | 26.2 6.1 4.0 | 口縁部は内傾直立。 | 内外面回転ナデ。外面部ナ デ。 | 長石・雲母・砂岩。 砂粒を含む。 | 内橙色 外に赤褐色 | 耳付 |

第18表 田宮遺跡 B-3区 出土遺物觀察表 土器・陶磁器等 (3)

| 番号 | 器種 | 法式 (cm) | 形態の特徴 | 成形・技法 | 胎土 | 色調 | 備考 | |
|-----|------------|---------------------------------------|----------------------|----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|--------------------------------|----------------|-----------------|
| 181 | 土師質鉢部 | 長径 厚み 2.1 2.4 | 断面円形。基部直筒。身部 直線的。 | 基部指オサエ後指ナダ。基部 内面ハケ(4本/cm、20本/cm)。 | 石英・雲母・赤色 鐵粒。砂粒を多く含む。 | 灰にぶい黄褐色 内灰黃褐色 | 脚部保有者 | |
| 182 | 土師質鉢部 | 長径 厚み 11.9 2.2 | 断面円形。身部直線的。 | 指オサエ後指ナダ。 | 石英・雲母。砂粒 を多く含む。 | 灰褐色 | 外側保有者 | |
| 183 | 瓦質 | 口径 器高 底径 3.2 | 11径 3.3 3.2 | 体部や内凹。口縁部は丸い。 体部前面凸凹著しく。変化 した小さい高台付。 | 内面クロコナダ後ハミガキ 端文。外側口縁部クロコナダ。 外側全体指オサエ。 | 石英・長石・雲母。 微砂粒を小量含む。 | 灰色 | |
| 184 | 瓦質碗 | 口径 器高 (3.0) | 11径 15.8 | 体部内凹。口縁部や直線的 で端部は丸い。 | 内面クロコナダ後ハミガキ 端文。外側口縁部クロコナダ。 外側全体指オサエ。 | 精良。 | 黑色 | |
| 185 | 瓦質碗 | 口径 器高 (2.5) | 12.4 | 体部内凹。口縁部は丸い。 | 内面クロコナダ後ハミガキ 端文。外側口縁部クロコナダ。 指オサエ。 | 長石・砂石。微砂 粒を小量含む。 | 内灰色 外灰オリーブ色 | |
| 186 | 瓦質碗 | 口径 器高 (3.9) | 15.8 | 体部・口縁部内凹。口縁部 を丸くおさめる。 | 内面クロコナダ後ハミガキ 端文。外側口縁部クロコナダ。 指オサエ。 | 石英・雲母。 精良。 | 灰色 | |
| 187 | 瓦質碗 | 口径 器高 底径 3.1 3.2 | 12.2 | 体部・口縁部内凹。口縁部 を丸くおさめる。 | 内面クロコナダ。外側口クロ コナダ指オサエ。 | 石英・長石・雲母。 微砂粒を含む。 | 内灰白色 外灰色 | |
| 188 | 瓦質碗 | 口径 器高 (3.0) | 13.5 | 体部より直線的に立ち上が り、11径部やや肥厚。 11径部 底部はやや尖る。体部内面直上 部を上げるよる縦介痕あ り。 | 内外面クロコナダ。外側作部 圓板ハラケアリ。指オサエ。 | 石英・雲母。 | 灰色 | 和泉型 |
| 189 | 瓦質小皿 | 口径 器高 底径 8.8 1.6 5.2 | 8.8 | 体部大きく外方へ靡き。口縁 部短い。底部凹凸有り。 | 内外面クロコナダ。外側底部 圓板ヘラ切り。 | 石英・雲母。 精良。 | 灰色 | 和泉型 |
| 190 | 瓦質碗 | 口径 器高 (4.4) | 13.8 | 体部内凹。口縁部は丸く仕 上げる。 | 内外面クロコナダ。外側底部 下半指オサエ。 | 長石・砂石。微砂 粒を小量含む。 | 灰褐色 | |
| 191 | 瓦質碗 | 口径 器高 (2.7) | 11.7 | 体部内凹。11径部やや尖り 気味で丸くおさめる。 | 内面クロコナダ。外側クロコ ナダ。指オサエ。 | 石英・雲母。 精良。 | 灰色 | 和泉型 |
| 192 | 瓦質碗 | 口径 器高 (2.5) | 14.0 | 体部内凹。器壁薄く、口縁 部はやや尖る。 | 内面ナダ。外側口クロコナダ。 | 長石・砂石。 | 内黄灰色 外灰白色 | |
| 193 | 瓦質盤 | | | 体部片。 | 内面青滑波文。外側格子目タ キ。 | 精良。 | 内浅黄色 外黄灰色 | |
| 194 | 瓦質羽釜 | 口径 器高 (5.2) | 15.6 | 11径部やや内凹。所面丁角形 の短い鉢が水平につく。口縁 部はやや尖る。 | 内面ハケ(10本/cm)後ナダ。 外側クロコナダ。 | 石英・雲母・赤色 鐵粒。砂粒を多く含む。 | 灰褐色 | |
| 195 | 瓦質羽釜 | 口径 器高 (7.3) | 26.0 | 11径部内凹。断面扇形の短い 鉢が水平につく。 | 内面(11径部クロコナダ後ハケ (5本/cm)、内面ハケ(12 本/cm)。外側クロコナダ)後 指オサエ。 | 石英・長石・雲母。 | 内灰黃色 外褐灰色 | |
| 196 | 瓦質焼烙 | 口径 器高 底径 37.0 8.7 10.0 | 37.0 | 折縫。 | 内面クロコナダ後ハケ(7本/ 0.7cm)。外側クロコナダ後指 オサエ。 | 石英・長石・雲母。 内にぶい黄褐色 外灰黃褐色 | | |
| 197 | 須恵質 こね鉢 | 口径 器高 (5.5) | 31.0 | 口縁部直線的。口縁部上 下にやや弧張し、端部わずかに 丸みを持つ。琵琶形。 | 内外面クロコナダ。 | 石英・長石・雲母。 砂粒を含む。 | 灰黄色 | 東播系 |
| 198 | 須恵質 こね鉢 | 口径 器高 (4.4) | 29.2 | 口縁部はやや上に張張し、 端部わずかに丸みを持つ。 | 内外面クロコナダ。 | 石英・長石・雲母。 赤色斑点。砂粒を 含む。 | 灰色 | 外面口縁部自然沿 れ構造 |
| 199 | 須恵質 こね鉢 | 口径 器高 (3.0) | 23.4 | 口縁部やや外反。口縁部上 下にやや弧張し、丸く仕上げ る。 | 内外面クロコナダ。 | 石英・長石・雲母。 赤色斑点。砂粒を 多く含む。 | 内灰色 外灰オリーブ色 | 東播系 |
| 200 | 須恵質 こね鉢 | 器高 底径 (4.1) 9.0 | | 体部直線的に立ち上がる。 | 内面斜ナダ。外側口クロコナダ。 | 石英・長石・雲母。 砂粒を多く含む。 | 灰褐色 | 東播系 |
| 201 | 陶器瓶 | 口径 器高 (4.4) | 32.4 | 口縁部上下に大きく張張し、 先端部を丸く仕上げる。 | 内外面クロコナダ。 | 長石・砂石。砂粒 を含む。 | にぶい褐色 | 備前系 |
| 202 | 陶器瓶 | 口径 器高 (8.9) | 14.0 | 半筒形。 | 内外面クロコナダ。外側施釉 (鉄釉)。 | にぶい褐色 | | |
| 203 | 陶器甕 | 器高 底径 (11.3) 12.2 | | 体部や内輪しながら立ち上 がる。 | 内外面施釉(鉄釉)。外側 底部指。 | 精良。 | 灰白色 | 瀬戸・美濃系(瀬戸)? |
| 204 | 陶器甕 | 口径 器高 (4.2) | 17.0 | 水槽型。口縁部肥厚させた 月へ広がる。 | 内外面施釉(鉄釉)。 | 精良。 | 灰白色 | 京・信楽系(信楽)? |
| 205 | 陶器甕 | 口径 器高 (5.7) | 17.4 | 口縁部や外反し、口縁部 を下方に折り曲げて外方の 厚い邊部に仕上げる。 | 内外面クロコナダ。 | 砂粒を含む。 | 内灰色 外暗黒色 | |
| 206 | 陶器花瓶 | 口径 器高 (11.5) | 6.0 | 11横部、肩の中央軸、底部 と三カ所に瘤みを持ってい る。 | 内面口縁部、外面上半施釉(鉄 釉)。外層下半施釉(灰釉)。 後灰釉(早)。 | 精良。 | 灰黃褐色 | 肥前系(吉津) |

第19表 田宮遺跡 B-3区 出土遺物觀察表 土器・陶器等(4)

| 番号 | 器種 | 法量 (gr.) | 形態の特徴 | 成形・技法 | 粘土 | 色調 | 備考 |
|-----|-------|----------------------------------------|---------------------------------------------------|-------------------------------|-----------------|------------|------------------------|
| 207 | 陶器碗 | 器高 底径 (1.0) 6.0 | 底部より緩やかに内唇しながら立ち上がる。底部削り。 | 内外面クロナダ。見込部ナダ。外面部底部同軸系切り。 | 精良。 | 灰白色 | 備前系 |
| 208 | 陶器盃 | 器高 底径 (5.4) 9.8 | 底部より内唇しながら立ち上がる。無施焼き締め。 | 内外面クロナダ。 | 砂粒を含む。 | 灰褐色 | 備前系 |
| 209 | 陶器碗 | 口徑 器高 底径 12.0 3.0 6.0 | 底部より内唇しながら立ち上がる。口縁端部はやや尖らせる。 | 内外面クロナダ。見込部ナダ。外面部底部同軸系切り。板目痕。 | | 灰白色 | 備前系 |
| 210 | 陶器碗 | 口径 器高 底径 10.8 (4.7) 3.0 | 口縁端部やかに内唇しながら立ち上がる。口縁端部は丸く仕上げる。 | 内外面施釉(灰釉)。外面底部に松脂(赤)。全面貫入。 | 精良。 | 灰白色 | 京・信楽系(京) |
| 211 | 陶器碗 | 口径 器高 底径 9.4 (4.4) 3.0 | 底部より内唇しながら立ち上がる。 | 内外面施釉(透明釉)。外面上給付(笠)。全面貫入。 | 精良。 | 灰白色 | 京・信楽系(京) |
| 212 | 陶器筒茶碗 | 口徑 器高 底径 7.1 5.3 3.6 | 半円形でやや内唇しながら直縁的に立ち上がる。 | 内外面施釉(透明釉)。外面部2枚(灰釉)。外面部以下露胎。 | 精良。 | 灰白色 | 京・信楽系(京) |
| 213 | 陶器抹茶碗 | 口徑 器高 底径 7.8 5.1 4.0 | 半円形でやや内唇しながら直縁的に立ち上がる。 | 内外面施釉(透明釉)。外面部2枚(灰釉)。外面部以下露胎。 | 精良。 | 灰白色 | 京・信楽系(京) |
| 214 | 陶器瓶型碗 | | 底部より斜めに立ち上がり縁部で一度折れ直縁的に真上に立ち上がる。 | 内面無釉。外面朱付(唐草)。 | | 烟灰色 | 肥前系 |
| 215 | 陶器皿 | 口徑 器高 底径 10.4 2.4 3.2 | 底部より内唇しながら緩やかに立ち上がる。口縁部外反し端部やや尖る。 | 内外面施釉(透明釉)。外面腹部以下露胎。 | 精良。 | 灰白色 | 肥前系(吉津) |
| 216 | 陶器灯呪碗 | 口徑 器高 底径 10.0 2.0 4.0 | 底部より内唇しながら立ち上がる。体部に縁線が直縁的。端部薄く仕上げる。 | 内面リコナダ。外面底部輪郭ナダ。 | 長石・雲母・砂岩 精良。 | 内褐色 外橙色 | 口絵溶部撫付者 内側水彩 備前系 |
| 217 | 陶器灯明皿 | 口徑 器高 底径 8.2 1.5 3.0 | 底部より緩やかに内唇して立ち上がる。体部直縁的で口縁部や外反し、端部尖る。容積は悪い。 | 内外面クロナダ。外面底部輪郭ナダ。 | 精良。 | にぶい赤褐色 | 内外面撫付者 備前系 |
| 218 | 磁器杯 | 口径 器高 (2.3) | 緩やかに内唇しながら立ち上がり口縁部は外反する。 | 内外面施釉(透明釉)。 | 滑皿。 | 白色 | 肥前系(伊万里) |
| 219 | 磁器皿 | 器高 底径 (3.3) 4.0 | 底部内唇しながら立ち上がる。 | 内外面施釉(青磁)。見込部ノ目袖剥ぎ。高台無釉、砂付。 | 精良。 | 灰白色 | 青磁 肥前系(伊万里) |
| 220 | 磁器仏供物 | 口径 器高 (3.2) | ロクロ成形で底部は削り出している。 | 内外面施釉。外面染付(折枝)。 | 精良。 | 灰白色 | 肥前系(伊万里) |
| 221 | 磁器碗 | 口径 器高 底径 7.2 3.6 2.8 | 底部より内唇しながら立ち上がる。口縁端部はやや尖る。 | 内外面施釉(透明釉)。豪付 無釉。 | 精良。 | 灰白色 | 肥前系(伊万里) |
| 222 | 磁器碗 | 口径 器高 底径 9.0 4.6 3.5 | 底部より内唇しながら立ち上がる。口縁端部は丸くおさめる。 | 内外面施釉(青磁)。内面口輪。 | 精良。 | 灰白色 | 青磁 肥前系(伊万里) |
| 223 | 磁器油壺 | 口径 器高 (3.7) | 体部直縁的で底部より大きく外張り旁収する。 | 内面口輪部、外面施釉(透明釉)。 | 精良。 | 明オーレー灰 | 肥前系(伊万里) |
| 224 | 磁器花器 | | 鶴首形。 | 内面無釉。外面朱付(唐草)。 | 精良。 | 灰黄色 | 肥前系(伊万里) |
| 225 | 磁器仏教器 | 器高 底径 (3.2) 2.6 | ロクロ成形で底部は削り出している。 | 内外面施釉(青磁)。高台無釉。 | 精良。 | 灰白色 | 青磁 肥前系(伊万里) |
| 226 | 磁器仏供器 | 口径 器高 底径 6.4 5.4 3.8 | 体部直縁的に立ち上がり口縁部や外反する。 | 内外面施釉。外面朱付(難翁)。蓋付部無釉。 | 精良。 | 灰白色 | 肥前系(伊万里) |
| 227 | 磁器香炉 | 口径 器高 底径 9.1 4.5 3.6 | 口縁部が外方に開く。有三足貼付。扁平盤形。 | 内口輪部、外施釉(青磁)。内面口轮、外油腰部以下露胎。 | 精良。 | 灰白色 | 青磁 肥前系(伊万里) |
| 228 | 磁器皿 | 口径 器高 (1.9) | 底部より直縁的に立ち上がる。口縁部やや外反し、端部は尖る。 | 内外面リコナダ。施釉(白磁)。 | 滑皿。 | にぶい黄褐色 | 白磁 |
| 229 | 磁器皿 | 口徑 器高 (12.8) (2.0) | 体部やや内凹。口縁端部は丸く外反し、先端やや尖る。口縁部口壳。 | 内外面クロナダ、施釉(白磁)。口縁部強剥ぎ。 | 微細な高級を含む。 | 灰白色 | 白磁 |
| 230 | 磁器皿 | 口徑 器高 (9.7) (1.9) | 体部直縁的に外方に開き、口縁部は斜め上へ立ち上がる。口縁端部は丸くおさめる。全面に銀緑色釉を施す。 | 内外面施釉(青磁)。 | 精良。 | にぶい黄褐色 | 青磁 |
| 231 | 磁器皿 | 器高 底径 (0.7) 6.4 | 平底の底盤より体部や直縁的に立ち上がる。全面に淡緑色釉を施す。 | 内外面施釉(青磁)。 | 精良。 | 灰白色 | 青磁 |

第20表 田宮遺跡 B-3区 出土遺物観察表 土器・陶磁器等(5)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態の特徴 | 成形・接法 | 胎土 | 色調 | 備考 |
|-----|------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------|--------------------------|------|--------|
| 232 | 磁器碗 | 口径 器高 (2.9) | 口縁部は直線的な立ち上がりで口縁端部は丸くおさめる。濃緑色釉を施す。 | 内外面施釉(青磁)、削割(内面、外面墨文飾無し)。 | 精良。 | 灰白色 | 龍泉窯系青磁 |
| 233 | 磁器碗 | 口径 器高 (2.6) | 体部外側に削葉形を施す。口縁端部は丸くおさめる。全面にかけ濃緑色釉を施す。 | 内外面施釉(青磁)、削葉舟彫。 | 精良。 | 灰白色 | 龍泉窯系青磁 |
| 234 | 磁器碗 | 器高 底径 (2.0) 6.0 | 角高台。濃緑色釉を施す。 | 内外面施釉(青磁)。高台内無釉。 | 精良。 | 灰白色 | 龍泉窯系青磁 |
| 235 | 十輪賀十鍵 | 長径 幅 厚み 穿孔径 束法 8.13 | 紡錘形の管状土鍵。横に胎土を巻き付けて成形。 | ナメ。 | 石英、長石、雲母、微少粒を含む。 | 浅黄褐色 | |
| 236 | 瓦質 加工円盤 | 長径 直径 厚度 5.7 1.4 5.6 | 瓦薄利用品。 | | 精良。 | 灰色 | |
| 244 | 十輪賀銅漆 | 長径 器高 厚度 11.7 3.0 11.4 | | | 石英、長石、雲母、表面に多い黄褐色 内灰色 | 鉛造漆 | |

第21表 田宮遺跡 B区 出土遺物観察表 石製品・金属製品

| 番号 | 器種 | 法量 | | | | 備考 |
|-----|--------|-------|-------|-------|-------|--------------------|
| | | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重(g) | |
| 140 | 石製品砾石 | 13.2 | 10.6 | 9.3 | 1300 | 砂岩 |
| 237 | 石製品石繩 | 2.7 | 2.3 | 1.4 | 12.53 | 滑石製。煤付着。空孔 |
| 238 | 石製品鏡 | 8.9 | 7.9 | 2.0 | 243 | 粘板岩? |
| 239 | 石製品火打石 | 3.6 | 2.7 | 1.7 | 18.71 | 長石 |
| 135 | 金銀器小柄 | 11.2 | 1.5 | 0.5 | 23.10 | |
| 240 | 銀製品笄 | 20.3 | 0.7 | 0.3 | 13.45 | |
| 241 | 銭貨 | (1.5) | | | 0.89 | 銭銘。銘文不明 |
| 242 | 銭貨 | 2.4 | | | 3.21 | 寛永通宝(新)。寛延元年(1668) |
| 243 | 銭貨 | 2.4 | | | 2.40 | 寛永通宝(新) |

第22表 田宮遺跡 C 区 出土遺物觀察表 土器・陶磁器等(1)

| 番号 | 種類 | 法量 (cm) | 形態の特徴 | 成形・技法 | 断面 | 色調 | 備考 |
|-----|-------------|--------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|---------------------------------|-----------------|--------------------|
| 245 | 土師質杯 | 口径 器高 底径 2.8 4.8 | 底部より内壁・ながら立ち上がり途中より直線となる。口縁部はやや尖り気味で丸く仕上げる。 | 内外面回転ナデ。外面部回転ヘラケズリ。 | 石英。精良。 | 浅黄褐色 青褐色 | 内外面赤彩痕 青褐色 |
| 246 | 土師質杯 | 器高 底径 (2.7) 5.0 | 底部よりやや直線的に立ち上がり、口縁部をや内側する。 底部内面凹みあり。 | 内面指ナデ。外面部ヨコナデ。 外面部回転ヘラケズリ後板ナデ。 | 石英。雲母・赤色 斑粒。黒色斑点。 微砂粒を含む。 | 内にぶい黄褐色 外灰白色 | |
| 247 | 土師質皿 | 口径 器高 底径 10.0 1.0 5.2 | 器盤全体に薄い作り。 | 外外面回転ナデ。外面部回転系切り。 | 石英。雲母・赤色 斑点。微砂粒を小 量含む。 | 内にぶい黄褐色 | 口縁部付青 |
| 248 | 土師質皿 | 口径 器高 底径 7.7 1.1 5.2 | 口縁部短くやや内壁。 部やや尖る。 | 内外面回転ナデ。 | 石英。雲母・赤色 斑点。微砂粒を多 く含む。 | 浅黄褐色 | |
| 249 | 土師質皿 | 口径 器高 底径 8.0 0.9 6.8 | 口縁部短くやや内壁。 部やや尖る。 | 内外面ナデ。外面部回転系 切り(摩滅氣味)。 | 石英。長石・雲母 赤色斑点。砂粒を小 量含む。 | 浅黃褐色 | |
| 250 | 土師質皿 | 口径 器高 底径 12.4 2.3 7.0 | 底部よりやや外反しながら立 ち上がる。口縁部はやや尖 り。 | 内外面回転ナデ。外面部回 転系切り。 | 長石・雲母・砂岩。 微砂粒を小量含む。 | 内にぶい橙色 | |
| 251 | 土師質皿 | 器高 器高 (1.0) 8.4 | 底部より直線的に立ち上 がる。見込み部凹みあり。 | 内外面回転ナデ。外面部回 転系切り後板ナデ(摩滅)。 | 長石・雲母・砂岩。 微砂粒を小量含む。 | 内にぶい黄褐色 | |
| 252 | 土師質皿 | 口径 器高 (2.4) 8.4 | 底部から口縁部にかけて盛 り内壁し、口縁部は丸く おさめ器盤はやや厚い。 外面部には炭化の吸着している。 | 内外面同様ナデ。 | 石英。雲母。微砂 粒を含む。 | 褐灰色 | |
| 253 | 土師質皿 | 口径 器高 (2.3) 13.0 | 盛りやかに内壁しながら立ち上 がり口縁部で直行する。罐部 は丸く仕上げる。 | 内外面回転ナデ。外面部下 半回転ヘラケズリ。 | 石英・雲母・赤色 斑点。微砂粒を小 量含む。 | 内にぶい橙色 | 内面黒度 |
| 254 | 土師質 高台付碗 | 器高 高台 底径 (1.3) 4.0 | 高台断面倒三角形。 | 内外面回転ナデ。高台部ヨコ ナデ。貼付高台。 | 石英・雲母・赤色 斑点。微砂粒を小 量含む。 | 内黄褐色 外灰褐色 | |
| 255 | 土師質土鍋 | 口径 器高 (3.6) 23.2 | 「く」の字状口縁。口縁部や 内壁。 | 内面ハケ目(7本/cm)。外 面口縁模ナデ。外面部頭部指オサ エ。外面部掌城。 | 長石・雲母・砂岩。 砂粒を多く含む。 | 内阴青褐色 外灰褐色 | 外面部付青 |
| 256 | 土師質皿 | | 口縁部外反。 | 内面回転ナデ後指オサエ。外 面ハケ(5本/cm)後ナデ。 | 石英・長石・雲母・ 赤色斑点。 | 内にぶい黄褐色 外橙色 | |
| 257 | 瓦質 高台付楕 | 器高 底径 (1.7) 6.0 | 楕状の高台が貼り付けられ ている。体部内壁。暗文知し。 | 内外面クロナデ。貼付高台。 | 石英・雲母。微砂 粒を小量含む。 | 灰褐色 | |
| 258 | 瓦質羽茎 | | 体部、口縁部が大きく述べ し、断面二角形の短い脚が付く。 | 内面クロナデ。外面部後 指オサエ。 | 石英・長石・雲母。 砂粒を含む。 | 灰色 | |
| 259 | 瓦質 高台付楕 | 器高 底径 (2.2) 6.0 | 体部やや内側し、退化した高 台が付く。断面二角形の高台 貼付。 | 内面ナデ後ハラミガキ端文。 外面部指オサエ後ナデ。高台部 ヨコナデ。貼付高台。 | 石英・雲母。微砂 粒を含む。 | 内灰色 外灰褐色 | 粗面型 |
| 260 | 瓦質羽茎 | 口径 器高 (5.8) 20.0 | 断面三角形の頸が水平に付 く。 | 内面ハケ(6本/cm)。外面口 縁クロナデ。 | 石英・長石・雲母。 微砂粒を含む。 | 灰色 | 和風型 |
| 261 | 瓦質火鉢 | 口径 器高 (5.2) 33.6 | 口縁まで内側しながら立ち上 がる。 | 内面指オサエ、ナデ。外面部 ナデ、透灰文(墨文)。 | 長石・雲母・砂岩。 砂粒を多く含む。 | 黄灰色 | |
| 262 | 陶器擂鉢 | 口径 器高 (7.4) 28.0 | 口縁部が上下に拡張され、 「く」の字状の形態を示して いる。先端部はやや尖る。体 部内面に5条程度の稚拙未 織。 | 内面擂目(5条/1.2cm)。 | 砂粒を含む。 | 陶灰色 | 前系 |
| 263 | 陶器擂鉢 | 器高 底径 (5.6) 16.1 | 横断よりやや外反しながら立 ち上がる。 | 内外面口クロナデ。内面擂目 (13条/3.6cm)。 | 微砂粒を含む。 | 灰色 | 前系 |
| 264 | 陶器擂鉢 | 口径 器高 (5.7) 26.0 | 体部は直線的に立ち上がる。 口縁部は下に拡張され、「く」 の字状の形態を示して いる。先端部はやや尖る。 | 内外面口クロナデ。内面擂目 (12条/2.6cm)。 | 微砂粒を含む。 | 内にぶい赤褐色 | 碧・明石系 |
| 265 | 陶器擂鉢 | 器高 底径 (5.2) 26.0 | 底部より直線的に立ち上 がる。 | 内外面口クロナデ。内面擂目 (11条/1.8cm)。 | 砂粒を含む。 | 灰赤色 | 前系 |
| 266 | 陶器擂鉢 | 口径 器高 (11.0) 27.2 | 底部より内壁しながら立ち上 がる。 | 内外面口クロナデ。内面擂目 (5条/cm)。 | 砂粒を含む。 | 内にぶい赤褐色 | 碧・明石系 17C末以降 |
| 267 | 陶器擂鉢 | 口径 器高 底径 (9.8) 18.8 | 見込み部中央より放射状に施 す。 | 内外面口クロナデ。内面体 部、見込み部擂目(10条/2.0cm)。 外面部板ナデ。 | 石英・砂粒を含む。 | 内褐灰 外にぶい赤褐色 | 碧・明石系(明石) 18C後半 |
| 268 | 陶器鉢 | 器高 底径 (11.2) 4.1 | 高台が厚く、高台の内削りが 深く、高台の外削りを斜めに削 り落としている。稚木鉢に転 用か? | 内面自泥(刷毛目)。外面部 回転ヘラケズリ、ナデ。底部燒 成後孔。 | 長石・砂岩。砂粒 を小量含む。 | 内にぶい赤褐色 | 内面保水者 尼泊系(唐津) |

第23表 田宮遺跡 C 区 出土遺物観察表 土器・陶磁器等 (2)

| 番号 | 器種 | 計量 (cm) | 形態の特徴 | 成形・技法 | 胎土 | 色調 | 備考 |
|-----|---------|---------------------------------------|-------------------------------------------------------------|-------------------------------------|---------------|-----------------|-----------------|
| 269 | 肉器体 | 器高 底径 10.8 | 底部より緩やかに内唇しながら立ち上がる。 | 内外面施釉(鉄釉)。内面刷毛目(白刷)。見込部刷目。外面部下半無釉。 | | にぶい褐色 | 肥前系(唐津) |
| 270 | 肉器底鉢 | 口径 器高 底径 12.8 7.2 13.8 | 筒形で底部はやや内傾しながら直立する。 | 内外面ロクロナデ。 | 微砂粒を含む。 | 内にぶい赤褐色 外褐灰色 | 備前系 |
| 271 | 陶器火鉢? | 口径 器高 底径 21.0 (8.2) | 内面突出1.5。体部上部円形容孔2箇所。 | 内外面施釉(内面灰釉、外面白釉)。 | 微砂粒を含む。 | 灰白色 | 口縁部付着窓戸・美濃系(瀬戸) |
| 272 | 陶器蓋 | 器高 底径 4.8 17.9 | 胸部より直線的に立ち上がる。 | 内外面ロクロナデ。内面施釉(鉄釉)。外面部目白。 | 砂粒を多く含む。 | 青灰色 | 京・伊東系(信楽) |
| 273 | 陶器豆 | 器高 底径 2.8 7.0 | 底部より直線的に立ち上がる。 無輪焼き窓。 | 内外面ロクロナデ。 | | 黄灰色 | 備前系 |
| 274 | 陶器壺 | 器高 底径 (6.6) 5.4 | 底部より直線的に外方へ立ち上がり、中折より頸部にかけて内唇していく。 | 内外面ロクロナデ。外面部以下、中折より頸部にかけて内唇。 | 微砂粒を含む。 | 灰色 | 備前系 |
| 275 | 陶器瓶 | 口径 器高 底径 3.2 (8.5) | 肩口形。横把利。 | 内面口部、外面部施釉(白釉)。内面全体露胎。口様部指ササエ。 | 精良。 | 灰色 | |
| 276 | 陶器瓶 | 長径 短径 4.4 2.1 | 肩部破片である。人形(人黒)を貼り付けている。 | 製作り貼付。 | 精良。 | にぶい赤褐色 | 備前系 |
| 277 | 陶器 天目茶碗 | 口径 器高 底径 11.2 (6.3) | 胸部より口縁にかけば直線的に立ち上がる。口縁端部はやや尖る。 | 内外面施釉(鉄釉)。外面部無釉。 | 精良。 | 灰白色 | 瀬戸・美濃系(瀬戸) |
| 278 | 陶器 天目茶碗 | 器高 底径 (2.8) 5.0 | 高台盛から直線的に立ち上がっている。高台は割り取られ、高台内には平坦に削り取られる。 | 内外面施釉(鉄釉)。外面部以下無釉。 | 微砂粒を含む。 | 灰白色 | 瀬戸・美濃系(瀬戸) |
| 279 | 陶器瓶 | 口径 器高 底径 12.0 (6.9) | 全体に厚みのある器形で底部から内唇しながら立ち上がり中折よりはば直し、口縁まで立ち上がる。「口縁端部は丸く仕上げる。」 | 内外面施釉、外面部付(風呂)。 | 微砂粒を少量含む。 | 灰白色 | 陶胎染付 |
| 280 | 陶器皿 | 口径 器高 底径 11.0 3.0 3.4 | 高台からほぼ上方に向けて腰やかに内唇が折れ、口縁部が外反する。踏反形の皿。 | 内外面施釉(灰釉)。見込部施土十(3箇所)。高台無釉。見付部砂付釉。 | 微砂粒を小量含む。 | 灰白色 | 肥前系(唐津) |
| 281 | 陶器皿 | 口径 器高 底径 11.6 5.0 6.2 | 底部より腰やかに内唇しながら立ち上がり口縁端部はやや外反。 | 内外面施釉(灰釉)。見込部施土十目。 | 微砂粒を小量含む。 | 灰白色 | 瀬戸・美濃系(瀬戸) |
| 282 | 陶器皿 | 口径 器高 底径 10.0 1.8 5.4 | 全面追釉。見込部のみ輪を扒って内側に。茎高底。 | 内外面施釉(灰釉)。見込部施土。外面部下半以下無釉。外面部底部磨着底。 | 精良。 | 灰白色 | 瀬戸・美濃系(瀬戸) |
| 283 | 陶器皿 | 口径 器高 底径 11.2 3.5 3.8 | 高台から口縁にかけて腰やかに内唇。 | 内面、外面口縁部施釉(灰釉)。外面部目白。 | 精良。 | にぶい褐色 | 肥前系(唐津) |
| 284 | 陶器皿 | 口径 器高 (5.5) | 高台から腰やかに内唇した腰筋が延び、口縁部が外反するもので内面に段を持つ。 | 内外面施釉(灰釉)。 | 黒い砂粒を含む。 | 灰色 | 肥前系(唐津) |
| 285 | 陶器皿 明治皿 | 口径 器高 底径 8.4 1.3 3.0 | 全体に薄い作りの堅く焼き締められた明治皿。内面には塗装が施されている。 | 内面ロクロナデ。外面部転ハラケズリ。 | 長石・砂岩。 精良。 | にぶい赤褐色 | 口縁部付着 肥前系 |
| 286 | 陶器 灯明受皿 | 口径 器高 底径 11.2 1.1 5.0 | 底部より腰やかに内唇しながら立ち上がる。 | 内面ロクロナデ。外面部回転ハラケズリ。 | 微砂粒を含む。 | 灰褐色 | 備前系 |
| 287 | 磁器碗蓋 | 口径 器高 底径 11.6 4.0 3.8 | 体部内溝。 | 内外面輪付(内面草花、裏面唐草)。 | 精良。 | 灰白色 | 肥前系(伊万里) |
| 288 | 陶器蓋 | 器高 底径 2.9 4.2 | 外縁のみ施釉。外面部中央に丸い把手貼付。切り離し技法は回転糸切り。 | 外汎施釉(鉄釉)。内面底面糸切り。外面部追着痕。 | 微砂粒を少量含む。 | 黄灰色 | 瀬戸・美濃系(瀬戸) |
| 289 | 磁器瓶 | 口径 器高 底径 7.7 4.1 3.2 | 底部より内唇しながら立ち上がる。 | 内外面施釉。外面部(葉付)。疊付部砂付。 | 精良。 | 灰白色 | 肥前系(伊万里) |
| 290 | 磁器瓶 | 器高 底径 (1.6) 3.8 | 底部無釉。 | 内面施釉(白磁)。見込部培養痕。外面部無釉。 | 精良。 | 灰白色 | 白磁 |
| 291 | 磁器皿 | 器高 底径 (1.5) 3.0 | 高台断面泥台形状である。 | 内外面施釉(白磁)。外面部以下無釉。高台内墨書(2文字)。 | 精良。 | 灰白色 | 白磁 |
| 292 | 磁器皿 | 器高 底径 (2.2) 3.6 | 茎高底で底部無釉。 | 内面柔付(「重簡綱内横物?」)。外面部。高台内無釉。 | 精良。 | 灰白色 | 中国系 青化 |

第24表 田宮遺跡 C区 出土遺物観察表 土器・陶磁器等(3)

| 番号 | 器種 | 法寸(cm) | 形態的特徴 | 成形・技法 | 胎土 | 色調 | 備考 |
|-----|------------|---------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|-------------------------|----------------|----------------------|
| 293 | 磁器瓶 | 器高 底径 (7.1) 5.2 | 底部より内側しながら全体を丸く仕上げる。 | 内外面クロナデ。外面部付(開口)。蓋部付無輪状付着。 | 精良。 | 灰白色 | 肥前系(伊万里) |
| 294 | 土師質土錘 | 長径 幅 厚み 芋孔径 重量 (4.0) 3.84 | 軽便形の普巻上錘。錘に熱土を巻き付けて成形。 | ナデ | 長石・砂岩。微砂粒を少量含む。 | 淡黃色 | |
| 295 | 土師質土人形(座像) | 幅 脚高 厚さ (4.3) 5.9 2.7 | 全面雲母付着。中実。 | 型作り貼合せ。 | 石英・長石・雲母、赤色斑紋。 | 褐色 | 頭部欠損 |
| 296 | 瓦質丸壺 | 長径 器高 底径 (11.3) 6.1 13.7 | 中央の少し盛り上がったアーチ形。 | 内面ハラミガキ、ヨコナデ。内面布目、焼口痕(3箇所)。 | 石英・長石・砂粒を含む。 | 凸にぶい黄褐色 凹灰色 | |
| 308 | 土師質鍋 | 口径 器高 (21.6) (4.3) | 口縁部を「く」の字状に加彎させ、口縁部を内側へながら肥厚させて、底面を圓形に仕上げる。全体外周には指オサエ工の痕が残る。 | 口縁部ヨコナデ。内面板ナデ。外面部付サエ。 | 石英・長石・雲母、砂粒を多く含む。 | にぶい橙色 | 外面焼付着 |
| 309 | 土師質甕 | 器高 底径 (7.0) 30.5 | 器の底部片である。要部は直線的に立ち上がる。 | 内外面横方向の板ナデ。見达部、外面部底部ナデ。 | 石英・長石・結晶片岩、黒色斑紋。砂粒多く含む。 | 内褐色 外にぶい橙色 | |
| 310 | 瓦質焰塔 | 口径 器高 (36.4) (1.7) | 折縁、ナデ、外面部付サエ。内輪貼付、穿孔あり。 | 内外面ヨコナデ後指オサエ。 | 石英・黒色斑粒。 | 灰色 | |
| 311 | 陶器指輪 | 口径 器高 (4.0) | 1段継ぎと絆帶下部に貫ね焼き痕あり。 | 内面ヨコナデ。内面幅目(11条、2.8cm)。 | 石英・雲母。 | にぶい赤褐色 | 備前系 |
| 312 | 陶器鏡 | 器高 底径 (2.1) 3.2 | 外周部無輪。底部より内側しながら立ち上がる。 | 内面ヨコナデ、施輪(透明)。全面入鏡。 | 精良。 | 灰白色 | 京・信楽系(京焼) 17C中葉以降 |
| 313 | 陶器灯明皿 | 口径 器高 底径 (10.6) 1.3 4.8 | 器底全面に薄い。無施輪と締め。 | 内面ヨコナデ。 | 石英・黒色斑粒。 | 明赤褐色 | 口縁部焼付着 備前系 |
| 314 | 陶器皿 | 口径 器高 (23.6) (5.7) | 体部や内壁しながら立ち上がる。外周にわざわざに焼付が見える。高台内含め全周に施輪。 | 内外面ヨコナデ。 | 精良。 | にぶい赤褐色 | 肥前系(唐津) 象潟三島手 |
| 315 | 陶器皿 | 口径 器高 (34.8) (3.4) | 口縁部外反する端反形。内面には白化粧土による鶴毛印文が描かれる。 | 内外面ヨコナデ後施輪(鉄輪)。 | 赤色斑粒・黒色斑粒。 | 内暗赤褐色 外黒褐色 | 肥前系(唐津) |
| 316 | 磁器猪口 | 器高 底径 (3.5) 3.8 | 体部にすかに内弯しながら立ち上がる。外周にわざわざに焼付が見える。高台内含め全周に施輪。 | 内外面ヨコナデ後施輪。外輪貼付(不明)。 | 雲母。 | 精良。 | 灰白色 |
| 317 | 磁器猪口 | 器高 底径 (5.0) 3.9 2.4 | 外周に進量を染付している。蓋部には移が付着している。 | 内外面ヨコナデ後施輪。外輪染付(進量)。蓋部粘付剥離、移付。 | 黑色斑粒。 | 灰白色 | 肥前系(伊万里) |
| 319 | 陶器碗 | 器高 底径 (1.1) 4.0 | 深く削り込んだ内反高台である。全面に清化施されて内面には款輪が施されている。 | 内面ヨコナデ後施輪(鉄輪)。 | 雲母・赤色斑粒・黑色斑粒。 | 内墨褐色 外にぶい褐色 | 瀬戸・美濃系(瀬戸) |
| 320 | 陶器洗器 | 器高 底径 (6.8) 8.8 | 器形より内弯しながら立ち上がる。外周全面に鉄筋が施されている。 | 内外面ヨコナデ。外面施輪(鉄輪)。 | 精良。 | 灰褐色 | |
| 321 | 土師質皿 | 口径 器高 底径 (7.8) 1.2 5.3 | 体部器壁垂直。口縁部やや尖る。 | 内外面回転ナデ。外面部底部回転糸切り。 | 石英・雲母・赤色斑粒。微砂粒を少量含む。 | 浅黄褐色 | 近世 |
| 322 | 陶器鍋 | 器高 底径 (5.7) 8.6 | 胎土は堅緻で器壁薄く、小さな凹部で両耳脇には丁角状の脚付が付けられている。外面底面を除き内外面には鉄筋が施されて、内面見込には把手部が施している。 | 内外面ヨコナデ後施輪(鉄輪)。外面部底部回転ヘラ切り。 | 石英。精良。 | 褐灰色 | |
| 323 | 磁器碗 | 口径 器高 (16.0) (4.0) | 体部外周に捺墨弁文を施す。口縁部はやや丸い。全面にかけ決裂色釉を施す。 | 内外面ヨコナデ後施輪(青磁)。外面墨弁文。 | 石英。精良。 | 灰褐色 | 龍泉窯系青磁 |
| 324 | 土師質皿 | 口径 器高 底径 (8.0) 1.5 5.0 | 底部回転切りの土師質小皿である。 | 内面ナデ。外面回転ナデ。外底部回転糸切り。 | 石英・雲母・赤色斑粒。 | にぶい褐色 | 近世 |
| 325 | 陶器鋤鉢 | 器高 底径 (3.2) 14.7 | 硬く挽き締められた半筒形の容器。外周には鉄筋が施されている。 | 内面ヨコナデ。外面部ヨコナデ後鍛鍊。 | 石英・長石・雲母、赤色斑粒。 | 灰褐色 | 備前系? |
| 326 | 陶器瓶 | 器高 底径 (2.5) 4.6 | 全面施輪の豊付粘剥ぎされている。 | 内外面ヨコナデ後施輪(灰輪)。豊付部粘剥ぎ。 | 精良。 | 灰褐色 | 陶胎染付 |
| 327 | 陶器灯明皿 | 口径 器高 底径 (8.9) 1.7 2.0 | 内面唐土。口縁部焼付着。 | 内外面ヨコナデ。 | 石英・雲母。微砂粒少し含む。精良。 | にぶい赤褐色 | 備前系 |

第25表 田宮遺跡 C 区 出土遺物觀察表 土器・陶磁器等(4)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | 形態の特徴 | 成形・技法 | 胎土 | 色調 | 備考 |
|-----|---------------|-------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|----------------------|-----------------|-------------------------|
| 328 | 陶器皿 | 器高 (2.9) 底径 9.8 | 高台から腰やから肩部が延びる。高台の高台無輪。 | 内外面クロナデ後施釉(灰釉)、見面部鉢ノ目輪剥落後剥文(鉄錆)。高台部無釉。 | 石英・雲母。 精良。 | 灰黄色 | 肥前系(唐津) |
| 329 | 磁器伝花瓶 | | 盤面型の瓶。 | 内外面クロナデ。外面染付(模唐草)。 | 精良。 | 灰白色 | 肥前系 |
| 330 | 磁器伝花瓶 | 器高 (6.9) 底径 4.8 | 外面全面施釉、暈付釉弱さ。胴部下方に墨らむ。露窓部共施釉。 | 内外面クロナデ。外面部付(草花)。 | 精良。 | 灰白 | 肥前系(伊万里) |
| 331 | 陶器瓶 | 口径 (12.2) 器高 (4.1) | 内側して立ち上がり、口縁端部はやや外反し、少し尖りながら丸く仕上げる。 | 内外面クロナデ後施釉(透明)。 | 石英・雲母。 精良。 | 淡黄色 | 京・信楽系(京焼) |
| 332 | 土師質土鍋 | 長径 2.1 幅 1.7 厚み 1.7 穿孔径 0.7 重量 4.57 | 脇の短い切跡形の管状土鍋。棒に粘土を巻き付けて成形。全体にナデ。 | ナデ後指オサエ。 | 石英・雲母。微砂粒を小量含む。 | 橙色 | 焼付青 |
| 333 | 土師質土鍋 | 長径 2.3 幅 1.7 厚み 1.7 穿孔径 0.7 重量 4.40 | 脇の短い切跡形の管状土鍋。棒に粘土を巻き付けて成形。全体にナデ。 | ナデ。 | 石英・雲母。微砂粒を小量含む。 | 赤褐色 | |
| 334 | 土師質土鍋 | 長径 2.8 幅 1.9 厚み 1.7 穿孔径 0.6 重量 7.29 | 脇の短い切跡形の管状土鍋。棒に粘土を巻き付けて成形。全体にナデ。 | ナデ後指オサエ。 | 石英・雲母・赤色透光。微砂粒を小量含む。 | におい赤褐色 | 焼付青 |
| 335 | 土師質土鍋 | 長径 2.9 幅 1.7 厚み 1.8 穿孔径 0.6 重量 7.61 | 脇の短い切跡形の管状土鍋。棒に粘土を巻き付けて成形。全体にナデ。 | ナデ。 | 微砂粒を小量含む。 | 明赤褐色 | |
| 336 | 土師質ミニチュア(こね跡) | 口径 6.8 器高 2.5 底径 3.3 | 型作り成形。 | 内外面四輪ナデ。外面底部ナデ。 | 石英・雲母。微砂粒を含む。 | 碧色 | |
| 337 | 土師質ミニチュア(虫) | 器高 (2.8) 底径 1.6 | 型作り貼合せ成形。 | 内面ケズリ。外面染付(模物)、施釉(練釉)。 | 石英。 | 浅黄褐色 | |
| 338 | 瓦質始胎 | 口径 39.0 (4.3) | 折縁。 | 内外面クロナデ。外面体部指オサエ強ナデ。 | 石英・長石・雲母。 | 内灰褐色 外黑褐色 | 外園燒付青 而削系 |
| 339 | 瓦質茎葉 | 口径 10.2 (16.8) | 器底を境に下・上部分成形後貼合せている。穿孔があり。耳部貼り付け。 | 内外面クロナデ。 | 石英・長石・雲母・ 黑色透光。 | 内暗灰褐色 外暗灰褐色 | 舟形以下似付青 17C 未以前 |
| 340 | 陶器 灯明受皿 | 口径 6.8 器高 0.9 底径 4.6 | 全体に磨擦薄い。 | 内外面クロナデ。外面底部圓弧糸切り。内外面塗上。 | 石英・長石・雲母・ 黑色透光。 | 赤褐色 | 備前系 |
| 341 | 海器土瓶 | 口径 8.0 (6.7) | ソコバン正形の体部で、口縁部は腰と立ち上がる。弦用の耳が左右につき注ぎ口は雷頭みに折り付くる。 | 内外面クロナデ後施釉(灰釉)。 | 雲母。精良。 | におい赤褐色 | 肥前系(唐津) |
| 342 | 磁器碗 | 口径 7.1 器高 3.3 底径 2.6 | 内側しながら立ち上がり口縁部で旋削する。端部はやや尖り気味に仕上げる。暈付で除さき全部施釉で外面には筆文が口縁部に施かれている。高台部付付青。 | 内外面クロナデ後施釉。外面染付(笠)。蓋付部無釉。高台部砂付青。 | 精良。 | 灰白色 | 肥前系(伊万里) |
| 343 | 土師質皿 | 口径 13.6 (2.3) | 底部にやりや内壁しながら立ち上げる。口縁部はやや尖りながら丸く仕上げる。 | 内外面回転ナデ。外面体部下半周輪ハラケズリ。 | 石英・長石・赤色透光。砂粒を含む。 | 内滑色 外におい褐色 | |
| 345 | 瓦質始胎 | 口径 33.6 (4.6) | 折縁で内外面に指ナデ、外面に指ナサニが施されている。 | 内外面クロナデ。外面体部指オサエ、ナデ。 | | 内におい黄褐色 外黒褐色 | 外園燒付青 而削系 17C 未以前 |
| 346 | 陶器捕鉢 | 口径 32.4 器高 3.6 | 口縁帶三線。無釉焼き始め。 | 内外面クロナデ。内面横目(12束; 3.5cm)。 | 精良。 | 褐灰色 | 堆・明石系 17C 未~ |
| 347 | 陶器皿 | 口径 13.9 (2.0) | 口縁が外反する端反形の濃緑皿である。沿縁は窓だ。 | 内面高施釉(灰釉に近い鐵釉)。 | 精良。 | におい黄褐色 | 肥前系(唐津) |
| 348 | 土師質鍋 | 口径 27.0 (6.6) | 口縁部を壓迫させ浦図を四面に仕上げる。 | 口縁部、内面四輪ナデ。外面ナデ、指オサエ。 | 石英・長石・雲母・砂岩。砂粒を多く含む。 | 内滑色 外におい黄褐色 | 外園燒付青 |
| 349 | 土師質鍋 | 口径 26.8 (4.2) | 体部、口縁部や内壁。口縁部端面は凹面に仕上げる。 | 内面ナデ。口縁部ヨコナデ。外面指オサエ、ナデ。 | 石英・長石・雲母。砂粒を多く含む。 | 内におい褐色 外暗褐色 | 外園燒付青 |

第26表 田宮遺跡 C 区 出土遺物観察表 土器・陶磁器等 (5)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | 形態的特徴 | 成形・技法 | 施上 | 色調 | 備考 |
|-----|------------|------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|-------------------------|-----------------|------------------|
| 350 | 土器質踏 | 口径 器高 底径 (25.2 (9.8 (6.1) | 体部、口縁部や内腹。口縁部を肥厚させて、通風孔を画面に付上げる。体部外向には指ササニの痕が残る。 | 内面ナデ。口縁端部凹凸ナデ。外面底部指ササニナデ。 | 石英・長石・砂岩。砂粒を多く含む。 | 内にぶい黄褐色 外深褐色 | 外面墨付着 |
| 351 | 土器質踏條 | 口径 器高 底径 (34.0 (9.1 (3.4) | 直線。 | 内外面凹凸ナデ。 | 長石・雲母・砂岩。 | 内にぶい褐色 外深褐色 | 外面墨付着 |
| 352 | 土器質踏條 | 長径 器高 底径 (9.1 (3.4 (3.4) | 十龍の頭である。 | 輪ナデ後ナデ。 | 石英・雲母・赤色 斑状。 | にぶい褐色 | |
| 353 | 頸部質 こね跡 | 口径 器高 底径 (25.4 (6.8 (3.9) | 口縁端部上に抵抗し、筋部はやや丸みを持つ。 | 内外面ロクロナデ。 | 石英・雲母・黒色 斑状。砂粒を多く含む。 | 明青灰色 | 裏剥離 |
| 354 | 陶器墨跡 | 器高 底径 (14.0 (3.9) | 底部よりやや内側しながら立ち上がる。体部内面に12条を1単位とする複数糸継が施される。 | 内外面ロクロナデ。内面横目 (12条/3.4cm)。 | 砂粒を小量含む。 | 灰赤色 | 備前系 |
| 355 | 陶器墨跡 | 器高 底径 (3.2 (11.6) | 見込部クロス状の瘤目。 | 内外面ロクロナデ。内面横目 (11条/2.6cm)。 | 砂粒を多く含む。 | 黄灰色 | 埋・明石系 |
| 356 | 陶器墨跡 | | 体部や外縁部。口縁端部は上方に大きくなっている。 | 内外面ロクロナデ。 | | 灰白色 | 備前系 |
| 357 | 陶器墨跡 | 器高 底径 (2.4 (11.4) | 筒型で底部より直線的に立ち上がる。 | 内外面ロクロナデ。見込部火齊痕。外面底部擦印あり。 | 精良。 | 灰白色 | 備前系 |
| 358 | 陶器墨跡 | 口径 器高 底径 (9.8 (5.4 (5.2) | 半筒形で底部と胴部焼成取り。口縁部は丸く仕上げる。 | 内外面ロクロナデ。 | 砂粒を含む。 | にぶい赤褐色 | |
| 359 | 陶器墨 | 口径 器高 (25.4 (11.1) | 鉄釉により外周施釉。内面無釉。外面上には施釉が施されている。 | 内外面ロクロナデ。外面作部沈線。 | 長石。 | 赤褐色 | |
| 360 | 陶器墨 | 器高 底径 (15.2 (15.6) | 脚部より内側しながら立ち上がる。 | 内面凹ナデ後指ササニエ。外面ロクロナデ後指ササニエ、指ナ。 | 大小の顆や砂粒を含む。 | 淡褐色 | 備前系 |
| 361 | 陶器墨 | 口径 器高 底径 (11.6 (14.2) | 裏上部に記述を挟んだ後、脚部はやや傾いて立ち上がり、口縁部が折り返される。耳が貼り付けられている。赤褐色の焼き肌には石斑が見られる。 | 内外面ロクロナデ。指オサエ。 | 大小の顆や砂粒を含む。 | 内灰褐色 外にぶい赤褐色 | 備前系 |
| 362 | 陶器墨 | 口径 器高 底径 (10.5 (7.4 (4.0) | 体部直線的で口縁部わざかに外反する。口縁端部丸く仕上げる。 | 内面施釉。外周火齊付 (四方棒、通蒸、蓋隠)。 | 砂粒を多く含む。 | 灰白色 | 陶胎朱竹 肥前系 (唐津) |
| 363 | 陶器墨 | 器高 底径 (2.9 (4.8) | 底部より内側、高台をや高い。 | 内外面施釉 (灰釉)。高台脚部。 | 微細な顆粒を多く含む。 | 灰白色 | 肥前系 (唐津) |
| 364 | 陶器 天目茶碗 | 器高 底径 (5.3 (4.8) | 高台より斜めに立ち上がる。高台と高台間に隙間を全周に施釉が施され里側色を呈している。施上部は灰白色でやや粗い。削り出し高台。 | 内外面施釉 (灰胎)。外周高台以下無釉。 | 微細な顆粒を含む。 | 灰白色 | 薄戸・美濃系 (酒井) |
| 365 | 陶器墨 | 器高 底径 (2.6 (9.0) | 高台よりは上方に向けて傾斜やかに脚部が延びる。 | 内外面施釉 (灰釉)。見込部・脚部火齊付 (3箇所)。高台脚部付着 (3箇所)。 | 微細な顆粒を多く含む。 | 灰白色 | 肥前系 (唐津) |
| 366 | 陶器墨 | 口径 器高 底径 (12.6 (3.1 (4.5) | 高台から傾斜やかに体部が延び、口縁部で外反する漏湯形の構造。 | 内面・外面部ロクロ基盤 (白胎)。見込部静止痕。外面体部磨擦痕。高台部付着。 | 微細な顆粒を小量含む。 | 灰褐色 | 肥前系 (唐津) |
| 367 | 陶器墨 | 器高 底径 (2.9 (12.5) | 高台からは上方に向けて傾斜やかに体部へ延びる。外周底部無釉。 | 内面施釉 (灰胎)。見込部火齊付。 | 微細な顆粒を小量含む。 | 灰褐色 | 肥前系 (唐津) |
| 368 | 磁器質 | 口径 器高 底径 (6.4 (2.5 (2.6) | 臺付部のみ無釉。 | 内外面施釉。外周火齊付 (コンニャック印付による花弁)。臺付部無釉。 | 精良。 | 灰白色 | 肥前系 (伊万里) |
| 369 | 磁器墨跡 | 口径 器高 底径 (5.2 (3.2 (3.2) | 高台から直行して立ち上がる。 | 内外面施釉。臺付部黒釉。 | 精良。 | 灰白色 | 白磁 肥前系 (伊万里?) |
| 370 | 磁器墨 | 口径 器高 底径 (11.2 (3.0 (5.2) | 全面施釉。臺付部剥落。 | 内外面火齊付 (八針、圓錐)。臺付部剥落。 | 精良。 | 灰白色 | 肥前系 (伊万里) |
| 371 | 磁器墨 | 器高 底径 (2.6 (3.9 (3.9) | 見込部ノ目和剥落。高台無釉。臺付部砂化層。 | 内面剥落。見込部ノ目和剥落。外周剥落。高台無釉。 | 精良。 | 灰白色 | 肥前系 (伊万里) |
| 372 | 磁器墨 | 口径 器高 底径 (14.3 (2.4 (6.2) | 臺付部のみ三輪。 | 内面火齊付 (圓錐、草花)。外周剥落。臺付部無釉。 | 精良。 | 灰白色 | 肥前系 (伊万里) |

第27表 田宮跡 C 区 出土遺物觀察表 土器・陶磁器等(6)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態の特徴 | 成形・技法 | 出土 | 色調 | 備考 |
|-----|------------|--------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------------------------------|--------------------------------|----------------|-------------------|
| 373 | 埴器組 | 口径 器高 底径 14.8 4.4 9.7 | 輪花型成形。 | 内外施釉(青磁)。蓋付部無 施。高台内ハリ痕。 | 精良。 | 灰白色 | 青磁 肥前系(伊万里) |
| 374 | 埴器施釉 | | 口部から11部にかけてはんど 平行な通貫底である。 | 内面無施。外面染付(造景)。 | 精良。 | 灰白色 | 肥前系(伊万里) |
| 375 | 埴器施利 | 器高 底径 (2.6) 3.1 | 蓋付部のみ圧縮。 | 内面施釉。外面染付(草、圓 鏡)。蓋付部無施。 | 精良。 | 灰白色 | 肥前系(伊万里) |
| 376 | 埴器瓶 | 器高 底径 (6.2) 10.0 | 高台を削り出し、胴部上部が 大きくなっている。 | 内面無施。見込部自然地付 合。外側染付(植物、團鏡)。 蓋付部露呈。 | 精良。 | 灰白色 | 肥前系(伊万里) |
| 377 | 土師質丸足 | 長径 器高 底径 11.2 3.1 8.7 | 継やかな丸みを持つ。 | 四面削め方向の縦延びが残る 系切目痕。凸面ナデ。 | 長石・砂岩。砂粒 を含む。 | 凹褐色 内に赤い赤褐色 | 中世? |
| 378 | 瓦質 加工円盤 | 長径 器高 底径 3.4 1.8 3.4 | 瓦質利用品。口に加工。片 面中央に円形の窪みあり。 | | 石英・雲母・結晶 片岩。砂粒を含む。 | 灰色 | |
| 383 | 土師質盤 | 口径 器高 (4.1) | 体部、口端部や内唇。 底端部は凹面に仕上げる。 | 内面回転ナデ後指サナ。外面 回転ナデ後指オサ。 | 砂粒を多く含む。 | 内に赤褐色 外黒褐色 | |
| 384 | 陶器碗 | 口径 器高 (3.5) | 継やかに内壁しながら立ち上 がり、端部はやや尖る。 | 内外面施釉(灰釉)、貢入。 | 精良。 | 灰白色 | 瀬戸・美濃系(瀬戸) |
| 385 | 陶器枕 | 器高 底径 (3.3) 5.2 | 底部より内壁しながら立ち上 がる。 | 内外面施釉(灰釉)、貢入。 | 精良。 | 灰白色 | 京・信楽系(京) |
| 386 | 埴器皿 | 口径 器高 (2.2) | 底部より内壁ながら立ち上 がり1種部で外反する。 | 内外面染付(團鏡)。 | 精良。 | 灰白色 | 中国系 青花 |
| 387 | 土師質 灯明皿 | 口径 器高 底径 7.7 1.1 5.0 | 底部より直線的に立ち上 がる。口縁部はやや尖る。 | 内外面回転ナデ。外表面底部回 転式切り。 | 長石・砂岩。 精良。 | 浅黄褐色 | 日韓部加付寮 |
| 388 | 土師質杯 | 口径 器高 底径 13.4 2.1 6.0 | 底部より直線的に立ち上 がる。 | 内外面回転ナデ。外表面底部回 転ヘタ切り後ナデ。 | 石英・雲母・赤色 斑紋。精良。 | 褐色 | |
| 389 | 土師質十角 | 口径 器高 (6.9) | 体部内壁。口縁端部を「く」 の字状に外反する。先丸丸。 | 口縁部ヨコ方向のハケ口。内 面回転ナデ。外表面回転ナデ後 指サエ。 | 石英・長石・雲母・ 赤色斑紋。砂粒を 多く含む。 | 内に赤褐色 外黒褐色 | 外表面有頭器 |
| 390 | 土師質鍋 | 口径 器高 (8.3) | 体部、口縁部や内唇。 口縁部端面は凹面に仕上げる。 | 内面回転ナデ。内向外部下半 ハケ(9本/cm)。外表面横端 部回転ナデ。外表面部ナデ、 指サエ。 | 長石・雲母・砂岩。 | 内褐色 外黒褐色 | 外表面漆付 |
| 391 | 土師質鍋 | 口径 器高 (6.7) | 体部、口縁部や内唇。 口縁部端面は凹面に仕上げる。 | 内面回転回転ナデ。外表面回 転ナデ後指サエ。 | 石英・長石・雲母・ 赤色斑紋。砂粒を 多く含む。 | 内に赤褐色 外黒褐色 | 外表面漆付有頭器 |
| 392 | 土師質鍋 | 口径 器高 (6.0) | 体部、口縁部や内唇。 口縁部端面は凹面に仕上げる。 | 内面ナデ。口縁端部ヨコナ デ。外表面指オサエ。 | 石英・雲母・雲母・ 赤色斑紋。砂粒を 多く含む。 | 内に赤褐色 外黒褐色 | 外表面漆付有頭器 |
| 393 | 土師質羽釜 | 口径 器高 (4.5) | 口縁部わざわざに拡張。新向 三角形の深い沟がほぼ水平に 付く。 | 内外面回転ナデ。器部ヨコナ デ。 | 石英・雲母・赤色 斑紋。砂粒を多 く含む。 | に赤褐色 | 外表面漆付 |
| 394 | 土師質塔 | 口径 器高 (4.0) | 口縁部は直立で内縁である。 | 内外面回転ナデ。 | 石英・雲母・赤色 斑紋。砂粒を含 む。 | 褐色 | 関西系 |
| 395 | 土師質壺 | | 体部内寄し口縁部外反する。 タキ。 | 内面ナデ。外面ナデ接縫子目 | 石英・雲母・赤色 斑紋。 | 内に赤褐色 外黒褐色 | |
| 396 | 丸質壺 | 器高 底径 (3.9) 8.4 | 腰部より内壁しながら立ち上 がる。 | 内面ヨコナデ。見込部指オ サエ。外向外ヨコナデ、指オ サエ。 | 微砂粒を含む。 | 灰白色 | |
| 397 | 陶器模様 | | 体部直線的に立ち上がり口縁 部が上辺に大きく拡張。 | 内面標目(3条/cm)。 | 砂粒を含む。 | 赤褐色 | 燒・明石系 |
| 398 | 陶器模様 | 口径 器高 (3.9) | 口縁部尖る。無鉛焼き跡。 | 内面ヨコナデ。 | 砂粒を含む。 | 灰赤色 | 備前系 |
| 399 | 陶器模様 | 口径 器高 (4.8) | 「U」縁端部、口縁背に重ね焼 き痕あり。 | 内外面ヨコナデ。 | 砂粒を含む。 | 灰色 | 備前系 |
| 400 | 陶器鉢 | 口径 器高 (5.5) | 外側体部と口縁部を平坦に して形状を施している。 | 内外面施釉(鉄錆)。 | 石英・砂岩。 | 黄灰色 | 肥前系(唐津) 象嵌式千鳥子 |
| 401 | 陶器鉢 | 口径 器高 (3.9) | 口縁部端部削ぎ。 | 内外面施釉(鉄錆)。外表面毛目(白泥)。 | 鐵砂粒を含む。 | 褐灰色 | 肥前系(唐津) |
| 402 | 陶器鉢 | 器高 底径 (2.6) 6.8 | 底部より板や内壁しながら 立ち上がる。高台。 | 内面施釉(灰釉)。見込部逆 ノ目鉛焼き。外向外回転ヘタ カズリ。 | 長石・砂岩。 | 灰白色 | 外表面有頭器 肥前系(唐津) |
| 403 | 陶器 漆木杯? | 口径 器高 (3.7) | 体部直線的に立ち上がり口縁 部が一段外向う。 | 内外面施釉(鉄錆)。 | 微砂粒を小發含 む。 | 灰白色 | 瀬戸・美濃系(瀬戸) |

第28表 田宮遺跡 C区 出土遺物観察表 土器・陶磁器等(7)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態的特徴 | 成形・技法 | 胎上 | 色調 | 備考 |
|-----|---------------|---------------------------------------|------------------------------------------------|----------------------------------------|----------------------|---------------|------------------|
| 404 | 陶器 灰又は灰 | | 底部よりほぼ直線的に立ち上がる。 | 内外面施釉(内面灰釉、外面灰釉)。 | 微砂粒を小量含む。 | 灰白色 | 京・鶴來系(信濃) |
| 405 | 陶器火鉢 | 口径 器高 (6.5) | 火鉢の上から白釉と縁釉を三方に流し掛けている。口縁部には耐熱度が多段見られる。 | 内面施釉(灰・縁釉)。外面施釉(灰・白・縁釉)。底部成形穿孔。 | 精良。 | 灰白 | 瀬戸・美濃系(瀬戸) |
| 406 | 陶器皿 | 器高 底径 (4.0) 5.0 | 腹部より緩やかに内側しながら立ち上がる。 | 内外面クロナデ。見込部押さえ。外面クロロナデ、指オサエ。外周底部同様系切り。 | 微砂粒を小量含む。 | にぶい赤褐色 | 備前系 |
| 407 | 陶器甕 | 口径 器高 (30.6) (6.2) | 口縁外側へ折り返す。 | 内外面クロナデ。 | 精良。 | にぶい橙色 | 備前系 |
| 408 | 陶器甕 | 口径 器高 (5.8) | 口縁底部を平坦に仕上げる。 | 内外面施釉(灰釉)。 | 精良。 | にぶい赤褐色 | 肥前系(唐津) 象嵌二馬手 |
| 409 | 陶器 天目茶碗 | 口径 器高 (10.4) (5.3) | 茶物色を呈する灰釉に外面には灰釉が流し掛けられている。 | 内外面施釉(灰釉)。外周流し掛け(灰釉)。 | 微砂粒を小量含む。 | 灰白色 | 瀬戸・美濃系(瀬戸) |
| 410 | 陶器皿 | 器高 底径 (1.8) 3.8 | 春菊底。 | 内面施釉(灰釉)。見込部目掛。外周無釉。 | 微砂粒を小量含む。 | 灰白色 | 肥前系(唐津) |
| 411 | 陶器皿 | 器高 底径 (2.2) 4.0 | 底部堅厚やや厚く、供食より内窓しながら立ち上がる。 | 内面施釉(灰釉)。外面開版ハラケズミ。見込部、蒙付部、胎土目掛。 | 精良。 | 灰色 | 肥前系(唐津) |
| 412 | 陶器皿 | 器高 底径 (1.1) 6.2 | 企頭施釉。見込部で内窓になっている。窓台内には落葉模様が残る。茎葉底。 | 内外面施釉(灰釉)。見込部底固ぎ。 | 精良。 | 灰白色 | 瀬戸・美濃系(瀬戸) |
| 413 | 陶器皿 | 器高 底径 (1.9) 5.4 | 見込部目掛。茎葉底。外面無釉。 | 内外面クロナデ。内面施釉(灰釉)。 | 砂粒を含む。 | にぶい黄褐色 | 肥前系(唐津) |
| 414 | 陶器急利 | 器高 底径 (3.8) 5.6 | 底部より内側しながら立ち上がる。 | 内外面クロナデ。外周一部窓突。 | 精良。 | 内輪灰白 外明赤褐色 | 備前系 |
| 415 | 陶器皿 | 口径 器高 (11.0) (3.8) | 脚部が窓台から緩やかに上方に延び、そのまま水平な口縁部を持つ。 | 内外面施釉(灰釉)。外周底部不平端底。 | 微砂粒を小量含む。 | 褐色 | 肥前系(唐津) |
| 416 | 陶器皿 | 器高 底径 (2.7) 6.4 | 窓台からは上方に向けて緩やかに削部が延びている。見込部ノ目割削。内外面と斜け分け付。 | 内面施釉(鋸歯釉)。見込部、蒙付部胎土目掛。 | 微砂粒を小量含む。 | 灰白色 | 肥前系(唐津) |
| 417 | 陶器皿 | 器高 底径 (3.2) 11.3 | 底よりよきや直線的に立ち上がる。 | 内面施釉(灰釉)。見込部、蒙付部胎土目掛。 | 精良。 | 灰色 | 肥前系(唐津) |
| 418 | 陶器 灯明受皿 | 口径 器高 底径 (9.4) 0.8 6.0 | 器盤深く底部より直線的に立ち上がる。 | 内外面クロナデ。 | 精良。 | 赤褐色 | 備前系 |
| 419 | 陶器 灯明受皿 | 口径 器高 底径 (7.8) 1.6 5.6 | 底部より緩やかに立ち上がる。 | 内外面直上(鉢装)。 | 微砂粒を小量含む。 | 赤褐色 | |
| 420 | 陶器皿 | 器高 底径 (1.4) 4.0 | 把立付。 | 外面施釉(灰釉)。内面回転系切り。 | 精良。 | 灰白色 | |
| 421 | 器皿 青瓷罐II | 口径 器高 底径 (8.1) 5.8 4.5 | 筒形。蒙付部無地、御付蓋。 | 内外面施釉。外西丸付(圈足)。 | 精良。 | 灰白色 | 肥前系(伊万里) |
| 422 | 器皿 | 口径 器高 (11.4) (5.3) | やや厚みのある器壁で口縁部は口縫目で直線的。 | 内外面施釉。外腹丸付(草花)。 | 精良。 | 灰白色 | 肥前系(伊万里) |
| 423 | 器皿 | 口径 器高 (8.0) (3.0) | 体部直線的に立ち上がり、口縁部が丸や尖る。 | 内外面施釉。内面蒙付。 | 精良。 | 灰白色 | 肥前系(伊万里) |
| 424 | 器皿花瓶 | 口径 器高 (8.6) (2.3) | 肩より緩やかに斜めに立ち上がり口部は外反する。口縁部は丸く仕上げる。釉の色は淡緑色を呈する。 | 内外面施釉(青絵)。 | 精良。 | 灰白色 | 青絵 肥前系(伊万里) |
| 425 | 器皿香炉 | 器高 底径 (2.1) 3.8 | 青磁。蒙付付。窓台無地。 | 内外面クロナデ。外周施釉(青絵)。外底底部窓部。 | 精良。 | 灰白色 | 外青磁 肥前系(伊万里) |
| 426 | 器皿 | 口径 器高 (9.0) (2.0) | なだらかに前縁に立ち上がり口縁部は外反する。口縁部は尖る。 | 内外面施釉(白絵)。 | 精良。 | 浅黃褐色 | 白絵 |
| 427 | 器皿 | 器高 底径 (1.0) 5.4 | 淡青急柄。 | 内外面施釉(青絵)。内面横目立。外周底部無地。 | 精良。 | 灰白色 | 龍泉窑系青絵 |
| 428 | 土器質 人形(火鉢) | 幅 器高 厚さ (2.6) 3.1 1.2 | 中実。底部穿孔あり。 | 製作り貼合せ。 | 精良。 | にぶい褐色 | |
| 429 | 土器質 人形(火鉢) | 幅 器高 厚さ (3.1) 6.0 2.4 | 中実。底部穿孔あり。 | 製作り貼合せ。 | 石英・墨青・青碧。 微砂粒を含む。 | にぶい褐色 | |

第29表 田宮遺跡 C区 出土遺物觀察表 土器・陶磁器等(8)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態の特徴 | 成形・技法 | 胎土 | 色調 | 備考 | |
|-----|------------|----------------------------|-----------------------------------|--------------------------|-----|---------------------------|--------|--|
| 430 | 土師質土錠 | 長径 幅 厚み 穿孔径 重量 | 5.2 1.0 1.0 0.3 4.55 | 筋縹形の管状土錠。棒に粘土を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 石英・雲母。微細粒を小量含む。 | 淡黄褐色 | |
| 431 | 土師質土錠 | 長径 幅 厚み 穿孔径 重量 | 3.9 1.6 1.7 0.6 10.23 | 筋縹形の管状土錠。棒に粘土を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 石英・雲母・結晶片岩・赤色斑紋。微細粒を少量含む。 | にぶい褐色 | |
| 432 | 土師質土錠 | 長径 幅 厚み 穿孔径 重量 | 1.9 1.6 1.5 0.6 4.58 | 短削の筋縹形管状土錠。棒に粘土を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 石英・雲母。微細粒を小量含む。 | にぶい赤褐色 | |
| 433 | 土師質土錠 | 長径 幅 厚み 穿孔径 重量 | 2.4 1.7 1.7 0.6 5.42 | 短削の筋縹形管状土錠。棒に粘土を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 石英・雲母。 | にぶい赤褐色 | |
| 434 | 土師質土錠 | 長径 幅 厚み 穿孔径 重量 | 2.4 1.8 1.8 0.7 5.75 | 短削の筋縹形管状土錠。棒に粘土を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 石英・雲母。微細粒を少量含む。 | 明赤褐色 | |
| 435 | 瓦質 加工用具 | 長径 間高 短径 | 4.2 1.4 4.0 | 瓦再利用品。 | — | 長石・砂岩。砂粒を多く含む。 | 灰白色 | |

第30表 田宮遺跡 C区 出土遺物觀察表 石製品・金属製品

| 番号 | 器種 | 法量 | | | | 備考 |
|-----|---------|-------|---------|-------|-------|-----------------|
| | | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重(g) | |
| 297 | 石製品臼石 | 16.4 | 16.7 | 9.0 | 3700 | 砂岩 |
| 298 | 石製品砥石 | 5.7 | 4.9 | 0.8 | 18.30 | |
| 299 | 石製品砥石 | 25.7 | 10.0 | 16.7 | 5800 | 砂岩 |
| 300 | 石製品火打ち石 | 4.2 | 3.4 | 3.0 | 50.15 | 石英 |
| 301 | 石製品火打ち石 | 3.7 | 2.3 | 1.7 | 24.41 | |
| 343 | 石製品鏡 | 4.1 | 3.3 | 1.2 | 22.67 | 粘板岩 |
| 379 | 石製品鏡 | 5.7 | 4.9 | 0.8 | 18.30 | |
| 380 | 石製品砥石 | 7.4 | 5.4 | 1.4 | 6974 | |
| 381 | 石製品砥石 | 13.4 | 10.8 | 6 | 1650 | 砂岩 |
| 302 | 銅製品仏具 | 7.9 | 短径5.3 | 器高2.4 | 20.70 | 香炉の上に置くもの |
| 303 | 銅製品梵? | 2.7 | 1.1 | 0.2 | 1.89 | |
| 304 | 銅合金環管鑄首 | | 火皿1.7 | 器高1.0 | 2.98 | |
| 305 | 銅合金環管鑄首 | 2.2 | 火皿1.5 | 器高2.2 | 3.84 | |
| 306 | 錢貨 | 2.4 | | | 2.72 | 嘉祐元寶(初鑄1056・北宋) |
| 307 | 錢貨 | 2.5 | | | 3.83 | □通元寶 |
| 318 | 錢貨 | 2.3 | | | 2.12 | 寛永通宝(初鑄1636) |
| 382 | 銅合金環管鑄首 | 3.8 | 火皿1.4 | 器高2.3 | 5.62 | |
| 436 | 真龜爐管吸口 | 4.8 | 1.1付0.4 | 器高1.1 | | |
| 437 | 銅製品不明 | 5.7 | 1.5 | 0.5 | 18.57 | 鍛製。鑄型原料? |
| 438 | 銅製品不明 | 内径2.7 | | 器高0.9 | 3.71 | 表面金無痕。酒具部品? |

第31表 田宮跡 D 区 出土遺物観察表 土器・陶磁器等(1)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | 形態の特徴 | 成形・技法 | 釉上 | 色調 | 備考 |
|-----|-------------|--------------------------------------|-----------------------------------------------------|-------------------------------------------|-------------------------|-----------------|----------------|
| 439 | 丸質杯 | 口径 器高 底径 12.4 4.1 6.2 | 体部から口縁にかけて直線的に立ち上がる。底部の歪み頗る。底部はすこし凹む。 | 内外面クロナデ。外面部回転ヘア切り。 | 石英、長石、雲母、砂粒を含む。 | 灰白色 | |
| 440 | 土師質 高台付碗 | 器高 底径 (1.3) 5.1 | 底部よりやや内側しながら立ち上がる。底部内面は丁寧なナデ。底部高台三角形に尖る。 | 内外面回転ナデ。貼付高台。 | 石英、長石、雲母、砂石。砂粒を少量含む。 | 内褐色 外に赤い黄褐色 | |
| 441 | 土師質 高台付碗 | 口径 器高 底径 11.1 3.3 3.9 | 底部よりやや内側しながら立ち上がる。口縁部はやや丸い。底部高台付で、先端はやや平坦気味に丸く仕上げる。 | 内外面回転ナデ。外面部回転ナデ。後指オサエ。貼付高台。 | 石英、長石、雲母、赤色斑点。微砂粒を小量含む。 | に赤い黃褐色 | |
| 442 | 土師質皿 | 口径 器高 底径 7.2 1.2 6.6 | 口縁部やか外反し、底部内面やや丁寧なナデ。 | 内外面回転ナデ。見込み部ナデ。外面部回転ナデ。 | 石英、雲母、赤色斑点。微砂粒を少量含む。 | 内褐赤褐色 外に赤い褐色 | |
| 443 | 瓦質羽釜 | 口径 器高 (2.7) (25.4) | 口縁部は直線的に斜め上方に広がり、縁部は内側に肥厚させ平圧に仕上げている。断面方形の底、鶴が付く。 | 内外面クロナデ。外面部ナデ。 | 石英、長石、雲母、砂石。砂粒を含む。 | 内灰褐色 外黄褐色 | |
| 444 | 須質壺 | 器高 底径 (7.2) 17.4 | 体部やや内側しながら筋が上方に延びる。底部平底、底部から体部にかけ器壁薄くなる。 | 内面ナデ。外面部平行タキ。 | 石英、雲母、结晶片岩、黒色斑点。 | 内灰白色 外灰色 | |
| 445 | 磁器碗 | 口径 器高 (3.3) 13.8 | 体部内側。口縁部やや外反し、縁部は丸い。全体に鐵濃青色。企画やや厚めの淡緑色釉を施す。 | 内外面施釉(背面)。外面部回転ナデ。 | 精良。 | 灰色 | 龍泉窯系青組 |
| 446 | 土師質 高台付碗 | 器高 底径 (1.0) 4.2 | 底部より腰やかに内側しながら立ち上がる。高台断面三角形。 | 内面ナデ。外面部回転ナデ。外面部ナデ。貼付高台。 | 微砂粒を少量含む。 | 淡青褐色 | |
| 447 | 土師質碗 | 口径 器高 (2.6) 12.0 | 体部内側。口縁部やや直線的で縁部は丸い。 | 内面回転ナデ。外面部回転ナデ、指オサエ。 | 石英、雲母、微砂粒を少量含む。 | 灰白色 | |
| 448 | 土師質鍋 | 口径 器高 (4.0) 30.0 | 「く」の字状口縁。体部内側。口縁端部は平坦。 | 内面回転ナデ。外面部回転ナデ。後指オサエ。 | 石英、長石、雲母、赤色斑点。砂粒を小量含む。 | に赤い黃褐色 | |
| 449 | 須質 こね鉢 | 口径 器高 (6.4) 29.6 | 体部直線的。口縁端部上方に拡張し、先端部丸く仕上げる。器壁薄い。 | 内外面クロナデ。 | 石英、長石、雲母、砂石。微砂粒を多く含む。 | 灰白色 | 東播系 |
| 451 | 土師質碗 | 口径 器高 (2.4) 11.0 | 体部内側。口縁部直線的で縁部は丸い。 | 内外面回転ナデ。 | 石英、長石、雲母、角閃石。微砂粒を小量含む。 | に赤い褐色 | |
| 452 | 土師質杯 | 器高 底径 (1.5) 6.6 | 体部やや内側。底部の器壁は厚い。 | 内外面回転ナデ。外面部回転ナデ。 | 長石、雲母、砂石、赤色斑点。 | 淡黄褐色 | |
| 453 | 土師質鍋 | 口径 器高 (10.7) 34.0 | 「く」の字状口縁。体部内側。口縁端部は平坦。 | 内面ハケ(9~10本/cm)。外面部オサエ。後ハケ(9本/cm)。 | 石英、雲母、赤色斑点。砂粒を多く含む。 | 内に赤い黃褐色 外灰褐色 | 内外面接付着 |
| 454 | 瓦質甕 | 器高 底径 (8.9) 15.6 | 底部より腰やかに内側しながら立ち上がる。 | 内面削ぎ。外面部格子目タキ。 | 石英、長石、雲母、砂粒を多く含む。 | 灰白色 | |
| 455 | 陶器碗 | 器高 底径 (4.9) 5.0 | 底部より内側しながら立ち上がる。 | 内外面施釉(透明釉)。蓋付砂付。企画貢入。 | 精良。 | 淡黄色 | 京・信楽系(京焼) |
| 456 | 陶器碗 | 口径 器高 (5.5) 12.2 | 高台からほぼ1/3方に向けて斜め上方に器部が延び、口縁部が外反する逆反形のもの。 | 内外面施釉(透明釉)。 | 微砂粒を含む。 | 灰白色 | 肥前系(津浦) |
| 457 | 陶器 天日茶碗 | 器高 底径 (1.7) 3.8 | 底部より内側しながら立ち上がる。 | 内面施釉(铁釉)。外面部ヘラケツリ。 | 精良。 | 灰白色 | 森戸・美濃系(森戸) |
| 458 | 磁器碗 | 口径 器高 底径 11.2 6.8 4.5 | 口縁部直線的。口縁端部はやや斜めに尖る。淡緑色釉を施す。 | 内外面施釉(青釉)。高台無輪。 | 精良。 | 灰白色 | 青磁 尼崎系(伊万里) |
| 462 | 土師質杯 | 口径 器高 底径 10.7 3.1 6.0 | 体部内側。口縁部直立する。体部ナデによる後が残る。口縁部やや尖る。 | 内面回転ナデ。後指オサエ。外面部回転ナデ。外面部回転ナデ。見込部、高台部移行粘土。 | 石英、雲母、赤色斑点。砂粒。 | 内に赤い黄色 外暗灰褐色 | |
| 464 | 陶器皿 | 口径 器高 底径 11.6 3.3 5.0 | 高台部から腰やかに上方に延び、口縁部が外反する。 | 内外面施釉(灰釉)。見込部、高台部移行粘土。 | 精良。 | に赤い黃褐色 | 肥前系(唐津) |
| 466 | 七師質皿 | 口径 器高 底径 10.2 2.0 5.6 | 底部より直線的に立ち上がり、口縁部やや尖る。 | 内外面回転ナデ。外面部指オサエ、リサ。 | 雲母、砂岩、微砂粒を少量含む。 | に赤い黃褐色 | |
| 467 | 磁器皿 | 器高 底径 (1.1) 6.0 | 見込部接付による文様が見られる。 | 内外面施釉。内面接付(文様不明)。高台蓋付砂付。 | 精良。 | 灰白色 | 肥前系(伊万里) |
| 468 | 磁器皿 | 器高 底径 (2.4) 5.0 | 底把より腰やかに内側しながら立ち上がる。 | 内外面回転ナデ。蓋付砂付。 | 精良。 | 灰白色 | 肥前系(初期伊万里) |

第32表 田宮遺跡 D区 出土遺物觀察表 土器・陶磁器等(2)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態の特徴 | 底形・技法 | 胎土 | 色調 | 備考 | | |
|-----|------------------|----------------------------|--------------------------------------------------|--------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------------|----------------------|----------------------|--------------------------|
| 469 | 土師質灰 器高 底径 | 口径 2.7 底径 6.0 | 10.1 2.7 6.0 | 底面より縦やかに内唇して立ち上がる。口縁端部は丸く仕上げる。 | 内外面回転ナデ。外面部底部圓錐余切り。 | 長石・雲母・砂粒。 微砂粒を含む。 | 内赤色 外に赤い黄褐色 | | |
| 470 | 土師質灰 器高 底径 | (1.6) 8.1 | 底部からほぼ直線的に立ち上がる。 | 内外面回転ナデ。外面部底部圓錐余切り。 | 石英・長石・雲母・赤色斑紋。微砂粒を少量含む。 | 内灰青褐色 外に赤い褐色 | 見込部葉付着 | | |
| 471 | 土師質灰 器高 底径 | 11.6 (2.0) | 底部直線的に立ち上がる。口縁端部は少し厚めで、内唇をやや厚めにする。 | 内外面回転ナデ。外面部底部指サオサエ(掌派)。 | 石英・長石・雲母。微砂粒を少量含む。 | 内灰白色 外に赤い黄褐色 | 口縁部葉付着 京都系(15C以降) | | |
| 472 | 土師質灰 器高 底径 | 8.4 1.4 6.4 | 底面よりやや内唇しながら立ち上がる。口縁端部はやや尖る。 | 内外面回転ナデ。 | 石英・長石・雲母・赤色斑紋。小穂を少量含む。 | 内に赤い橙色 外橙色 | | | |
| 473 | 土師質灰 器高 底径 | 8.6 1.3 5.6 | 底面よりやや内唇しながら立ち上がる。口縁端部はやや尖る。 | 内外面回転ナデ。外面部底部圓錐余切り。 | 長石・砂岩・微砂粒を含む。 | 灰白色 | | | |
| 474 | 土師質 高台付楕 | 口径 器高 底径 | 10.2 2.9 3.9 | 体部内側。口縁部や外反。口縁端部は丸い。高台周面造三角形。 | 内外面回転ナデ。貼付高台。 | 石英・長石・雲母。砂粒を少量含む。 | に赤い黄褐色 吉野系 | | |
| 475 | 土師質灰 器高 | 26.2 (6.2) | 高台よりやや内唇しながら立ち上がる。口縁端部は「く」の字状に外反する。先端はやや四面に仕上げる。 | 内外面ナゲ後指サエ。 | 石英・雲母・赤色斑紋。砂粒・小穂を多く含む。 | に赤い黄褐色 | | | |
| 476 | 土師質灰 器高 | 26.8 (5.6) | 内唇しながら立ち上がる。切り口縁部に断面三角形の跡が水平に多く、口縁端部はやや丸く仕上げる。 | 内外面回転ナデ。外面部平行タキ。 | 石英・長石・雲母。 | 内に赤い橙色 外橙色 | 播磨型 | | |
| 477 | 瓦質鏡 | 口径 器高 (3.1) | 体形内唇。11縫端部は尖る。 | 内外面クロナデ。外面部指サエ。 | 長石・砂岩・微砂粒を少量含む。 | 黄灰色 | | | |
| 478 | 瓦質鏡 | 11.6 (2.1) | 口縁部や内唇。口縁端部丸い。 | 内面クロナデ後ハラミガキ削文。外面クロナデ。 | 石英・雲母・微砂粒を多く含む。 | 灰褐色 | | | |
| 479 | 瓦質火鉢 | | 体形や内唇しながら立ち上がる。 | 内外面クロナデ。外面部押捺形(菊花)。 | 石英・雲母・赤色斑紋。微砂粒を多く含む。 | 内灰青色 外灰褐色 | 奈良火鉢 | | |
| 480 | 須恵質 こね跡 | | 体部直線的に立ち上がり、口縁端部は「く」の字状。端部はやや丸い。 | 内外面クロナデ。内面部ナデ。 | 長石・砂岩。微砂粒を多く含む。 | 黄灰色 | 東播系 | | |
| 481 | 陶器擂抹 | 口径 器高 (6.4) | 30.6 | 体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は上下への張強が見られ、口縁部が緩やかに外反する。 | 内外面クロナデ。内面部指目(単位不明)。 | 砂粒を少量含む。 | 内赤灰色 外赤褐色 | 備前系 | |
| 482 | 陶器擂抹 | 口径 器高 (5.5) | 26.0 | 体形より斜めに直線的に立ち上がり、口縁部を上に拡張する。 | 内外面クロナデ。内面部擂目(11条/2.6cm)。 | 砂粒・小穂を含む。 | 赤色 | 唐・明石系 | |
| 483 | 陶器壓鉢 | 器高 底径 | (4.0) 15.0 | 40.0 | 平底の底部より体部は直立して立ち上がる。 | 内外面クロナデ。外面部自然輪付。外面部回転ヘラケズリ。 | 砂粒を多く含む。 | 褐褐色 | 備前系 |
| 484 | 陶器蓋 | 器高 底径 | (8.7) 7.7 | 半円な底盤よりわずかに膨らみで立ち上がる。 | 内外面クロナデ。外面部粗面(底盤)。 | 微砂粒を少量含む。 | 淡黄色 | 瀬戸・美濃系(瀬戸) | |
| 485 | 陶器皿 | 口径 器高 底径 | 12.0 2.7 3.2 | 高台の底部よりやかに弯曲した洞部が延び(縫隙が外反する)。内面に斜を持つ。 | 内外面施釉(透明釉)。見込部砂目痕(3点)。高台無底。 | 精良。 | 灰白色 | 肥前系(佐津) 16C後~17C前 | |
| 486 | 磁器皿 | 口径 器高 (3.0) | 15.2 6.3 4.0 | 輪花型。 | クロコ打成形。外面部施釉。 | 精良。 | 灰白色 | 肥前系(伊万里) | |
| 487 | 磁器碗 | 口径 器高 底径 | 12.6 (3.6) | 12.6 | 体部直線的に立ち上がり口縁の外反する。 | 内外面施釉(青磁)。 | 精良。 | 灰白色 | 青磁 |
| 488 | 磁器皿 | 口径 器高 (2.9) | 10.6 6.3 | 10.6 (2.9) | 体部より内唇して、11縫は丸く仕上げる。 | 内外面施釉。 | 精良。 | 灰白色 | 中国系 青花 |
| 489 | 磁器碗 | 口径 器高 底径 | 11.6 6.3 4.0 | 11.6 (3.0) | 底部より内唇しながら立ち上がる。外青磁。 | 内面染付(四方擇・見込部二層圓錐内五方化)。外面部施釉(青磁)。蓋付部露胎・砂付窓。 | 精良。 | 灰白色 | 外青磁 肥前系(伊万里) 16C後半 |
| 490 | 土師質土瓶 | 長径 幅 厚み 空孔径 重量 | 3.2 1.1 1.1 0.4 2.28 | 縫接形の管状土瓶。縫に粘土を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 石英・雲母・赤色斑紋。精良。 | 赤色 | | |
| 491 | 土師質土瓶 | 長径 幅 厚み 空孔径 重量 | (5.9) 2.7 2.7 1.1 41.75 | 縫接形の管状土瓶。縫に粘土を巻き付けて成形。 | 指サエ。 | 石英・雲母・粘晶片岩・赤色斑紋。砂粒・小穂を多く含む。 | に赤い黄褐色 | | |

第33表 田宮遺跡 D区 出土遺物観察表 土器・陶磁器等(3)

| 番号 | 容積 | 法量(cm) | 形態の特徴 | 成形・技法 | 断面 | 色調 | 備考 |
|-----|-------------|----------------|-------------------|----------------------|----|--------------------|------|
| 492 | 十郎貢 加工円盤 | 長径 高さ 寛径 | 2.1 0.5 2.0 | 11径2.1cmの上部貢加工円盤である。 | | 石英・雲母・赤色 斑紋。精良。 | 浅黄褐色 |
| | | | | | | | |

第34表 田宮遺跡 D区 出土遺物観察表 石製品・金属製品

| 番号 | 種類 | 法量 | | | | 備考 |
|-----|---------|-------|-------|-------|-------|---------------|
| | | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重(g) | |
| 450 | 石製品砥石 | 7.5 | 3.7 | 2.1 | 61.77 | |
| 493 | 石製品砥石 | 7.1 | 4.6 | 1.7 | 67.20 | 祐板岩 |
| 459 | 銅製品環状鍍金 | 6.4 | 火皿1.4 | 器高2.0 | 5.47 | |
| 460 | 鏡 | 実測図なし | 実測図なし | 実測図なし | 実測図なし | 実測図なし |
| 461 | 鏡 | 実測図なし | 実測図なし | 実測図なし | 実測図なし | 実測図なし |
| 465 | 鏡 | 2.3 | | | 3.19 | 洪武通宝(1368・明) |
| 494 | 鏡 | 2.5 | | | 3.05 | 皇宋通宝(1039・北宋) |
| 495 | 鏡 | 2.5 | | | 3.13 | 皇宋通宝 |
| 496 | 鏡 | 2.4 | | | 3.11 | 寛永通宝(新) |

第35表 田宮遺跡 E 区 出土遺物觀察表 土器・陶磁器等 (1)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | 形態の特徴 | 成形・接法 | 胎土 | 色調 | 備考 |
|-----|-------------|----------------------------|-------------------------------------------------------|------------------------------------|-------------------------|-------------------|-------------------|
| 497 | 土師質杯 | 口径 器高 (3.0) | 底部より肥厚な体部がやや内側に立ち上がる。口縁部は薄く、端部は丸い。 | 内外面回転ナデ。 | 素母・赤母。微砂粒を含む。 | 内に赤い褐色 外に赤い黃褐色 | |
| 498 | 土師質土鍋 | 口径 器高 (2.9) | 体部内側、「く」の字状の口縁で縁部は丸い。 | 内面ハケ (12cm)。外面指オリエ後ナデ。 | 石英・長石・雲母・赤色斑点。砂粒を多く含む。 | 内に赤い黃褐色 外に赤い褐色 | 外面焼付着 |
| 499 | 土師質碗 | 口径 器高 (2.1) | 体部内側に口縁端部はやや平坦に仕上げる。 | 内外面回転ナデ。外面部品下部回転ハラケズリ、指オサエ。 | 石英・長石・雲母。砂粒を含む。 | 内に赤い黃褐色 | 内面黒斑 |
| 500 | 土師質碗 | 口径 器高 (2.6) | 体部内側。口縁部や直線部の体部にナデによる棱を残す。 | 内外面ナデ。 | 石英・長石・雲母・砂粒。微砂粒を含む。 | 灰白色 | |
| 501 | 土師質碗 | 口径 器高 (2.1) | 体部外側へ開いた後内側。口縁部内側。端部は丸い。体部中央に強いナデあり。 | 内外面回転ナデ。 | 石英・長石・雲母。砂粒を含む。 | 灰白色 | 古備系 |
| 502 | 瓦質碗 | 口径 器高 (2.6) | 底部よりやや内側しながり立ち上がり、口縁部はやや外反しながら厚壁する。端部はやや丸い。 | 内面クロコナデ後ハラミガキ輪文。外面クロコナデ。外面部指オサエ。 | 石英・長石・雲母・赤色斑点。微砂粒を含む。 | 暗灰色 | |
| 503 | 須恵鉢 こね鉢 | 口径 器高 (4.5) | 口縁部や外反。口縁端部上线下にやや扯出し、縁部を成形する。底面丸い。 | 内外面クロコナデ。 | 石英・長石・雲母・砂粒を含む。 | 灰褐色 | 東漢系 |
| 504 | 埴器? | 口径 器高 (1.1) | 底部よりやや内側しながり立ち上がり。口縁部は直線的にやや丸がある。 | 内外面施釉 (青白色)。陰刻 (蓮弁文)。 | 精良。 | 灰白色 | 青白磁 輸入陶磁器 |
| 505 | 土師質土壷 | 長径 幅 厚み 穴孔径 重量 | 4.2 1.2 1.3 0.4 5.06 | 筋縫形の管状土壷。棒に粘土を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 長石・微砂粒を多く含む。 | に赤い褐色 |
| 506 | 土師質土壷 | 長径 幅 厚み 穴孔径 重量 | 3.3 0.9 0.9 0.3 2.25 | 筋縫形の管状土壷。棒に粘土を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 微砂粒をわずかに含む。 | に赤い褐色 |
| 507 | 瓦質羽釜 | 口径 器高 (3.1) | 断面方形の短い脚が付く。口縁端部や平坦である。 | 内面ハケ (8cm)。外面クロコナデ。 | 石英・雲母。砂粒を多く含む。 | 灰白色 | |
| 508 | 陶器 德利形瓶 | | 容胴にクロロ彫形模とみられる凹凸をめぐらす。 | 内面ハケ (掌底)。外面部指オサエ。捺印「ク」。 | 砂粒を含む。 | 灰色 | 備前系 |
| 509 | 土師質羽釜 | 口径 器高 (5.9) | 直立する口縁部に断面三角形を正面方向にやや斜らみで端部は丸い。口縁端部は平坦で外側に抵抗する。 | 内面ハケ (掌底)。外面部指オサエ。外面部指オサエ、ナデ。 | 石英・長石・雲母・砂粒。大小の砂粒を多く含む。 | 内赤色 外黒褐色 | 外面焼付着 |
| 510 | 土師質杯 | 器高 底径 (1.8) | 底部より内側気味に立ち上がる。 | 内外面回転ナデ。外面部回転糸切り後ハラ切り。 | 石英・長石・雲母・赤色斑点。微砂粒を多く含む。 | に赤い褐色 | |
| 511 | 土師質碗 | 口径 器高 (2.1) | 体部外方へ開いた後内側。口縁部直線的で端部は丸い。体部中央に強いナデがあり。 | 内外面回転ナデ。 | 石英・赤色斑点。微砂粒を小量含む。 | 浅黃褐色 | |
| 512 | 土師質 高台付桶 | 口径 器高 底径 (3.0) | 口縁端部やや丸い。体部上位にやや膨らみを持ちやや外反する。 | 内外面回転ナデ。高台付高台。 | 石英・雲母。砂粒を小量含む。 | に赤い褐色 | |
| 513 | 土師質碗 | 口径 器高 (3.7) | 「く」の字状の口縁。口縁部底面は平底。 | 内面ハケ (11cm)。外面部指オサエ、捺印「ク」。 | 長石・雲母・砂粒。砂粒を多く含む。 | 内に赤い黃褐色 外黒褐色 | 外側焼付着 |
| 514 | 瓦質碗 | 口径 器高 (2.3) | 底部よりやや内側しながり立ち上がり。口縁部はやや外反しながら厚壁する。口縁端部はやや丸い。 | 内面クロコナデ。外面部指オサエ。外面部後指オサエ。 | 石英・雲母。精良。 | 青灰色 | |
| 515 | 陶器碗 | 器高 底径 (1.3) | 底部やや内側気味に立ち上がる。底部平面。 | 内外面クロコナデ。外面部回転糸切り。 | 精良。 | 灰白色 | 備前系 |
| 516 | 瓦質?羽釜 | 口径 器高 (4.5) | 体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がり、口縁端部は平底で左右に抵抗。断面方形の短い脚がやや下向きに付く。 | 内外面クロコナデ。内面体部ハケ。端部下面指オサエ。 | 石英・雲母・結晶片岩。 | 灰白色 | |
| 517 | 角器蓋 | | 内外に縦肋がまだらに描かれる。頂部に10条ほどの脚輪が入る。底面津。 | 内外面施釉 (綠釉)、脚はゼ。 | 精良。 | 灰褐色 | 肥前系 (吉津) |
| 518 | 埴器皿 | 口径 器高 底径 (2.1) | 基底部。蓋付陶刷ぎ砂付着。 | 内外面施釉 (白釉)。内面施釉。蓋付部陶刷ぎ砂付着。口クロコ打付用。 | 精良。 | 灰白色 | 白磁 肥前系 (初期伊万里) |

第36表 田宮遺跡 E 区 出土遺物觀察表 土器・陶磁器等 (2)

| 番号 | 器種 | 法量 (cm) | 形態の特徴 | 成形・技法 | 胎土 | 色調 | 備考 | |
|-----|------------|----------------------------|----------------------------------|------------------------------------------|----------------------------------|--------------------------|-------------------------|------------------|
| 519 | 器蓋 | 部高 底径 4.8 4.6 | 底部より内側しながら立ち上がる。浅鉢形の質状土器。 | 内外面施釉 (灰青)。高台付。棒良。 | 灰白色 | 青磁 肥前系(初期伊万里) | | |
| 520 | 十脚質土鍤 | 長径 幅 厚み 穿孔径 重量 | 4.5 1.5 1.5 0.6 9.30 | 4.5 1.5 1.5 0.6 9.30 | 軽鉢形の質状土鍤。棒に熱土を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 石英・長石・雲母・赤色斑紋。微砂粒を多く含む。 | にぶい黄褐色 |
| 522 | 須恵質 こね鉢 | 口径 器高 | 34.5 (3.5) | 体部直線的。口縁端部やや抵抗し、端面を丸く仕上げる。 | 内外面クロナデ。 | 長石・雲母・砂岩。微砂粒を多く含む。 | 灰褐色 | 束縛系 |
| 523 | 土師質皿 | 口径 器高 底径 | 9.0 1.2 6.8 | 口縁端部やや丸い。底部よりU字部がかけや直線的に立ち上がる。 | 内外面凹輪ナデ。外面部部斜面ハラ切り。 | 石英・雲母・赤色斑紋。微砂粒を含む。 | にぶい褐色 | |
| 524 | 瓦質碗 | 口径 器高 | 11.0 (3.5) | 体部外周に成形による弱い棱があり。口縁端部やや平坦気味。 | 内面クロナデ。外面クロナデ後指オサエ。 | 石英・雲母・赤色斑紋を含む。 | 内青灰色 外黒褐色 | |
| 525 | 十脚質羽釜 | 口径 器高 | 24.6 (2.0) | 体部内壁。鋸部やや下向きに張り出し。U字部端部はやや左右に張り出す。 | 内面ハケ (9 cm) 後指オサエ。外面凹輪ナデ。鋸部指オサエ。 | 石英・雲母。 | 橙色 | 外面煤付着 |
| 526 | 十脚質羽釜 | | | 口縁部や内壁。断面方形の錐が水平に付く。 | 内面指オサエ後ハケ。外面凹輪ナデ。外面部ハケ。 | 長石・雲母・砂岩・赤色斑紋。微砂粒を多く含む。 | 内暗灰黄色 外黒褐色 | 外面煤付着 |
| 527 | 十脚質羽釜 | 口径 器高 | 25.0 (6.0) | 体部や内壁。口縁端部は肥厚し、平底に仕上げる。断面三角形の鋸がやや上向きに付く。 | 内面ハケ (11 cm)。外面ナデ後指オサエ。 | 石英・雲母・赤色斑紋。砂粒を含む。 | 内にぶい黄褐色 外灰褐色 | 外面煤付着 |
| 528 | 瓦質羽釜 | 口径 器高 | 20.5 (5.2) | 口縁部やや直立気味。断面V字形の鋸が付く。 | 内外面クロナデ。内面底部ナデ。 | 石英・雲母・砂岩。砂粒を多く含む。 | 灰褐色 | |
| 529 | 瓦質脚部 | 長径 短径 厚み | 10.5 9.6 2.9 | 断面円形。基部黒帯。背部直線的。 | 内面ハケ。脚部指ナデ、指オサエ。 | 石英・雲母・結晶片・赤色斑紋。砂粒を多く含む。 | 内灰白色 外褐灰色 | 外面部煤付着 |
| 530 | 須恵質 こね鉢 | | | 口縁端部は下に大きく張張され、「く」の字状の形態の縁帶を形成している。 | 内面ナデ、ヘラ状工具によるナデ。外面クロナデ、ナデ。 | 石英・長石・雲母・砂岩・チャート?。砂粒を含む。 | 暗灰褐色 | |
| 531 | 須恵質 こね鉢 | 口径 器高 | 29.6 (3.3) | 口縁端部以下に抵抗し、端部は丸みを持つ。 | 内外面削離不明。 | 石英・長石・雲母・赤色斑紋。砂粒を多く含む。 | 灰白色 | 束縛系 |
| 532 | 陶器皿 | 器高 底径 | (2.5) 4.6 | 底部より縦やかに立ち上がる。見込、窓合目痕。 | 内外面施釉 (灰釉)。外面腰部以下無釉。 | 精良。 | にぶい褐色 | 肥前系(唐津) |
| 533 | 器蓋皿 | 口径 器高 | 17.2 (2.9) | 体部より内側しながら立ち上がる。 | 内外面施釉 (白釉)。輪花烈打成形。 | 精良。 | 灰白色 | 白磁 肥前系(初期伊万里) |
| 534 | 器蓋碗 | 口径 器高 | 10.6 (3.3) | 口縁端部付近はやや内側に凹ませ、帯繩が施されている。 | 口縁端部付近 (器蓋、口福)、鍋 (5条1組)。 | 精良。 | 灰白色 | 肥前系(伊万里) |
| 535 | 器蓋碗 | | | 底部より内側しながら立ち上がる。 | 内外面施釉。外面染付 (網目、範箇)。 | 消良。 | 灰白色 | 肥前系(初期伊万里) |
| 536 | 土師質土鍤 | 長径 幅 厚み 穿孔径 重さ | 2.6 1.7 1.7 0.7 5.72 | 軽鉢形の質状土鍤。棒に熱土を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 石英・雲母・赤色斑紋。精良。 | にぶい赤褐色 | |
| 538 | 土師質土鍤 | 器高 底径 | (5.0) 5.2 | 体部内壁。高台断面泥台形状が付く。 | 内外面凹輪ナデ。貼付高台。 | 石英・雲母・赤色斑紋。精良。 | 灰白色 | |
| 539 | 植器碗 | 器高 底径 | (1.8) 4.5 | 底部の層厚厚い。高台断面方形状。淡緑色の釉が厚く施されている。 | 内外面施釉 (青釉)。高台内輪胎。 | 精良。 | 灰白色 | 濃泉窯系青磁 |
| 540 | 土師質杯 | 器高 底径 | (0.9) 7.8 | 体部や内壁。 | 内外面凹輪ナデ。外面部部斜面ハラ切り。 | 石英・雲母・砂岩。微砂粒を小量含む。 | にぶい褐色 外にぶい褐色 | |
| 541 | 土師質杯 | 器高 底径 | (1.5) 6.0 | 底部より緩やかに内側しながら立ち上がる。 | 内外面凹輪ナデ。 | 石英・雲母・赤色斑紋。精良。 | 褐色 | |
| 542 | 瓦質羽釜 | 口径 器高 | 23.4 (6.8) | 口縁部直立気味。口縁端部は平坦。断面三角形の鋸が付く。 | 内面クロナデ。外面クロナデ後指オサエ。 | 石英・長石・雲母・砂岩。砂粒を多く含む。 | 内灰白色 外黃灰色 | 外面煤付着 |
| 543 | 十脚質杯 | 器高 底径 | (0.8) 6.6 | 底部より緩やかに立ち上がる。 | 内外面凹輪ナデ。外面部部斜面ハラ切り。 | 石英・雲母・赤色斑紋。微砂粒を多く含む。 | 浅黃褐色 | |
| 544 | 土師質碗 | 口径 器高 | 12.8 (3.3) | 底部より内側しながら立ち上がる。口部端部端やや薄くななり腹部尖る。 | 内外面ナデ。 | 長石・雲母・砂岩。微砂粒を小量含む。 | 内にぶい黄褐色 外灰褐色 | |

第37表 田宮遺跡 E区 出土遺物観察表 土器・陶磁器等(3)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態の特徴 | 成形・技法 | 胎土 | 色調 | 備考 | |
|-----|-------------|------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------|----------------------------------|-------------------|---------------|
| 545 | 陶器碗 | 口径 高 底径 6.2 | 11.8 2.8 6.2 | 底部より直線的に立ち上がる。口縁部や内壁に瘤突は失る。 | 内面クロナダ。外向ロクロナダ、ナダ。 | 長石・砂岩。 精良。 | 内焰灰褐色 外灰白色 | 備前系 |
| 546 | 土師質杯 | 口径 高 (3.2) | 12.2 6.2 | 底部より内側しながら立ち上がる。体部より口縁部にかけ直線的。口縁部は丸く仕上げる。 | 内外面回転ナダ。 | 石英、雲母、赤色 斑状。 | にぶい黄褐色 | |
| 547 | 土師質 高台付楕 | 高 底径 (1.4) 5.0 | 高台底面透三角形。一部邊台形で低い。 | 内外面ナダ。貼付高台。 | 石英・長石・雲母。 微砂粒を小量含む。 | 内にぶい黄褐色 外にぶい泥色 | | |
| 548 | 土師質碗 | 口径 高 (3.0) | 10.0 4.0 | 体部、口縁部や内壁。口縁部兩面が直面に仕上げる。 | 内外面回転ナダ。 | 石英、雲母、赤色 斑状。 | にぶい黄褐色 | |
| 549 | 土師質碗 | 口径 高 (4.2) | 26.8 4.2 | 体部、口縁部や内壁。口縁部兩面が直面に仕上げる。 | 内面回転ナダ。外面回転ナダ 後指オサ。 | 石英、雲母、金雲母 等・赤色斑状。 | にぶい褐色 | |
| 550 | 磁器皿 | 器高 底径 (1.3) 4.0 | 底部より内側しながら立ち上がる。基盤底で、外側に異様による凸起茎葉。 | 内外面吹付(白毫葉)。貼付 脚部付着。 | 精良。 | にぶい黄褐色 | 中国系 青花 | |
| 551 | 磁器皿 | 口径 高 (2.1) | 12.0 2.9 | 口縁部や外反。口縁部はやや失る。口先。淡黃色油滴を施す。 | 内外面吹付(白毫)。口縁部 剥離。 | 精良。 | 灰白色 | 白毫 |
| 552 | 土師質土鉢 | 長径 幅 厚み 穿孔径 重量 1.90 | 2.9 1.1 0.9 0.4 1.90 | 輪縁形の管状孔。棒に熱土を巻き付けて成形。 | ナダ。 | 長石・雲母。微砂 粒を小量含む。 | にぶい褐色 | |
| 553 | 土師質杯 | 口径 高 底径 8.0 | 14.4 3.2 8.0 | 体部内側より口縁部にかけ直線的に立ち上がる。口縁部鄂は丸い。 | 内外面回転ナダ。 | 石英、雲母、赤色 斑状。 | 内にぶい黄褐色 外にぶい褐色 | |
| 554 | 土師質杯 | 口径 高 (1.3) | 12.6 3.1 3.1 | 体部や内側しながら立ち上る。口縫部はやや尖る。 | 内外面回転ナダ。 | 雲母、砂岩。微砂 粒を小量含む。 | にぶい褐色 | |
| 555 | 土師質 高台付楕 | 口径 高 底径 4.1 | 9.6 2.9 4.1 | 底部より内側しながら立ち上がる。口縫部鄂は丸い。 | 内外面回転ナダ。貼付高台。 | 石英、雲母、赤色 斑状。 | にぶい黄褐色 | |
| 556 | 土師質楕 | 口径 高 (7.0) | 31.5 (7.0) | 体部や内側。口縫部「U」の字状に外反する。端部半屈。 | 内面回転ナダ。内面体部ヨコ ハケ。外面ハケ(7本/cm) 後指オサ。 | 石英、雲母、赤色 斑状。砂粒を含む。 | 内にぶい褐色 外灰褐色 | 口縫部擦付着 |
| 557 | 土師質羽釜 | 口径 高 (6.7) | 29.2 6.7 | 口縫部直線的に立ち上がる。口縫部はやや失る。断面方 形状の跡が付く。 | 内面ナダ。外外面回転ナダ。外 面体部横オサ後ヨコナダ。 | 石英、雲母、結晶 片岩、赤色斑状。 砂粒を多く含む。 | 内にぶい褐色 外にぶい赤褐色 | |
| 558 | 土師質羽釜 | 口径 高 (4.0) | 38.8 4.0 | 体部内側。口縫部が「U」 の字状に屈曲する。 | 内面回転ナダ、ハケ口?、ナ ダ。外外面回転ナダ、平行タク キ。 | 石英、長石、雲母、 砂岩。砂粒を含む。 | にぶい褐色 | 口縫部擦付着 指擦型 |
| 559 | 瓦質檢 | 口径 高 (4.4) | 14.2 4.4 | 体部内側。体部にナテによる 縦を残す。 | 内面クロナダ後ヘラミガキ 等。外面クロナダ、指オ サエ、ヘラミガキ? | 長石、砂岩。微砂 粒を小量含む。 | 灰褐色 | |
| 560 | 瓦質碗 | 口径 高 (3.2) | 16.0 3.2 | 底部より纏やかに内側する。 口縫部は丸く仕上げる。 | 内面クロナダ後ヘラミガキ 等。外面クロナダ後指オサエ。 | 石英、長石、雲母。 微砂粒を小量含む。 | 黄灰色 | |
| 561 | 瓦質羽釜 | 口径 高 (4.3) | 15.0 4.3 | 口縫部内側。断面方形で水平 方向にやや内側に張り出す跡 が付く。口縫部はやや平坦 をなす。 | 口縫部ヨコナダ。内面ナダ。 外面クロナダ後指オサエ。 | 石英、雲母、結晶 片岩。 | 灰褐色 | 外向型付着 中世 |
| 562 | 瓦質火鉢 | 口径 高 (5.6) | 36.0 5.6 | 体部内側。口縫部丸く仕 上げる。 | 内面削離。外面クロナダ後 壁押捺脱(焼化)。 | 石英、雲母。微砂 粒を多く含む。 | 灰褐色 | |
| 563 | 須恵質 こね鉢 | 口径 高 底径 (2.2) 9.2 | 2.2 9.2 | 体部外方に開きながらやや内 側する。底部平坦。 | 内外面クロナダ。 | 石英、長石、雲母。 板砂粒を多く含む。 | 青灰化 | 京焼系 |
| 564 | 須恵質 こね鉢 | 口径 高 (2.8) | 23.4 2.8 | 口縫部はやや上下に凹張。 縫合はわずかに丸みを持つ。 | 内外面クロナダ。 | 長石、雲母、砂岩。 砂粒を含む。 | 灰褐色 | 口縫部擦付着 束縛系 |
| 565 | 須恵質 こね鉢 | 口径 高 (3.7) | 32.0 3.7 | 口縫部上面にやや抵抗し縫 合を丸く仕上げる。 | 内面クロナダ、ナダ。外面 クロナダ。 | 長石、雲母、砂岩。 砂粒を多く含む。 | 灰褐色 | 束縛系 |
| 566 | 須恵質 楕 | 口径 高 底径 (2.8) | 23.6 2.8 | 体部内側。内側には青滑波 文。外側には椅子目状のタ キを施す。 | 内面青滑波文。外面格子口夕 タキ。 | 長石、砂岩。微砂 粒を含む。 | 灰褐色 | 体部片 |
| 567 | 陶器模 | 口径 高 (5.2) | 23.6 5.2 | 外部宣意的。口縫部直立。口 縫部下面に抵抗し、先端部 はやや尖る。体部内側に6条 以上を半位とする捲條条線。 | 内外面クロナダ。内面捲 目(2条/cm、3条/cm)。 | 砂粒を小量含む。 | 灰褐色 | 備前系 |

第38表 田宮遺跡 E 区 出土遺物觀察表 土器・陶器等(4)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態の特徴 | 成形・技法 | 胎土 | 色調 | 備考 |
|-----|---------|------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|--------------------------------|---------------------|--------|-----------------|
| 568 | 陶器 摺鉢 | 器高 底径 (6.8) 11.6 | 底部より直線的に立ち上がる。内部内面に7条単位以上の被接条筋。 | 内外面クロナデ。内面擡目(3条/cm)。 | 砂粒を小量含む。 | 灰白色 | 備考系 |
| 569 | 陶器 砂鉢 | 器高 底径 (4.0) 8.6 | 底部より真っ直ぐ斜めに立ち上がる。 | 内外面施釉(灰釉)。見込部砂目供。外向無鉢。 | 砂粒を含む。 | に赤い黄褐色 | 肥前系(唐津) |
| 570 | 陶器 内付 | | 底部から外部へと直角に立ち上がる。 | 外腹施鉢(格)。外向底部平理延貼付。目痕? | 消失。 | 灰白色 | 瀬戸・美濃系(磁部) |
| 571 | 陶器 灰片 | 口径 器高 (7.8) (3.6) | 底部より直線的に立ち上がる。口標部やや丸く仕上げる。 | 内外面施鉢(灰釉)。 | 微砂粒を含む。 | 灰白色 | 口縁部延付瀬戸・美濃系(瀬戸) |
| 572 | 陶器 大目茶碗 | 器高 底径 (1.3) 4.3 | 高台は削り出し高台である。 | 内向施釉(灰釉)。外向無釉。 | 微砂粒を少量含む。 | 灰白色 | 瀬戸・美濃系(瀬戸) |
| 573 | 陶器 脼 | 口径 器高 底径 (12.4) 5.0 4.4 | 底部より内側しながら立ち上がり、口縁部は丸く仕上げる。 | 内面上に絞付(辻連繩)。高台張り。全面貫入。 | 精良。 | 淡黄色 | 京・信楽系 |
| 574 | 陶器 脼 | 器高 底径 (5.1) 4.4 | 高台から口縁にかけて丸く継ぎやかに削出した脚部をもつ。折筋。 | 内外面施釉(内面施釉、外向白釉)。 | 長石・雲母・砂岩。微砂粒を含む。 | 黄褐色 | 肥前系(唐津) |
| 575 | 陶器 脼 | 口径 器高 底径 (12.6) 2.8 4.0 | 高台から口縁部にかけて継ぎやかに弯曲した脚部をもつ。見込部目張あり。 | 内向施釉(白釉)。高台張り。脚部による飛乗(裂)。外向無釉。 | 微砂粒を少量含む。 | に赤い褐色 | 肥前系(唐津) |
| 576 | 陶器 脼 | 口径 器高 底径 (10.8) 6.9 4.0 | 内壁・なごら底部より立ち上がり休部中央より外反する。口縁部やや丸く仕上げる。 | 内外面施釉(内面透明強、外向青釉)。高台部無釉。 | 精良。 | 灰白色 | 外青磁 肥前系(伊万里) |
| 577 | 陶器 脼 | 器高 底径 (1.5) 5.6 | 底部よりやや内脇。墨緑色物をやや埋めに施す。 | 内外面施釉(青釉)。高台内装。 | 微砂粒を含む。 | に赤い黄褐色 | 青磁 |
| 578 | 陶器 脼 | 口径 器高 (13.6) (4.1) | 器壁薄く、休部より口縁部は継ぎやかに内壁しながら立ち上がる。口縁部は丸く仕上げる。 | 内外面染付(内面墨緑、外向草花)。 | 精良。 | 灰白色 | 中国系 吉州 |
| 579 | 磁器 脼? | 器高 底径 (1.0) 2.8 | 底部・高台部器壁薄く仕上げる。 | 内外面染付(見込部花、高台配圓窓)。累付部無釉。 | 精良。 | 灰白色 | 中国系 吉州 |
| 580 | 土師質土器 | 長径 幅 重量 (7.0) 4.8 74.92 | 大型の紡錘形の管状土器である。棒に粘土を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 石英・雲母・赤色斑紋。砂粒を少量含む。 | に赤い褐色 | |
| 581 | 土師質土器 | 長径 幅 厚み 穿孔径 重量 (4.4) 1.6 1.4 0.4 8.06 | 紡錐形の管状土器。棒に粘土を巻き付けて成形。 | 指オサエ、ナデ。 | 石英・雲母・赤色斑紋。精良。 | に赤い黄褐色 | |
| 582 | 土師質土器 | 長径 幅 厚み 穿孔径 重量 (2.3) 1.5 1.5 0.8 3.96 | 紡錐形の管状土器。棒に粘土を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 石英・雲母・赤色斑紋。微砂粒を含む。 | に赤い赤褐色 | |

第39表 田宮遺跡 E 区 出土遺物觀察表 石製品・金属製品

| 番号 | 器種 | 法量 | | | | 備考 |
|-----|---------|-------|-------|-------|-------|------------|
| | | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重(g) | |
| 521 | 石製品砥石 | 5.0 | 3.4 | 0.7 | 19.07 | |
| 537 | 石製品火打ち石 | 4.3 | 3.6 | 2.8 | 52.74 | 石英 |
| 583 | 鍛貨 | 2.5 | | | 2.33 | 喜定通字(1208) |

第40表 田宮遺跡 F-1区 出土遺物観察表 土器・陶磁器等(1)

| 番号 | 器種 | 基盤(cm) | 形態的特徴 | 成形・技法 | 胎土 | 色調 | 備考 | |
|-----|---------|----------------------------|----------------------------------|-------------------------------------------------------------|----------------------------------|-------------------------|-------------------|-----|
| 584 | 土師質土鍤 | 長径 幅 厚み 穿孔径 重量 | 3.7 1.1 1.2 0.4 3.62 | 紡錘形の管状土鍤。棒に胎土を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 石英・長石・雲母・赤色斑粒。微砂粒を含む。 | 褐色 | |
| 585 | 上師質土鍤 | 長径 幅 厚み 穿孔径 重量 | 3.2 1.1 1.1 0.4 2.51 | 紡錘形の管状土鍤。棒に胎土を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 石英・雲母・精良。 | 褐色 | |
| 586 | 瓦質羽釜 | 口径 器高 | 29.2 (7.3) | 直立する口縁部に水平方向に張り出す脚が付く。体部や内側、口縁端部はやや内側に傾斜して尖る。 | 内外面回転ナデ。外面体部ナデ、指オサエ。 | 長石・砂岩。大きな砂粒を多く含む。 | 灰白色 | |
| 587 | 土師質杯 | 器高 底径 | (1.9) 8.2 | 底部より体部にかけて直線的に立ち上がる。 | 内外面回転ナデ。外面底部回転ナラ切り。 | 石英・長石・雲母・赤色斑粒。微砂粒を少量含む。 | 内にぶい褐色 外にぶい黄褐色 | |
| 588 | 土師質皿 | 口径 器高 底径 | 9.0 1.1 8.0 | 口縁部直線的で端部は丸い。 | 内面回転ナデ後ナデ。外面回転ナデ。 | 石英・雲母・赤色斑粒。微砂粒を含む。 | にぶい黃褐色 | |
| 589 | 土師質碗 | 口径 器高 | 11.2 (2.8) | 体部外方に開いた後やや内側。口縁部や外反。 | 内外面回転ナデ。外面体部下半指オサエ。 | 石英・長石・雲母・チャート。微砂粒を含む。 | 内灰白色 外浅黃褐色 | |
| 590 | 瓦質碗 | 口径 器高 | 13.2 4.0 | 体部や内側。口縁部やや厚めで外反。口縁端部やや尖る。 | 内外面回転ナデ。外面体部下半指オサエ。 | 長石・砂岩。微砂粒を少量含む。 | 灰色 | |
| 591 | 瓦質高台付碗 | 口径 器高 底径 | 13.4 4.0 4.7 | 底盤から内側しながら立ち上がる。口縁端部はやや尖る。外向面部には多くの指オサエ坑がある。底盤高台付で高台部は削られる。 | 内面ロクロナデ。外面ロクロナデ後指オサエ。貼付高台。 | 石英・雲母。微砂粒を含む。 | 灰色 | 相模型 |
| 592 | 須恵質こね鉢 | 器高 底径 | (5.0) 14.0 | 体部は内凹気味に立ち上がる。 | 内面ナデ、指オサエ。外面指オサエ。 | 長石・砂岩。砂粒を多く含む。 | 灰色 | 東播系 |
| 593 | 上師質土鍤 | 長径 幅 厚み 穿孔径 重量 | 3.6 1.0 1.0 0.3 3.14 | 紡錘形の管状土鍤。棒に胎土を巻き付けて成形。 | 指オサエ後ナデ。 | 石英・雲母。 | にぶい褐色 | |
| 594 | 土師質土鍤 | 長径 幅 厚み 穿孔径 重量 | 4.0 1.2 1.1 0.3 4.16 | 紡錘形の管状土鍤。棒に胎土を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 石英・雲母・精良。 | 灰褐色 | |
| 595 | 土師質土鍤 | 長径 幅 厚み 穿孔径 重量 | 3.0 1.1 1.0 0.3 2.22 | 紡錘形の管状土鍤。棒に胎土を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 石英・雲母・精良。 | 明赤褐色 | |
| 596 | 土師質杯 | 口径 器高 | 12.0 (3.1) | 底部より内側しながら立ち上がる。体部中位より口縁部はやや外反し口縁端部は丸い。底部内面やや凸凹有り。 | 内外面回転ナデ。 | 石英・長石・雲母・赤色斑粒。砂粒を含む。 | にぶい褐色 | |
| 597 | 上師質皿 | 口径 器高 底径 | 7.0 1.3 5.6 | 底部より直線的に立ち上がる。「縦筋」やや外反。口縁端部は丸い。底部内面やや凸凹有り。 | 内外面回転ナデ。外面底部回転ナラ切り。 | 石英・雲母・赤色斑粒。微砂粒を多く含む。 | にぶい黃褐色 | |
| 598 | 土師質皿 | 口径 器高 底径 | 8.5 1.1 7.1 | 口縁部内側し、端部やや尖る。底部内面凹凸あり。 | 内外面回転ナデ後ナデ。外面底部回転ナラ切り(摩滅)。 | 石英・雲母・晶綿片岩・赤色斑粒。砂粒を含む。 | 内褐色 外にぶい褐色 | |
| 599 | 土師質皿 | 口径 器高 底径 | 7.4 1.3 5.8 | 底部より外反しながら立ち上がる。口縁端部は丸く、底盤外側凹凸有り。 | 内外面回転ナデ。見込部ナデ。外面底部回転ナラ切り後指オサエ。 | 石英・雲母・赤色斑粒。 | 内にぶい黃褐色 外淡黃褐色 | |
| 600 | 土師質皿 | 口径 器高 底径 | 7.6 1.5 3.2 | 底部よりやや内側しながら緩やかに立ち上がる。口縁端部は丸く、底盤外側凹凸有り。 | 内外面回転ナデ。見込部指オサエ。外面底部回転ナラ切り後指オサエ。 | 長石・雲母・砂岩。 | 内褐褐色 外灰黃褐色 | |
| 601 | 上師質高台付碗 | 口径 器高 | 10.9 (3.6) | 縦筋全周に溝有し、体部中位にかけやや直線的に立ち上がり。中位より上位にかけ直線的に立ち上がる。口縁端部は丸い。 | 内面回転ナデ。外面回転ナデ、指オサエ。 | 石英・長石・雲母。微砂粒を含む。 | 灰白色 | |

第41表 田宮遺跡 F-1区 出土遺物觀察表 土器・陶磁器等(2)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態の特徴 | 成形・技法 | 胎土 | 色調 | 備考 |
|-----|-------|-------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|------------------------------|------------------|--------|
| 602 | 土器質鏡 | 口径 32.6 器高 (10.8) | 「く」の字状の口縁。口縁部 面は丸い。体部内凹。 | 内面ハケ(5本/cm)。外面口 縁部四輪ナデ。外面脚部へ体 部上半指オサエ。外面脚部下 半ハケ(5本/cm)。 | 長石・雲母・砂岩。 砂粒を多く含む。 | 内にぶい黄褐色 外灰黃褐色 | 外面糊付着 |
| 603 | 瓦質 | 口径 14.0 器高 4.2 底径 5.7 | 底部より内凹しながら立ち上 がる。「口縁部や肥厚し、口 縁端部はやや尖る。」 | 内面ロクロナデ後ハケ(12本/ cm)後指オサエ。外面ロクロ ナデ後指オサエ。貼付高台。 | 石英・雲母。砂粒 を含む。 | 内灰褐色 外灰白色 | |
| 604 | 瓦質鏡 | 口径 16.0 器高 (4.1) | 体部内凹。口縁端部はやや尖 る。 | 内外面ロクロナデ。外面体部 指オサエ。 | 石英・雲母・赤色 斑紋。 | 灰白色 | |
| 605 | 瓦質羽釜 | 口径 23.0 器高 (3.4) | 直立する口縁部に、前面方形 の型く両が付く。口縁端部を やや内側に広げ平底に仕上げ る。 | 内外面ロクロナデ。接合痕有 り。 | 石英・長石・雲母。 微砂粒を多く含む。 | 内灰白色 外灰白 | 外面糊付着 |
| 606 | 瓦質蓋 | 口径 37.8 器高 (4.5) | 脚部から口縁部にかけて大き く外曲。口縁端部上面に膨張 する。 | 口縁部ロクロナデ。内面脚部 ハケ(12本/cm)。内面体部板 ナデ。外面体部ロクロナデ後 ハケ(3本/cm)。 | 石英・長石・雲母。 砂粒を多く含む。 | 内灰褐色 外浅黄色 | |
| 607 | 土師質土鍤 | 長径 2.7 幅 1.2 厚み 1.1 鼻孔径 0.3 重量 2.82 | 紡錘形の管状土鍤。棒に軽土 を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 石英・雲母。 精良。 | におい黄褐色 | |
| 608 | 土師質土鍤 | 長径 3.1 幅 1.0 厚み 0.9 鼻孔径 0.4 重量 1.99 | 紡錘形の管状土鍤。棒に軽土 を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 石英・長石・雲母・ 赤色底粒。精良。 | 褐色 | |
| 609 | 土師質皿 | 口径 12.2 器高 2.3 底径 7.6 | 体部直線的に立ち上がる。口 縁端部はやや丸い。 | 内外面回転ナデ。 | 長石・雲母・砂岩。 精良。 | 内灰褐色 外にぶい褐色 | |
| 610 | 土師質鏡 | 口径 11.3 器高 (3.3) | 体部内凹し、口縁部にかけて やや外反す。体部外側中位 に成形による擦あり。 | 内外面回転ナデ。 | 長石・雲母・砂岩。 砂粒を多く含む。 | 浅黄褐色 | |
| 611 | 瓦質鏡 | 口径 14.0 器高 (3.3) | 底部より直線的に立ち上がり る。口縁端部はやや外反。口縁端 部はやや尖る。 | 内面ロクロナデ。外面ロクロ ナデ後指オサエ。 | 石英・雲母・赤色 斑紋。微砂粒を多 く含む。 | 灰色 | 和室型 |
| 612 | 磁器碗 | 口径 16.0 器高 7.0 底径 4.8 | 体部や外側しながら立ち上 がる。「口縁端部はやや外反 し、先端はやや丸い。体部に ややくい縫合弁を持つ。全面 に濃緑色釉を施す。」 | 内外面施釉(青緑)。外面体 部蓮弁文。高台部無釉。 | 精良。 | 灰白色 | 龍泉窯系青緑 |
| 613 | 磁器碗 | 口径 15.0 器高 (5.5) | 「体圓の器」。口縁部やや外反 し端部はやや丸い。体部に濃 緑色釉を施す。 | 内外面施釉(青緑)。外面体 部蓮弁文。 | 精良。 | 灰色 | 龍泉窯系青緑 |
| 614 | 土師質 | 器高 (1.3) 底径 4.0 | 底部より直線的に立ち上 がる。口縁端部はやや丸く仕 上げる。底部には断面二角形 の高台竹ぐく。 | 内外面回転ナデ。貼付高台。 | 長石・雲母・砂岩。 砂粒を含む。 | 淡黄褐色 | |
| 615 | 土師質杯 | 口径 12.4 器高 2.7 底径 10.6 | 底部より直線的に立ち上 がる。口縁端部はやや丸く仕 上げる。内面底盤凹凸有。 | 内外面回転ナデ(摩滅)。 | 石英・雲母・赤色 斑紋。 | 内にぶい黄褐色 外橙色 | |
| 616 | 土師質皿 | 口径 7.2 器高 (1.3) | 「口縁部は外反。口縁部底盤部 は丸い」。器壁は高い。 | 内外面回転ナデ。外面底部回 転ヘアリ。 | 長石・雲母・砂岩。 微砂粒を含む。 | 内にぶい黄褐色 | |
| 617 | 土師質 | 口径 12.4 器高 3.6 底径 5.0 | 体部内凹。口縁部底盤部は 丸い。周縁合形の高台が貼 付されられる。 | 内外面回転ナデ。外周体部指 オサエ。貼付高台。 | 石英・雲母・赤色 斑紋。砂粒を多く 含む。 | 内にぶい黄褐色 | |
| 618 | 土師質脚部 | 長径 8.3 厚み 2.7 | 断面長円形。基部回曲。 | 指オサエ後ナデ。 | 長石・雲母・砂岩。 砂粒を多く含む。 | 灰黃褐色 | |
| 619 | 土師質上鍋 | 口径 器高 (11.5) | 体部や内側「口縁部は「く」 の字状。口縁端部を丸く仕 上げる。」 | 内面指オサエ後ヨコハケ(8 ~9本/cm)。外面指オサエ後 タテハケ(8~9本/cm)。 | 石英・長石・雲母・ 赤色斑紋。 | 内にぶい黄褐色 外灰褐色 | 外面糊付着 |
| 620 | 土師質 | 器高 底径 (1.0) 3.8 | 体部大きく外方に開き内側す る。底部断面三角形の退化した 両耳が付く。 | 内外面回転ナデ。貼付高台。 | 石英・長石・雲母。 微砂粒を含む。 | 内にぶい黄褐色 外黄灰色 | |
| 621 | 磁器碗 | 口径 器高 (2.9) | 「口縁部直線的」。口縁端部は やや尖る。体部外側に縫合弁文 を施す。やや濃い緑色の釉を 施す。 | 内外面施釉(青緑)。外面体 部蓮弁文。 | 精良。 | 灰白色 | 龍泉窯系青緑 |
| 622 | 土師質皿 | 口径 9.6 器高 1.5 底径 8.0 | 底部よりやや内側しながら立 ち上がる。口縁端部は丸くお さめる。 | 内外面回転ナデ。 | 石英・雲母・赤色 斑紋。微砂粒を含 む。 | 褐色 | |

第42表 田宮遺跡 F-1区 出土遺物観察表 土器・陶磁器等(3)

| 番号 | 器種 | 法寸 (cm) | 形態の特徴 | 成形・技法 | 胎土 | 色調 | 備考 |
|-----|--------|----------------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------|------------------|
| 623 | 土師質鏡 | 口径 器高 (2.8) | 9.8 1.3 1.3 1.3 4.50 | 体部より内側に、口縁部やや 断面厚く、口縁端部をやや平 追しに仕上げる。 | 内外面西面ナデ。 | 長石・雲母・砂岩。 砂粒を含む。 | 浅黄褐色 |
| 624 | 土師質土鏡 | 長径 幅 厚み 穿孔径 重量 | (3.4) 1.3 1.3 0.4 4.50 | 纺錐形の管状土鏡。棒に粘土 を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 石英・雲母。 精良。 | にぶい褐色 |
| 625 | 丸質碗 | 口径 器高 (3.0) | 13.0 7.7 2.2 | 内壁しながら立ち上がり、口 縁部は盛厚く、端部は尖る。 | 内外面ロクロナデ。外面体部 下半指オサエ。 | 長石・雲母。 | 灰白色 |
| 626 | 土師質脚部 | 長径 厚み | 7.7 2.2 | 断面円形。身體直線的。下端 部や基部に屈曲。 | 指オサエ後ナデ。 | 石英・長石・雲母。 砂粒を多く含む。 | 黄褐色 |
| 627 | 土師質杯 | 器高 底径 | (1.4) 8.0 | 砂盃薄く底部やや内湾。 | 内外面回転ナデ。見込部ナデ。 外面底部回転糸切り。 | 石英・雲母・赤色 斑状。砂粒をわずかに含む。 | 褐色 |
| 628 | 土師質杯 | 口径 器高 底径 | 10.6 2.8 9.4 | 口縁部直線的で端部はやや尖 る。 | 内外面回転ナデ。外面底部回 転糸切り。 | 石英・雲母・赤色 斑状。砂粒を少量含む。 | にぶい黄褐色 |
| 629 | 土師質皿 | 口径 器高 底径 | 8.0 1.4 6.0 | 口縁部直線的で端部は丸い。 底盤前面凸凹有り。 | 内外面回転ナデ。見込部ナデ (摩滅)。外面底面部底盤。 | 石英・雲母・結晶 片岩・赤色斑状。 | 褐色系 |
| 630 | 土師質鏡 | 口径 器高 (2.3) | 10.6 29.2 (3.9) | 体部中位にかけや直線的に 立ち上がり、中位より上位に かけて緩和的に立ち上がる。 口縁部は丸い。 | 内外面回転ナデ。 | 石英・雲母・赤色 斑状。 | 青褐色系 |
| 631 | 土師質鏡 | 口径 器高 | 29.2 (3.9) | 「く」の字状の口縁。口縁部 平面を半円に仕上げる。 | 内面ハケ (摩滅)。外面口縁 部回転ナデ。外面頭部指オサ エ。 | 石英・長石・雲母・ 砂岩。砂粒を多く含む。 | にぶい褐色 |
| 632 | 丸質盤 | 口径 器高 底径 | 8.0 1.4 5.8 | 底部より内側しながら立ち上 がる。口縁端部はやや尖る。 | 内外面ロクロナデ。外面底部 指オサエ後ナデ。 | 長石・砂岩。 | 灰白色 |
| 633 | 土師質脚部 | 長径 厚み | 4.8 1.3 | 断面橢円形。身體直線的。下 端部に屈曲。 | 指オサエ後指ナデ。 | 石英・雲母・微砂粒 をわずかに含む。 | 青褐色系 |
| 634 | 丸質羽釜 | 口径 器高 (4.4) | 31.6 (4.4) | 断面橢円形の短い鶴が付く。口 縁部は丸みを持つ。 | 内外面ロクロナデ。外面体部 ハケ目 (摩滅)。 | 長石・砂岩。 | 灰黄色 |
| 635 | 須彌質こね鉢 | 口径 器高 (3.6) | 29.6 (5.1) | 口縁部を押出し、先端部尖る。 詰厚やや深い。 | 内外面ロクロナデ。 | 長石・雲母・砂岩。 砂粒を多く含む。 | 東播系 |
| 636 | 須彌質こね鉢 | 口径 器高 (5.1) | 33.6 1.1 | 体部直線的に立ち上がり、口 縁部は「く」の字状に外側。 上端部は尖る。下端部に重 ね突起。 | 内外面ロクロナデ。外面体部 ナデ。 | 長石・雲母・砂岩。 砂粒を含む。 | 東播系 |
| 637 | 磁器皿 | 口径 器高 (2.3) | 11.4 2.9 1.2 1.1 0.4 3.45 | 体部やや内脣。口縁端部はや や外反し、先端部やや尖る。口 縁部口元。 | 内外面施釉 (白組)。口縁部 粘泥。 | 精良。 | 白磁 |
| 638 | 磁器皿 | 口径 器高 (2.1) | 10.6 2.9 1.2 1.1 0.4 3.45 | 体部直線的。口縁端部は平 坦。口縁部口元。 | 内外面施釉 (白組)。口縁部 粘泥。 | 精良。 | 白磁 |
| 639 | 土師質上鏡 | 長径 幅 厚み 穿孔径 重量 | 2.9 1.2 1.1 0.4 3.45 | 纺錐形の管状土鏡。棒に粘土 を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 石英・雲母・微砂 粒を多く含む。 | 褐色 |
| 640 | 土師質上鏡 | 長径 幅 厚み 穿孔径 重量 | 3.8 1.3 1.3 0.4 5.57 | 纺錐形の管状土鏡。棒に粘土 を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 石英・雲母・赤色 斑状。 | にぶい褐色 |
| 641 | 土師質上鏡 | 長径 幅 厚み 穿孔径 重量 | 4.5 1.1 1.2 0.4 5.48 | 纺錐形の管状土鏡。棒に粘土 を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 長石・雲母・砂岩。 微砂粒を多く含む。 | にぶい褐色 外にぶい黄褐色 |

第43表 田宮遺跡 F-2区 出土遺物観察表 土器・陶磁器等(1)

| 番号 | 器種 | 法寸 (cm) | 形態の特徴 | 成形・技法 | 胎土 | 色調 | 備考 |
|-----|------|-------------------|-------------------|-------------------------------------|-----------------------|--------------------|------------------|
| 642 | 土師質皿 | 口径 器高 (1.3) | 7.4 1.3 5.4 | 底部よりやや外反しながら立 上がり。口縁端部はやや丸 い。 | 内外面回転ナデ。外面底部回 転ナデ。 | 石英・長石・雲母・ 赤色斑状。 | 内浅黄褐色 外にぶい黄褐色 |

第44表 田宮遺跡 F-2区 出土遺物観察表 土器・陶磁器等(2)

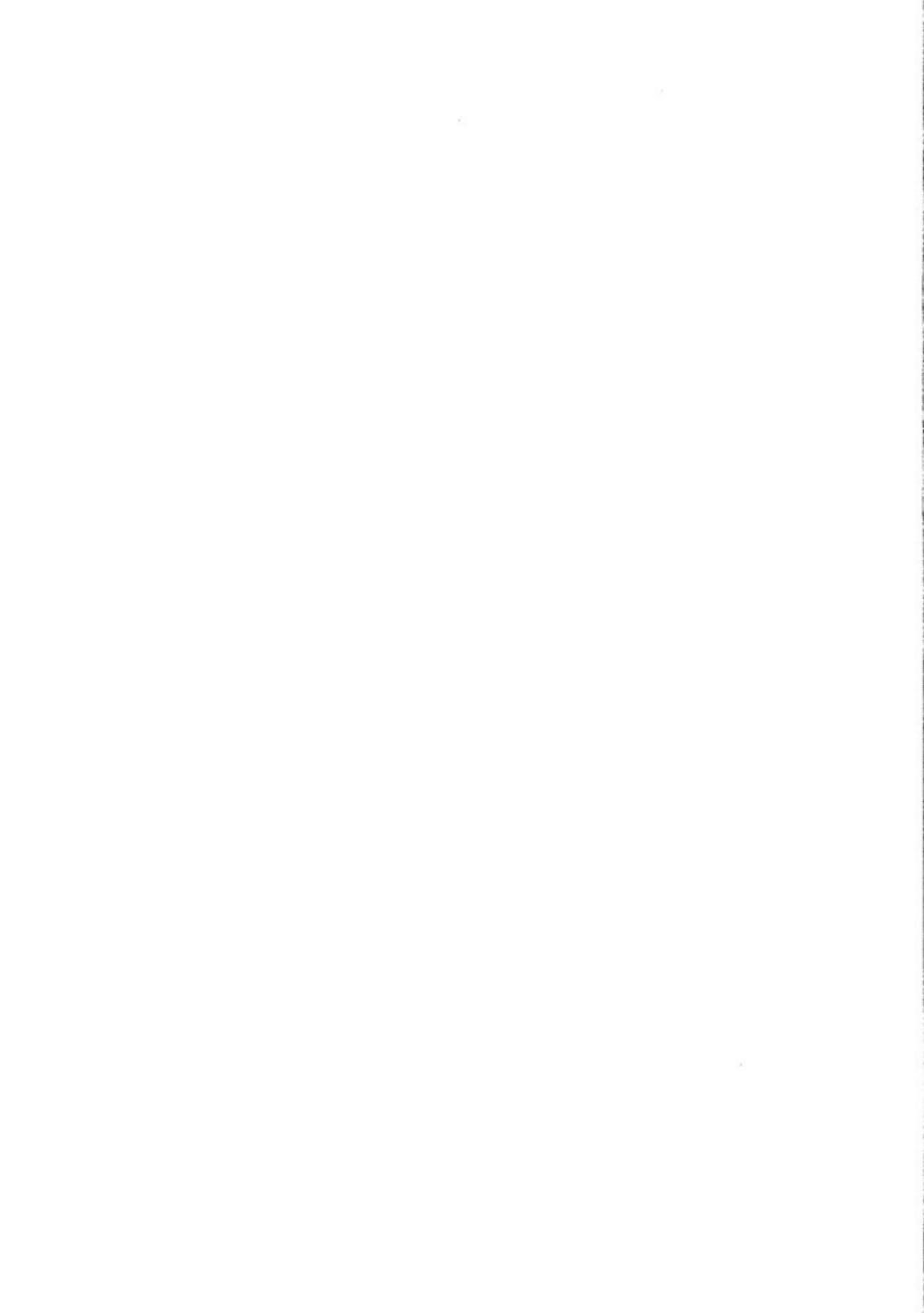
| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態の特徴 | 成形・技法 | 胎土 | 色調 | 備考 |
|-----|------------|-------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|------------------------------------|----------------------------|---------------|---------|
| 643 | 土師質鉢 | 口径 11.0 器高 (2.3) | 体部内凹。口縁部や外反する。 | 内外面圓軸ナデ。 | 石英・長石・赤色 斑粒。微砂粒を含む。 | 内浅黃褐色 外灰白色 | |
| 644 | 土師質羽器 | 口径 27.4 器高 (2.9) | 直立する口縁部に断面方形で 水平方向にやや變形の柄が付く。 口縁部は平坦でわずかに左右に弧張る。 | 内外面圓軸ナデ。 | 石英・長石・雲母・ 赤色斑粒。砂粒を含む。 | 内橙色 外褐色 | 外面体部壓付着 |
| 645 | 須恵質 こね鉢 | 口径 25.8 器高 (5.1) | 体部麻錆的に立ち上がり、口 縁部は「く」の字状。腹部 はやや丸い。 | 内外面ロクロナデ。 | 石英・長石・雲母・ 赤色斑粒。砂粒を多く含む。 | 灰色 | 東播系 |
| 646 | 須恵質 こね鉢 | 口径 33.2 器高 (7.8) | 口縁部や外反。口縁部上 下に大きく拡張し端面は丸く 仕上げる。 | 内外面ロクロナデ。 | 長石・砂岩。砂粒 を多く含む。 | 灰白色 | 東播系 |
| 647 | 土師質土管 | 口径 26.8 長径 (16.1) | | 内面圓軸ナデ、指オサエ。外 面回軸ナデ、ハケ (5本/cm)。 | 石英・長石・全雲 母・赤色斑粒。 | にぶい褐色 | 体部接合部 |
| 648 | 土師質土管 | 口径 29.0 長径 (41.7) | | 内面ナデ後指オサエ。外面回 軸ナデ、ハケ (9本/cm)。 | 石英・雲母。 | 内褐色 外灰褐色 | 内外面焼付着 |
| 649 | 土師質土管 | 長径 3.3 幅 1.1 厚み 1.0 穿孔径 0.2 重量 3.19 | 効鋸形の管状土管。棒に粘土 を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 微砂粒を含む。 | にぶい黄褐色 | |
| 650 | 土師質土管 | 長径 3.2 幅 1.1 厚み 1.1 穿孔径 0.4 重量 2.98 | 効鋸形の管状土管。棒に粘土 を巻き付けて成形。 | ナデ。 | 石英・雲母。微砂 粒を含む。 | 褐灰色 | |

第45表 田宮遺跡 F区 出土遺物観察表 石製品

| 番号 | 器種 | 法 尺 | | | | 備 考 |
|-----|---------|-------|-------|-------|-------|-----|
| | | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重(g) | |
| 651 | 石製品火打ち石 | 4.6 | 4.4 | 2.9 | 72.71 | |



写 真 図 版





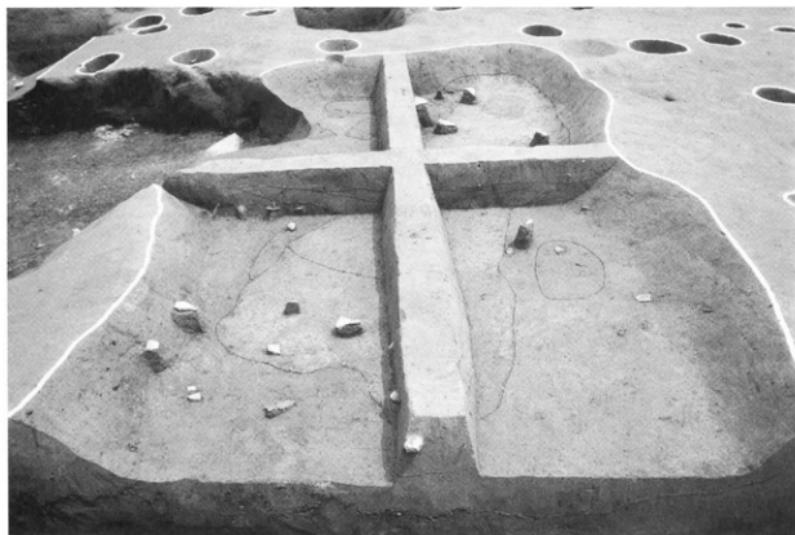
A区 調査前風景（西より）



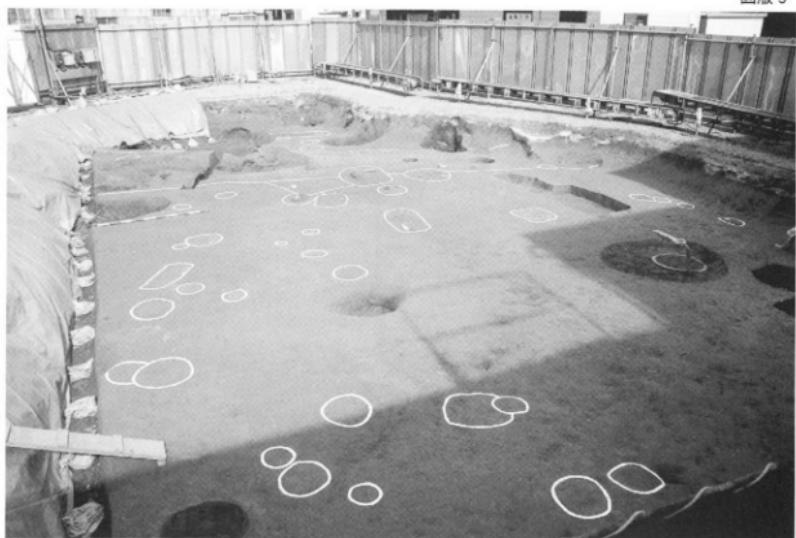
A区 第1遺構面掘削状況（東より）



A 区 第 1 遺構面検出状況



A 区 SX1002 遺物出土状況



A 区 第2遺構面検出状況



A 区 SD2001 遺物出土状況



A 区 SD2001 備前擣鉢出土状況



A 区 SD2001 完掘状況



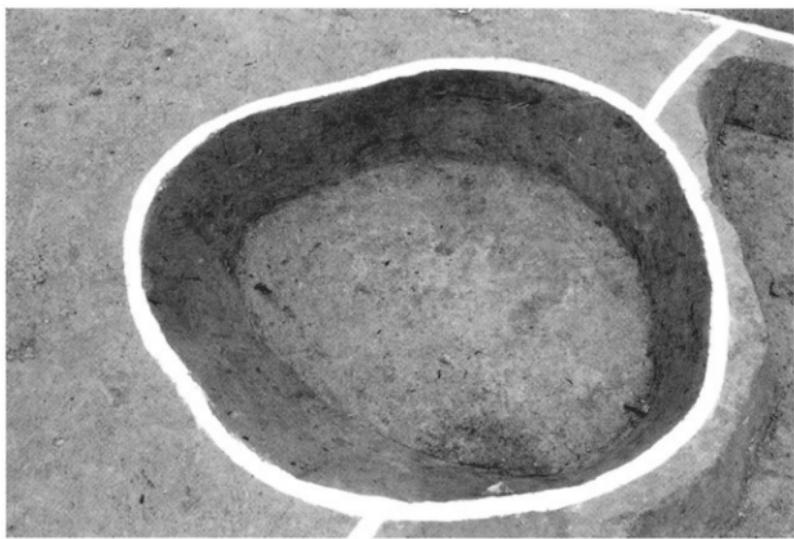
A区 SK2006 遺物出土状況



A区 SK2007 遺物出土状況



A 区 SK2007 遺物出土状況



A 区 SK2007 完掘状況



A 区 SR3001 遺物出土状況



A 区 第 3 遺構面完掘状況



B 区 調査前風景



B 区 機械掘削状況

図版 9



B-1区 第2遺構面完掘状況



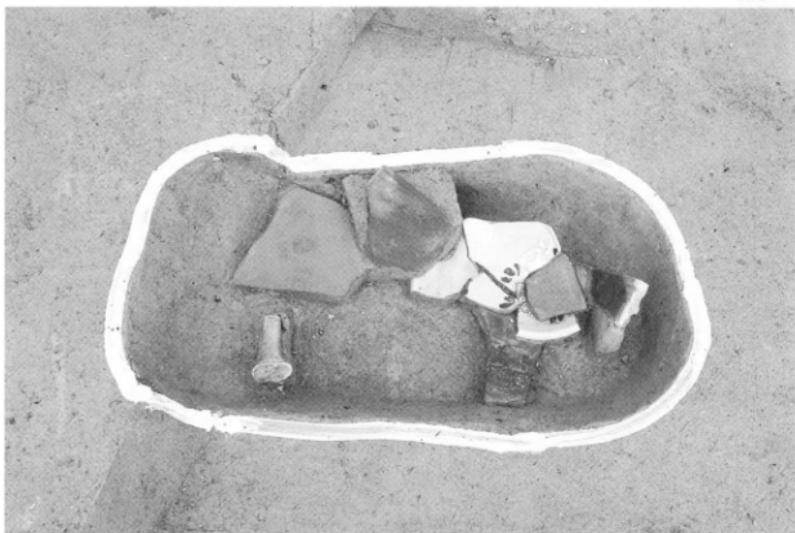
B-2区 第2遺構面完掘状況



B-3区 第1遺構面完掘状況（西より）



B-3区 第2遺構面完掘状況（東より）

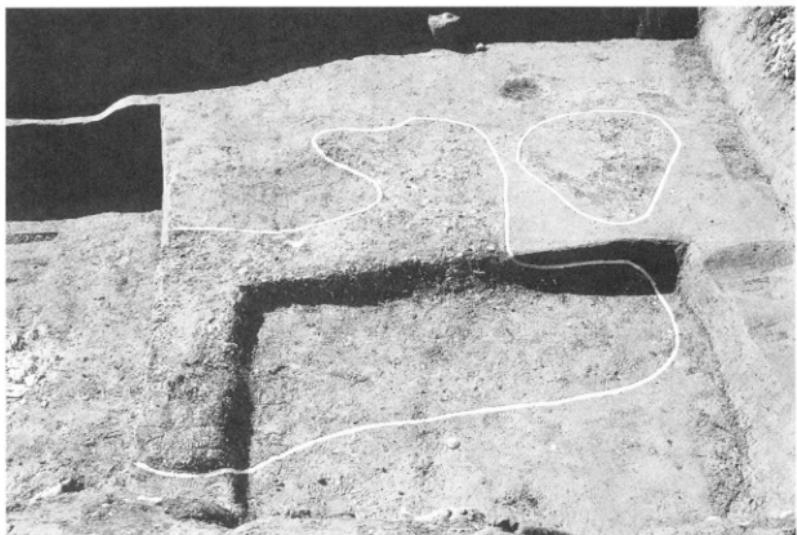


B-3区 SK1017 遺物出土状況



B-1区 SD2102 小柄出土状況

図版12



B-2区 SD2101 貝検出状況



B-2区 SD2101 完掘状況



C区 調査前風景（東より）



C区 重機掘削状況（北より）



C区 人力掘削状況



C区 作業状況



C区 第1遺構面（南側）完掘状況



C区 第1遺構面（南側）完掘状況



C区 第1造構面（北側）完掘状況



C区 第1造構面（北側）完掘状況



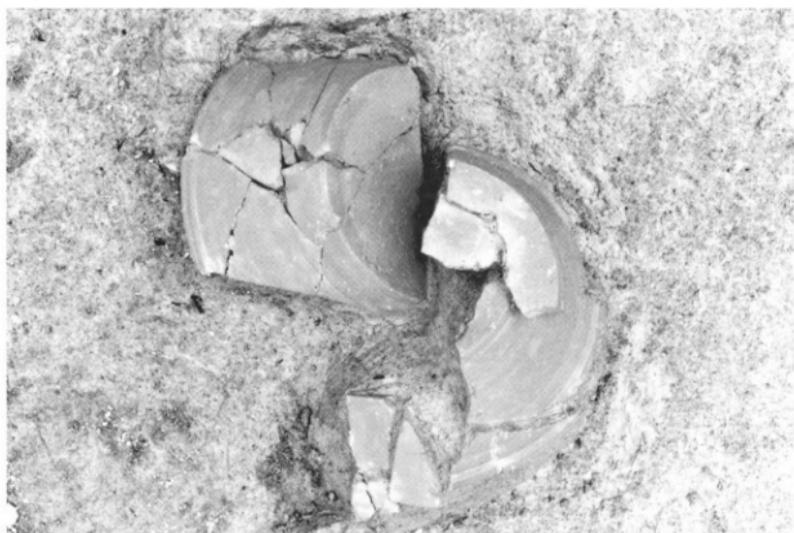
C区 第2遺構面（北側）完掘状況



C区 第2遺構面（北側）完掘状況



C 区 第1遺構面遺物出土状況



C 区 第1遺構面遺物出土状況



D・E区 調査前風景（東より）



E区 人力掘削状況（西より）

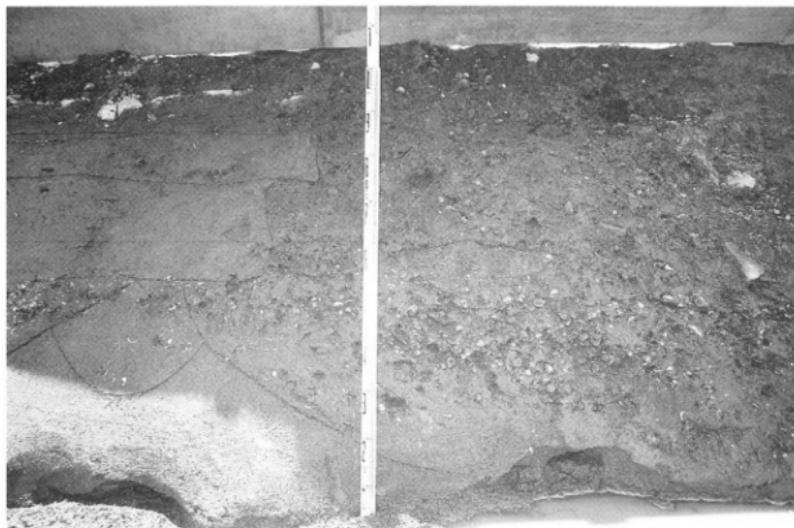


D区 西側完掘状況（南より）

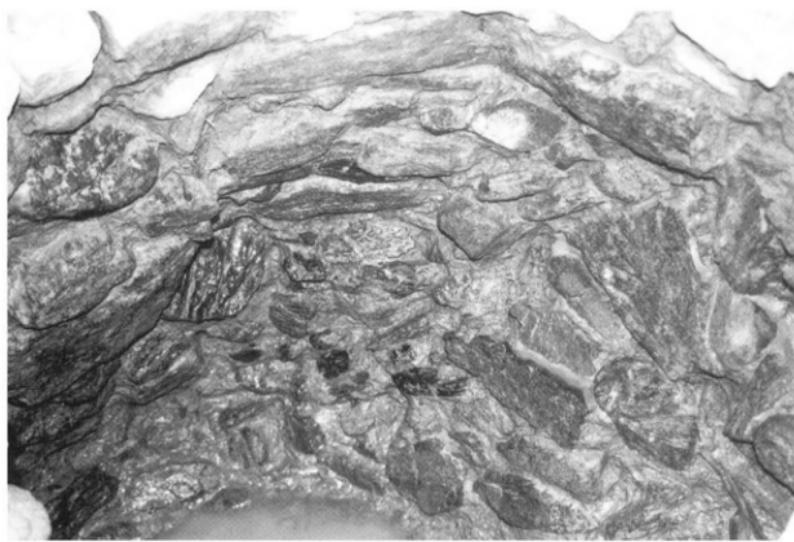


D区 東側完掘状況（東より）

図版21



D区 南壁土層断面（北より）



D区 SE1001断面（北より）